

第 20 回 尾瀬国立公園協議会（令和 3 年度）

令和 4 年 3 月 1 6 日（水）

1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

（ウェブ開催）

次 第

議事

- （１）「新・尾瀬ビジョン」に基づく取組状況について
- （２）「新・尾瀬ビジョン」の実現に向けた取組事例
 - ・ニホンジカ対策について（環境省）
 - ・第 4 次尾瀬総合学術調査の実施状況について（尾瀬保護財団）
 - ・尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会について（片品村）
 - ・ふくしま尾瀬の取組について（福島県）
 - ・新・尾瀬沼ビジターセンターについて（環境省）
 - ・尾瀬国立公園利用アクションプラン（案）の検討状況について（環境省）
- （３）その他

【配布資料】

- 資料 1－1 「新・尾瀬ビジョン」に基づく取組状況について
- 1－2 「新・尾瀬ビジョン」整理表 2021
- 資料 2－1 尾瀬国立公園ニホンジカ対策について
- 2－2 第 4 次尾瀬総合学術調査の実施状況について
- 2－3 ふくしま尾瀬の取組について
- 2－4 新・尾瀬沼ビジターセンターについて
- 2－5 尾瀬国立公園利用アクションプラン策定に向けたスケジュール
- 2－6 尾瀬国立公園利用アクションプラン検討に係る勉強会について
- 2－7 尾瀬国立公園利用アクションプランの構成イメージ
- 2－8 尾瀬国立公園利用アクションプラン（素案）
- 資料 3 携帯電話の通信環境の整備について

- 参考資料 1 尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会設置要綱
- 参考資料 2 利用満足度等アンケート調査の概要
- 参考資料 3 令和 3 年度尾瀬国立公園入山者数

第20回尾瀬国立公園協議会 出欠表

※敬称略、順不同

	所 属	氏 名		出欠	随行者
1	環境省関東地方環境事務所	所長	瀬川 俊郎	出席	
2	林野庁関東森林管理局計画保全部	部長	森山 昌人	出席	関東森林管理局 計画課長 杉崎 浩史 自然再生指導官 益子 好恵 会津森林管理署南会津支署 署長 黒木 尚 総括森林整備官 高木 晃
3	福島県生活環境部	主幹兼副課長	吉田 淳	出席	
4	栃木県環境森林部			欠席	
5	群馬県環境森林部	企画推進係長	西嶋 弘満	出席	主任 藤生 崇仁
6	新潟県県民生活・環境部	環境企画課 課長補佐	星野 航	出席	副参事 皆川 寛樹
7	檜枝岐村	村長	星 明彦	出席	
8	南会津町			欠席	
9	日光市			欠席	
10	片品村	村長	梅澤 志洋	出席	むらづくり観光課長 狩野 久良
11	魚沼市	生活環境課 副参事	星 裕美	出席	
12	公益財団法人尾瀬保護財団	事務局長	田中 佑典	出席	
13	三井物産(株)サステナリティ経営推進部 グローバル環境室	本州事業部長	泊 広信	出席	
14	東京電力リニューアブルパワー(株) 水力部水利・尾瀬グループ	課長	大江 一彦	出席	副長 菊池 史朗
15	東京パワーテクノロジー株式会社	常務取締役	森尻 謙一	出席	尾瀬林業事業所長 平石 忠一 同所環境保全GM 高野 尚之
16	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	理事	星 俊秀	出席	
17	南会津町観光物産協会館岩支部			欠席	
18	日光市観光協会湯西川・川俣・奥鬼怒支部			欠席	
19	片品村観光協会	専務理事	倉田 剛	出席	
20	魚沼市観光協会	事務局長	樺澤 正人	出席	
21	尾瀬山小屋組合 組合長		清水 秀一	出席	
22	尾瀬山小屋組合 副組合長			欠席	
23	尾瀬保護指導員福島県連絡協議会			欠席	
24	日本野鳥の会栃木県支部	副支部長	遠藤 孝一	出席	
25	片品山岳ガイド協会			欠席	
26	新潟県自然観察指導員の会	顧問	加瀬 由紀子	出席	
27	公益財団法人日本自然保護協会	参与	横山 隆一	出席	
28	一般財団法人自然公園財団			欠席	
29	尾瀬ガイド協会	会長代行	星野 正昭	出席	
30	福島大学	教授	長橋 良隆	欠席	
31	横浜国立大学大学院	教授	加藤 峰夫	出席	

事務局

	所属	氏名	
1	関東地方環境事務所国立公園課	課長	井上 綾子
2		課長補佐	青柳 信太
3		自然保護官	池田 一穂
4	関東地方環境事務所檜枝岐自然保護官事務所	国立公園管理官	桑原 大
5	関東地方環境事務所片品自然保護官事務所	自然保護官	石井 桃花
6		国立公園利用企画官	安類 智仁
7	公益財団法人日本交通公社	地域戦略室長・ 上席主任研究員	守屋 邦彦
8		主任研究員	後藤 健太郎
11	公益財団法人尾瀬保護財団	企画課長	白石 光伸
12		囑託	大澤 未奈

「新・尾瀬ビジョン」に基づく取組状況について

～令和 3（2021）年度の主な取組～

行動理念 「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」

みんなの尾瀬

～尾瀬の普遍の価値を広く発信し、尾瀬を愛する輪を広げていきましょう。～

視点④ 情報の効果的・効率的な発信

■ 認知度の向上／情報の提供

- ・ 魚沼市：新潟ルート等の尾瀬の魅力、ガイド育成の取組を市報で発信
- ・ 魚沼市観光協会：HP リニューアルし尾瀬の見どころ、モデルコース、アクセスページなど拡充
- ・ 尾瀬檜枝岐温泉観光協会・片品村観光協会・関東地方環境事務所：
柴咲コウさんが環境省環境特別広報大使の活動の一環として国立公園の魅力を YouTube で発信

みんなで守る

～かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、しっかりと次代に引き継いでいきましょう。～

視点③ 野生動物との軋轢の解消

■ ニホンジカによる被害の低減

- ・ 群馬県：研究見本園のシカ柵拡張
指定管理鳥獣捕獲等事業の捕獲頭数が 241 頭過去最多（11 月時点）

■ ツキノワグマとの共存

- ・ 尾瀬ガイド協会：クマ遭遇時のお客様への対応指針取りまとめ、会員に周知徹底
ツアー時に熊よけスプレー持参

みんなで楽しむ

～自然を損なわない楽しみ方を考えながら、みんなが訪れたくなる尾瀬にしましょう。～

視点③「楽しむための土台づくり」

■ 施設の整備

- ・ 檜枝岐村：会津駒ヶ岳登山道における擬木使用による長寿命化の検討
新たな寄付金の募集方法等について検討

まとめ

- ・ 構成団体が様々なメディアを活用して尾瀬の情報発信を継続的に行い、その方法も年々改善と工夫が重ねられており、より多くの方々に尾瀬を知っていただく機会が提供されているが、尾瀬に愛着を持っていただけの情報発信や仕組みになっているか検証も必要と思われる。
- ・ 尾瀬の自然資源を保全するうえで一番の脅威はニホンジカであり、「尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針」に基づき関係機関が捕獲や植生防護などの取組を行っているが、依然として植生への影響は低減しておらず、より一層の対策の強化が望まれる。
- ・ 令和 3 年はシーズン当初から開山したが、コロナ禍で入山者数は極めて低い水準となった。近年、入山者数の減少傾向が続いていたところでの入山者数の激減は、地域経済へ大きな影響を与えており、このままでは地域によって支えられていた尾瀬の管理水準が著しく低下し、国立公園としての資質や観光資源としての魅力が損なわれる恐れがある。
- ・ With コロナ・after コロナに対応した利用面の取組が急務であり、新・尾瀬ビジョンに掲げる尾瀬の強みを活かした保護と利用の好循環を図ることが必要である。

作成例

新・尾瀬ビジョン整理表

みんなの尾瀬	国		県				市町村						土地所有者			観光関係者					地元団体				NGO等																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27			28																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	関東地方環境事務所	関東森林管理局	福島県	栃木県	群馬県	新潟県	檜枝岐村	南会津町	日光市	片品村	魚沼市	(公財)尾瀬保護財団	三井物産(株)	東京電力H D (株)	東京P T (株)	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	南会津町観光物産協会	日光市観光協会	片品村観光協会	魚沼市観光協会	尾瀬山小屋組合	尾瀬保護指導員 福島県連絡協議会	日本野鳥の会 栃木県支部	片品山岳ガイド協会	新潟県自然観察指導員の会	日本自然保護協会	(一財)自然公園財団			尾瀬ガイド協会																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
凡例 達成度(自己評価) ◎...取組が特に進捗している ○...取組を実施している △...今後取組を予定している																													関連する計画等	関連する会議等																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
視点① 愛される尾瀬づくり																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
■尾瀬のファンづくり		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						

整理表の作成手順について

①各主体の取組を該当する「■今後の方向性」に合わせて列挙する。
※「・必要な取組」はあくまで例示であるため、この他にも該当する取組があれば追加可能。

②各取組の達成度に応じて自己評価を行う。
自己評価の基準は以下のとおりとする。

◎...取組が特に進捗している
・協議会で他の構成員に具体的な成果を報告できる。
・長年継続して実施しており、一定の成果を挙げている。
・取組が対外的にも認知されている。

○...取組を実施している
・会議等の構成員の一員や協力者として取組を実施している。
・取組を開始したばかりでまだ評価できる状況にない。
・取組は実施しているが、思うような成果は出ていない。
・課題が多く、対応に苦慮している。

△...今後取組を予定している
・関連する計画に取組の実施が位置付けられている
・実際に実施する予定がある(次年度の予算措置ができている等)。

空欄...達成度(自己評価)なし
・取組の予定はない
・取り組む立場にない など、上記に該当しない場合。

③関連する計画等があれば記載する(行政計画や基本方針など)。

④関連する会議等があれば記載する。

⑤完成した整理表を事務局に提出する。

新・尾瀬ビジョン整理表

みんなの尾瀬	国		県				市町村					土地所有者			観光関係者						地元団体				NGO等		関連する計画等	関連する会議等																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26			27																										
	関東地方環境事務所	関東森林管理局	福島県	栃木県	群馬県	新潟県	檜枝岐村	南会津町	日光市	片品村	魚沼市	(公財)尾瀬保護財団	三井物産(株)	東京電力H D (株)	東京P T (株)	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	南会津町観光物産協会	日光市観光協会	片品村観光協会	魚沼市観光協会	尾瀬山小屋組合	福島県連絡協議会	尾瀬保護指導員	日本野鳥の会栃木県支部	片品山岳ガイド協会	新潟県自然観察指導員の会			日本自然保護協会	尾瀬ガイド協会																									
凡例 達成度(自己評価) ◎...取組が特に進捗している ○...取組を実施している △...今後取組を予定している 黄色塗り潰し...前年度より評価が上がった 灰色塗り潰し...前年度より評価が下がった																																																							
視点① 愛される尾瀬づくり																																																							
■尾瀬のファンづくり																																																							
・新たな利用者の獲得																												○		○		○		○	△		○			○	○	○	-		○	○	○	-	○	-	-	◎	・尾瀬国立公園 標識ガイドライン	・各市町村各観光協会の関連会議	
・利用者満足度の向上によるリピーターの獲得																																																							
・外国人も利用しやすい尾瀬のあり方の検討																																																							
・障害者をはじめ様々な人のニーズへの対応																																																							
■尾瀬で学ぶ機会の拡大																												◎		○		◎	○	◎	○		○	○	○		○	◎	◎	-		○		○	-	○	-	-	○	・群馬県環境学習等推進行動計画・第2次南会津町環境基本計画・第二次魚沼市総合計画	・尾瀬環境学習推進協議会・ふくしま子ども自然環境学習推進協議会・尾瀬ガイド協会群馬支部
・学校団体による尾瀬での環境教育の推進																																																							
・企業の研修など、尾瀬を活用する新たな機会の拡大																																																							
視点② モデルとなる尾瀬づくり																																																							
■先進的な取り組みの推進																												○				○		○			○		○	△	△	○		-		△		○	-		-	-	△	・尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針	・片品村尾瀬交通対策連絡協議会 ・尾瀬国立公園シカ対策協議会
・地球環境に配慮した取り組みの推進																																																							
・全国的な共通課題に対する解決策の模索																																																							
・他地域の成功事例の収集や応用																																																							
視点③ 尾瀬を育てる仕組みづくり																																																							
■多様な主体の参加と連携促進																												◎		○		○	○	○	○		○		◎		○	◎		-		△	○	○	-	○	-	-	◎	・尾瀬国立公園協議会 ・尾瀬国立公園適正利用の推進に関する小委員会 ・尾瀬サミット ・尾瀬ガイド協会役員会理事会 ・片品村尾瀬交通対策連絡協議会	
・利用者や地域住民が管理運営に関われる機会の拡大																																																							
・地域間が連携した一体的で広域的な取り組みの推進																																																							
・すでにある仕組みを有効活用した関係者の意見交換の推進																																																							
・利用者や企業などのサポーターによるボランティアとしての活動への支援																																																							
・山小屋やビジターセンターなど現場からの声を対策に活かす仕組みの構築																																																							
■担い手の育成																												○		○		◎	○	○	△			○	○		◎		-		○	○	○	-	○	-	-	◎	・群馬県環境学習等推進行動計画・第2次南会津町環境基本計画		
・尾瀬を愛する次代の獲得と育成																																																							
・研修などによる知識と技術を学ぶ機会の拡大																																																							
■資金的支持の充実																																◎			△				○	○	○		-			○	○	-		-	-	△	・第2次南会津町環境基本計画		
・尾瀬の維持管理に必要な資金の現状把握																																																							
・利用者負担のあり方の検討																																																							
・活動への寄付などの呼びかけ																																																							
視点④ 情報の効果的・効率的な発信																																																							
■認知度の向上																												◎				○	○	○	○		○		○	○	○	○	-	◎	○	○	○	-	△	-	-	○			
・テレビや雑誌などメディアとの連携による情報の発信																																																							
・SNSなどのインターネットの活用																																																							
・情報を届けたいターゲットに応じた発信方法や発信内容の明確化																																																							
・歴史・伝統・文化を含めた尾瀬一帯にある多様な魅力の総合的な発信																																																							
■情報の提供																												○		○		○	◎	○	○		○	◎	○	○	○		○	-	○	◎		△	-		-	-	○		
・統一的で分かりやすい情報の発信方法の検討																																																							
・ウェブサイトなどでの情報公開の推進																																																							
視点⑤ 的確な分析																																																							
■基本情報の収集																												◎				◎		○	○		○	◎	○	○	○	○	-	○	△	○	○	-	△	-	-	△			
・尾瀬の強みと弱みの分析																																																							
・利用者の利用実態に関する情報の収集																																																							
・尾瀬を取り巻く状況の変化の把握																																																							

新・尾瀬ビジョン整理表

みんなで守る	国		県				市町村						土地所有者				観光関係者						地元団体				NGO等		関連する計画等	関連する会議等
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27			
	関東地方環境事務所	関東森林管理局	福島県	栃木県	群馬県	新潟県	檜枝岐村	南会津町	日光市	片品村	魚沼市	(公財)尾瀬保護財団	三井物産(株)	東京電力HD(株)	東京PT(株)	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	南会津町観光物産協会	日光市観光協会	片品村観光協会	魚沼市観光協会	尾瀬山小屋組合	尾瀬保護指導員 福島県連絡協議会	日本野鳥の会 栃木県支部	片品山岳ガイド協会	新潟県自然観察指導員の会	日本自然保護協会	尾瀬ガイド協会			
凡例																														
達成度(自己評価) ◎...取組が特に進捗している ○...取組を実施している △...今後取組を予定している 黄色塗り潰し...前年度より評価が上がった 灰色塗り潰し...前年度より評価が下がった																														
視点① 自然豊かな尾瀬づくり																														
■これまでの取組の継承 ・これまでの取組の継続と改善 ・尾瀬における自然保護の歴史の継承	○		○		◎		○	○		○		○	○	◎	○	○		-	○	○	○	○	-	○	-	-	◎	・第2次南会津町環境基本計画	・群馬県尾瀬美化愛護協会・尾瀬国立公園田代山の保全と西根川流域の土砂等対策に関する検討会・群馬県尾瀬保護専門委員会・清掃協議会尾瀬支部	
■貴重な自然環境の保護 ・尾瀬の自然の特異性や価値への理解の促進 ・人の活動が与える自然への負荷の最小限化 ・乾燥化や樹林化から湿原生態系や景観を守るための検討	○	○	○		◎		○				○	○	◎	○	○			-		○	○	○	-		-	-	○	・第2次南会津町環境基本計画 ・保護林(奥会津森林生態系保護地域)に設定		
■植生の荒廃対策 ・至仏山や会津駒ヶ岳を始めとする山岳地帯、尾瀬ヶ原や尾瀬沼周辺における荒廃対策の実施 ・ニッコウキスゲなど尾瀬を代表する植生の回復にむけた取組の実施	◎	○	○		◎		○			○		○	◎	◎				-	○			△	-	○	-	-	△	・第2次南会津町環境基本計画 ・至仏山保全基本計画	・至仏山保全対策会議・群馬県至仏山東面登山道保全対策検討会・群馬県尾瀬保護専門委員会・鳥獣被害対策実施隊	
■外来植物対策 ・侵入状況の把握と効果的な防除方法の検討 ・地域住民や企業と連携した防除活動の実施	○		○		○		○			○		◎	◎	◎	○			-			○	△	-		-	-	△	・第2次南会津町環境基本計画		
視点② 歴史・伝統・文化が息づく尾瀬づくり																														
■歴史・伝統・文化の保全 ・歴史・伝統・文化に関する地域の宝の再認識、掘り起こし、活用	△				○		○	○		○	△							-		△		◎	-		-	-	○		・片品村文化財調査委員会 ・会津沼田街道利用促進	
■新しい歴史・伝統・文化の創造 ・それぞれの地域が持つ「強み」を活かした伝統・文化の深化、発信							○	○		○	△					○		-		△		◎	-		-	-	△		・片品村文化財調査委員会 ・会津沼田街道利用促進	
視点③ 野生動物との軋轢の解消																														
■ニホンジカによる被害の低減 ・科学的知見に基づく総合的なシカ管理方針の作成 ・優先して守りたいエリアマップの作成 ・効果的な防除対策や捕獲手法の確立 ・効果検証のためのモニタリング手法の確立 ・広域連携による越冬地での捕獲の強化 ・捕獲したニホンジカの有効活用	◎	○	○	◎	◎	○	○		◎	○		○	○	○	○			-				○	○	-		-	-	△	・尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針・栃木県ニホンジカ管理計画・群馬県ニホンジカ適正管理計画、群馬県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画・第2次南会津町環境基本計画・新潟県ニホンジカ管理計画	・尾瀬国立公園シカ対策協議会 ・尾瀬・日光シカ対策ミーティング ・南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会 ・檜枝岐猟友会
■ツキノワグマとの共存 ・ツキノワグマの生態や対応方法についての利用者への普及啓発 ・巡視やクマ鐘の設置などの遭遇事故防止対策	○			○	○	○	○		○	○		○	○	○	○			-				○	○	-	○	-	-	○	栃木県ツキノワグマ管理計画・新潟県ツキノワグマ管理計画	・栃木県野生鳥獣保護管理連絡会議・県西地域鳥獣被害対策連絡会議・尾瀬国立公園および山の鼻地区ツキノワグマ対策連絡協議会
■新たな獣害への対応 ・研究者や猟友会からの動向の確認と関係者間の情報共有	○			◎	○		○	△	○			○		△				-				△	-	△	-	-	△			
視点④ 科学的知見に基づく保全																														
■調査研究の促進 ・保全活動の計画や実施に必要な科学的知見の収集と活用 ・研究者と公園管理者の情報共有や意見交換の推進 ・継続可能な自然環境モニタリングシステムの構築	○		○		◎							◎	○					-				△	-		-	-	○		・群馬県尾瀬保護専門委員会 ・福島県尾瀬保護調査会	

新・尾瀬ビジョン整理表

みんなで楽しむ	国		県				市町村					土地所有者					観光関係者					地元団体				NGO等		対応する計画等	対応する会議体
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27		
	関東地方環境事務所	関東森林管理局	福島県	栃木県	群馬県	新潟県	檜枝岐村	南会津町	日光市	片品村	魚沼市	(公財)尾瀬保護財団	三井物産(株)	東京電力HD(株)	東京PT(株)	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	南会津町観光物産協会	日光市観光協会	片品村観光協会	魚沼市観光協会	尾瀬山小屋組合	尾瀬保護指導員 福島県連絡協議会	日本野鳥の会 栃木県支部	片品山岳ガイド協会	新潟県自然観察指導員の会	日本自然保護協会	尾瀬ガイド協会		
凡例																													
達成度(自己評価) ◎...取組が特に進捗している ○...取組を実施している △...今後取組を予定している 黄色塗り潰し...前年度より評価が上がった 灰色塗り潰し...前年度より評価が下がった																													
視点① 魅力あふれる尾瀬づくり																													
■尾瀬の魅力向上 ・地域の宝について学び再発見する機会の拡大 ・新たな視点による地域の宝の発掘	○		○		◎		○	○		○			○	◎		○	-		○	○	◎	-		-	-	○	・群馬県環境学習等推進行動計画		
視点② 幅広い楽しみ方の検討																													
■多様な利用方法の検討 ・新たな尾瀬の楽しみ方の検討や意見交換 ・地域特性に応じた残雪期や冬期利用のあり方の検討	○				○		○			○		○		○		○	-		△	○	○	-	○	-	-	○	・尾瀬国立公園協議会 ・適正利用の推進に関する小委員会		
■エコツーリズムの推進 ・質の高い認定ガイドなどエコツーリズムに関わる事業者の育成 ・地域の宝を活かした尾瀬ならではの旅行商品や体験プログラムの作成 ・認定ガイド利用を促進する仕組みの構築 ・旅行エージェント等と連携したエコツーリズムの促進	◎		○		◎	○	○	○		○	○		◎	○		-	○	○	○	○	○	-	○	-	-	◎	・人材育成支援事業補助金 やガイド支援事業補助金(檜枝岐村) ・第2次南会津町環境基本計画		
■地域における利用の役割分担 ・地域特性等に応じた、対象とする利用者層や利用スタイルの提案 ・利用者層や利用スタイルに応じた利用施設のあり方の検討	○				○					○			△		-		○	-			○	-		-	-	◎			
■滞在型・周遊型利用の促進 ・尾瀬を楽しむモデルコースの提案 ・朝夕や星空など泊まらなと体験できない魅力の発信 ・季節や場所ごとの魅力の発信による利用の分散化	◎		○		○		○			○	○	○	◎	○		-	○	○	○	○	◎	-	○	-	-	◎	・尾瀬国立公園協議会 ・適正利用の推進に関する小委員会		
視点③ 楽しむための土台づくり																													
■安全対策 ・事故や遭難を防止するための危険箇所の整備や利用者への普及啓発 ・事故や遭難情報の収集と共有 ・救助体制の整備や今後のあり方の検討	○				○	○	○	○		○	○	○	◎	○	○	○	-		△	○	◎	-	○	-	-	○	・第2次南会津町環境基本計画	・檜枝岐遭難対策救助隊 ・片品村遭難対策救助隊	
■施設の整備 ・荒れた登山道や標識類などの整備 ・長寿命化などトータルコスト低減の検討や実施 ・道の駅など既存施設の情報発信拠点としての有効活用	◎		○		○	○	◎	○		○	○	○	◎	○	○		-		○	○	△	-		-	-	△	・尾瀬国立公園 標識ガイドライン		
■ルール・マナーの検討と普及啓発 ・携帯電話などの通信端末やドローン、冬期利用についてのルールの検討 ・尾瀬を楽しむ上でのルール・マナーの普及啓発 ・入山口やインターネットでを活用した入山前後における普及啓発	◎		○		○		○	○		○	○	○	◎	○	○	○	-		○	○	○	-	△	-	-	○	・尾瀬国立公園協議会 ・適正利用の推進に関する小委員会		
■望ましい交通アクセスの検討 ・滞在型や周遊型利用の促進を意識したアクセスのあり方の検討 ・利用者が少ない地域へのアクセスの向上 ・尾瀬と他の地域を結ぶアクセスの連携強化 ・分かりやすくして利用しやすい案内や誘導	○				○	○	○	○		○	○	○		○	○		-		○	○	◎	-		-	-	○	・尾瀬国立公園協議会 ・適正利用の推進に関する小委員会 ・県道栗山館岩線整備推進規制同盟会 ・片品村尾瀬交通対策連絡協議会		

【楽しむ】

尾瀬国立公園二ホンジカ対策について

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（2020年1月）

	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標	シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持	尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持
（5年目）事業目標	➤ 植生への影響を低減するため、<u>シカの生息密度を現状より低密度に</u> ➤ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<u>防護柵を適切に設置・維持管理</u>	➤ 湿原植生への影響を低減するため、<u>尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u> ➤ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u>

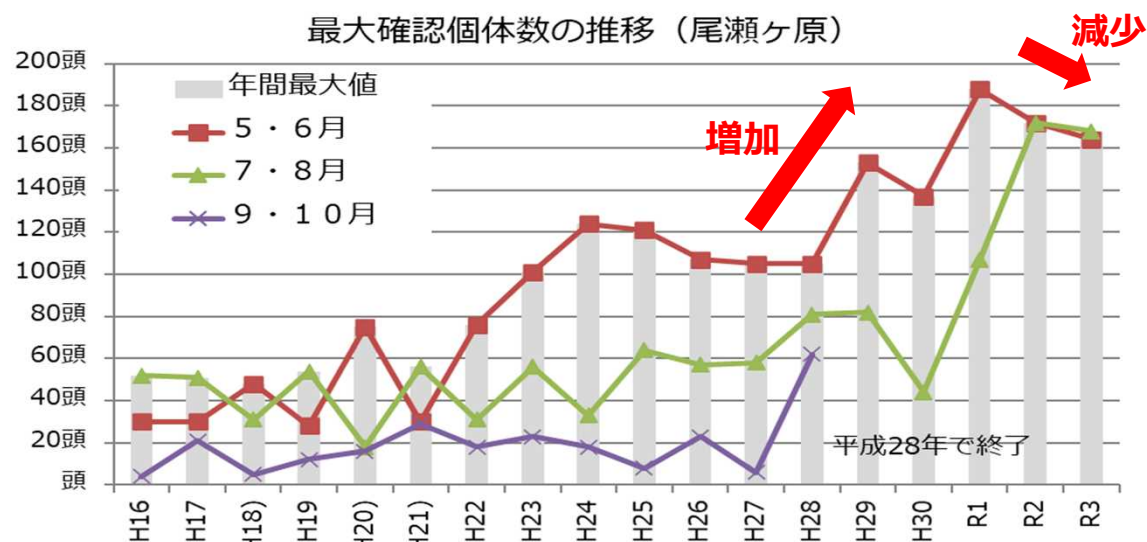
実施方針	捕 獲	
	(1) 共通事項 ・効果的・効率的な捕獲、利用者等の安全対策、自然環境への配慮、捕獲個体の処理、捕獲の実施主体、関連法令等の遵守 (2) 奥日光・足尾周辺地域 ・定住型個体(通年)及び移動型個体(晩秋～冬)の捕獲 ・足尾地域高標高域での捕獲検討 ・捕獲適地や適期の検討のための情報収集	(3) 片品・檜枝岐地域(移動型個体の移動経路上) ・集中通過地域での効率的・効果的な捕獲 ・関係機関で連携した効率的・効果的な捕獲 ・定住型個体の通年捕獲（有害・管理捕獲） (4) 尾瀬ヶ原・尾瀬沼地域 ・春から晩秋にかけての移動型個体の捕獲 (5) 会津駒ヶ岳、田代山・帝釈山周辺地域 ・生息状況調査の結果に基づき捕獲 ・捕獲を効果的に実行するための体制整備
	植生保護	モニタリング
	(1) 日光国立公園 ・既存防護柵の維持管理、植生の回復、保全対象種の衰退防止 ・防護柵の効果検証 ・防護柵の設置検討(鬼怒沼、女峰山、太郎山) (2) 尾瀬国立公園 ・優先防護エリアのA及びBランク区域への5年以内の防護柵の設置 ・防護柵の効果検証	(1) モニタリング ・①生息状況の把握、②植生影響の把握、③対策の効果検証の3つの観点から実施 ・モニタリングの継続、事業目標の達成に向けた進捗の把握によりPDCAサイクルを回す ・データの収集・蓄積が効率的に行える手法、共通様式の導入 (2) 調査研究 ・移動型個体群を含むシカの動態や植生への影響等に関する調査研究の推進

尾瀬国立公園周辺の二ホンジカの捕獲状況

- 関係機関が連携して、尾瀬国立公園周辺でのシカ捕獲の強化を進めている。
- **捕獲数は増加傾向**にあるが、「湿原に出没するシカの概ね半減」の達成には、**更なる捕獲の強化が必要**。

実施主体	主な捕獲場所	2019年	2020年	2021年
環境省（指定管理事業）	核心地域：尾瀬ヶ原、尾瀬沼、大江湿原周辺	59	90 (過去最高)	87
群馬県（指定管理事業）	集中通過地域：国道401号・120号	237 (過去最高)	206	241 (11月時点)
福島県（指定管理事業）	生息拡大地域：南会津地方	136	108	141 (10月末時点)
合計		432	390	469

尾瀬ヶ原のシカ確認個体数（ライトセンサス調査）



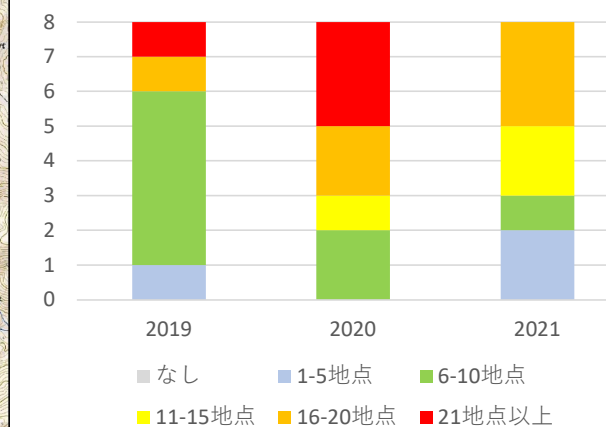
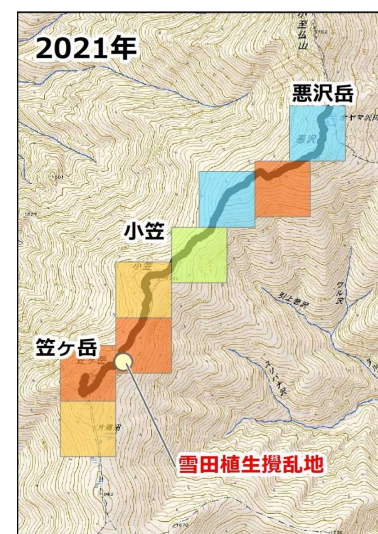
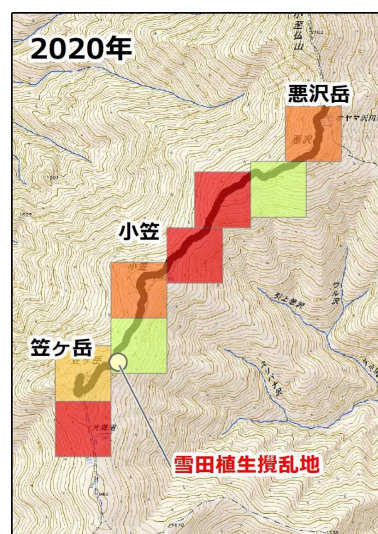
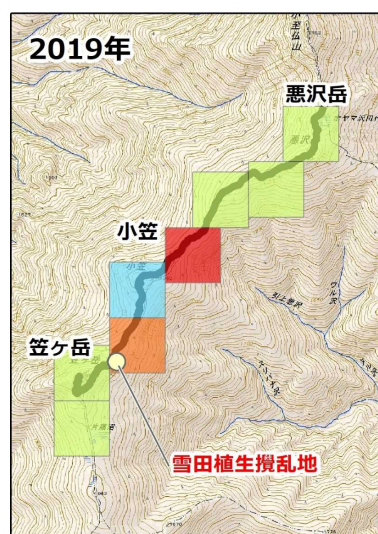
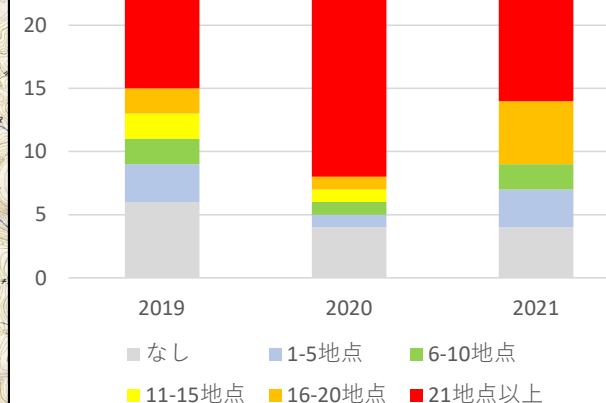
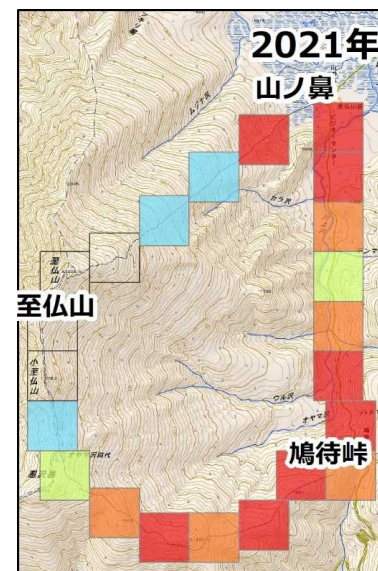
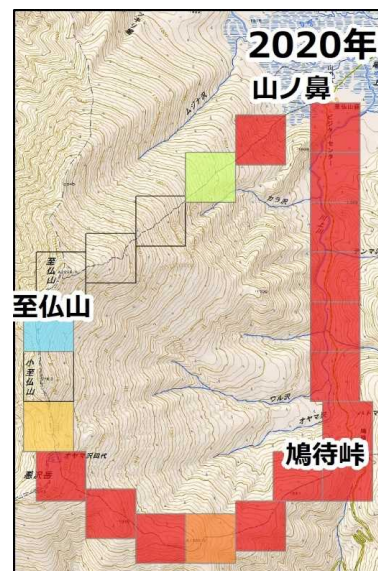
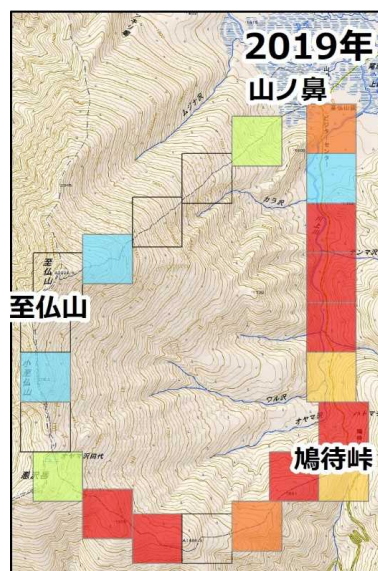
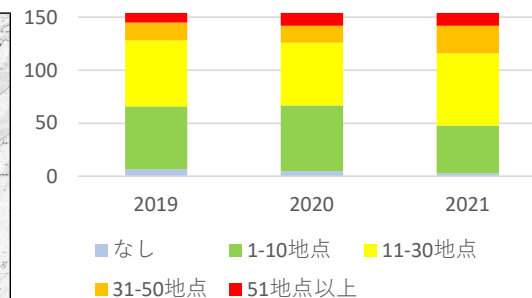
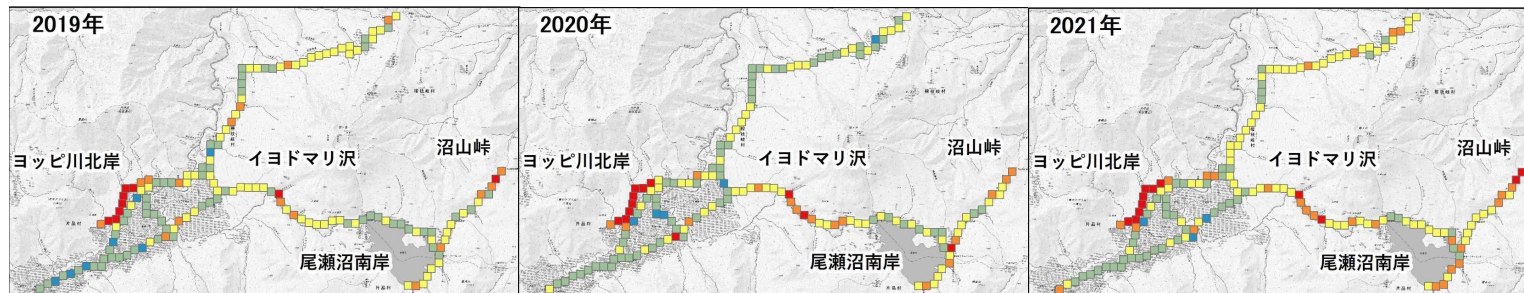
※（）内は5月に調査を実施していない年

尾瀬国立公園の防護柵の設置状況

- 関係機関が連携して、優先防護エリアA・Bランクを中心に防護柵の設置を進めている。
- 2022年度中に、**優先防護エリアA・Bランク11か所のうち8か所に設置が完了**する見込み。

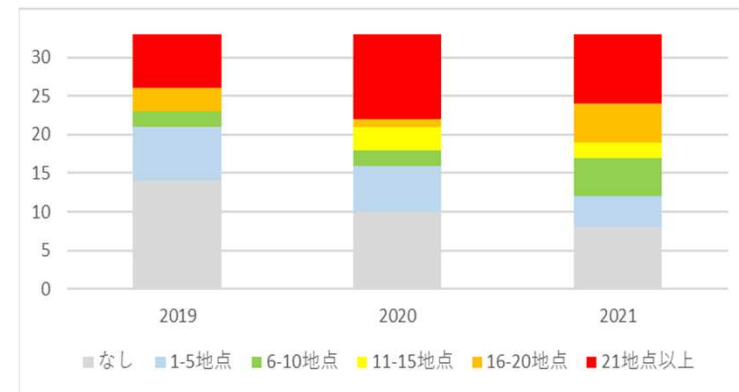
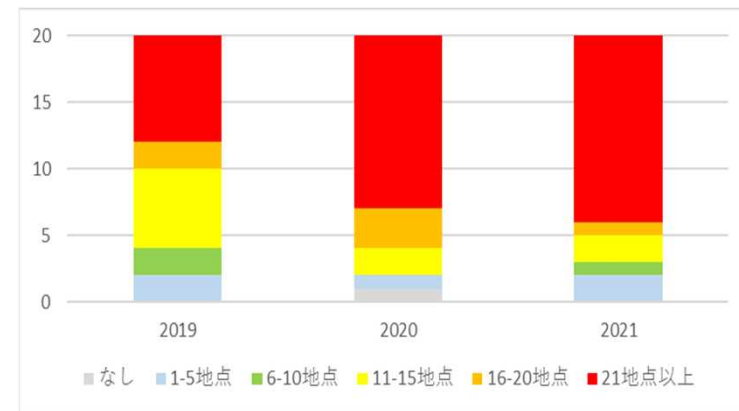
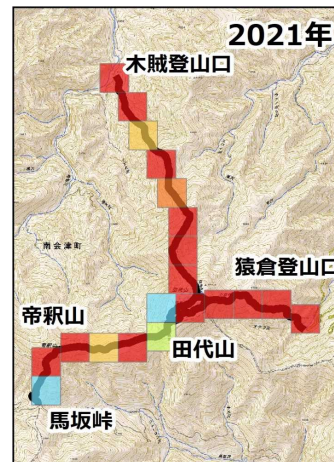
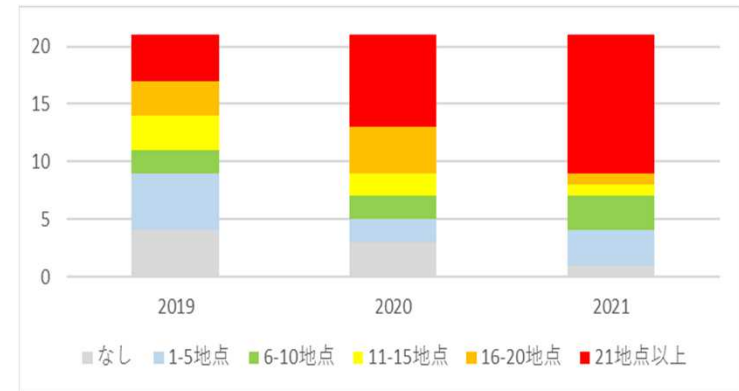


尾瀬国立公園の植生被害状況 (採食痕跡の調査結果)



尾瀬国立公園の植生被害状況

(採食痕跡の調査結果)



2022(令和4)年度 重点方針

1. 現状と課題

- 日光・尾瀬地域とも、シカ生息密度は引き続き高い水準にあり、捕獲困難地域での捕獲の強化が必要。
- 日光地域では、捕獲計画の立案のためにGPS追跡調査データの蓄積が必要。
- 尾瀬地域では、2024(令和6)年までに優先防護エリア（A・Bランク）へ防護柵を設置することとしているが、笠ヶ岳、燧ヶ岳、泉水田代、見晴地区への設置が完了していない。
- 防護柵の設置・維持管理手法や、モニタリング方法の情報共有が図られていない。

2. 重点方針

日光国立公園

- 高標高域、捕獲困難地域での捕獲の強化・継続。
- 夏季の定住個体を対象とした捕獲を地域主体で効率的に実施。
- 日光版の優先防護エリア案の作成を検討する。
- 夏季の定住個体に装着したGPS首輪調査で把握した夏季定住地、移動経路や越冬地における最適な捕獲の検討。

尾瀬国立公園

- 尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化・継続（捕獲適期の検討。六兵衛堀周辺（河畔林）での捕獲の実施など）。
- 通信機能付きカメラを利用したリアルタイムの移動状況の共有による移動経路上での捕獲の強化・継続。
- 優先防護エリアのA・Bランクに防護柵の設置・継続・検討。
- 燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺の優先防護エリアに防護柵の設置を検討。

その他共通事項

- 捕獲目標数は捕獲実績、対策方針を踏まえて設定。
- 効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法に関する検討・情報共有。
- 出猟カレンダー(指定管理・有害捕獲)の普及。
- 防護柵や優先防護エリア、過去の季節移動経路等の位置情報をGISに集約し、協議会構成員で共有する。

第 4 次尾瀬総合学術調査の実施状況について

1 実施概要

(1) 実施体制

第 4 次尾瀬総合学術調査団（事務局：尾瀬保護財団）（調査団発足 H28. 12. 13）

団 長：坂本 充（名古屋大学名誉教授）

基礎研究部会（事務局：尾瀬保護財団）

部会長：鈴木邦雄（横浜国立大学名誉教授）

重点研究部会

部会長：岩熊敏夫（北海道大学名誉教授）

(2) 調査期間

2017（平成29）年6月～2020（令和2）年3月

（※補足調査 2021（令和3）年のシーズンで全てが終了）

2 調査内容

(1) 基礎研究部会の調査：尾瀬ヶ原の自然情報整理と現状把握

①植物相、動物相のインベントリ調査

尾瀬の生物相の目録を作成するための調査、絶滅危惧種・貴重種・重要種についての詳細な調査

②植生分布状態と環境の調査

植生の単位と広がり把握するための植生調査と植生図作成、衛星データと空撮データを用いた植生解析、環境要因と植生の関係、生物・環境変動についての解析

③ニホンジカ侵入による尾瀬ヶ原の攪乱・劣化とその回復追跡の調査

尾瀬ヶ原におけるニホンジカ侵入増による生物相への影響とその回復について調査・分析

④長期広域モニタリングシステムの構築

衛星やドローン空撮画像による植生モニタリング法を開発、池塘環境・泥炭栄養環境の測定、シカ行動のモニタリング法などについて研究

⑤社会科学的に見た尾瀬の自然の価値の調査

環境社会学分野等からの社会・人間活動と自然環境の共生、自然資本の持続性についての調査研究

⑥普及事業

スマートフォンや PC を用いた、尾瀬の自然・環境をテーマとしたバーチャル・ミュージアムの企画・試作作成

(2) 重点研究部会の調査：

気候変動が尾瀬の生態系に与える影響解明のための調査

①湿原地形と陸水環境の変遷の調査

池溏水生植物相変遷及び水生生物相と水質・底質の関連検討、並びに湿原炭素循環の調査

②泥炭地のミネラル栄養性の調査

泥炭間隙水と泥炭の理化学分析による植生分布との関係調査

③温暖化影響下の湿原生態系変遷の調査

気象・水分データの長期変動解析及び衛星画像パラメータの年変化解析並びに空撮画像との比較研究

3 調査結果

①植物相、動物相のインベントリー調査：尾瀬の生物相の目録を作成するための調査を行い、第3次総合学術調査以降の生物相の変化を把握した。特に、絶滅危惧種・貴重種・重要種については、詳細な調査を行い、従来尾瀬から記録がないあるいは新たに侵入したと思われる植物相、動物相も多数確認している。

②尾瀬ヶ原湿原と周辺山地の植生分布状態と環境の調査：現地の植生分布を的確に表現する高精度の相観植生図作成、342ヶ所の植生調査資料をデータベース化し、群落組成解析、中田代十字路付近を対象に、50年前の植生図と今回作成した現在植生図を用いて、中田代十字路付近の植生比較などを行った。

③ニホンジカ侵入による尾瀬ヶ原の攪乱・劣化とその回復追跡の調査：尾瀬ヶ原の植物群落の群落構成種について1970年と2019年の常在度の比較を行い、常在度が2019年の方が有意に低い種が23種を確認した。

④長期広域モニタリングシステムの構築：非破壊的モニタリング手法である衛星やUAV（ドローン）空撮画像による植生モニタリング法を開発するとともに、池溏環境・泥炭栄養環境の測定、シカ行動のモニタリング法などについても研究を行った。

⑤社会科学的に見た尾瀬の自然の価値の調査：尾瀬を対象とした環境社会学分野等からの社会・人間活動と自然環境の共生、自然資本の持続性についての調査研究を行った。

⑥普及事業：尾瀬の自然・環境の価値を理解する手段として、PC、タブレット、スマートフォン等からアクセスでき「尾瀬ヶ原バーチャルツアー」（試作版）システムを開発した。

（2）重点研究部会

①湿原地形と陸水環境の変遷の調査：UAV、電磁探査、水中ドローンなどの非侵襲的手法を活用し、補足調査も含めて5年間調査を継続した。湿原地形の過去からの変遷では湿原の土壌、池溏底質、および水質に河川由来の粒子など、洪水の痕跡を確認できた。竜宮の地下構造の解析から、7世紀前後の泥炭地の地滑りにより河川水路が暗渠化したと推定された。池溏の形成と拡大・変遷では1998年に比べて池溏が5%消失し、浅い池溏の渇水が主要因と考えられた。水生植物の分布要因について、底質環境から解明を進めた。洪水は様々な規模で頻繁に発生し、直接的および間接的（魚類の侵入と移動）に水生生物群集に影響を及ぼしていた。河川に生息しているイワナの密度は他地域よりも低く、支流では瀬切れにより孤立集団になっていた。

②泥炭地のミネラル栄養性の調査：上田代，中田代，下田代に河川から湿原内部に向かう調査ラインを設定し間隙水，土壌粒子の組成を調べ，河川由来の粒子が湿原を涵養している可能性を見いだした．深部の豊富な土粒子は過去の氾濫流によりもたらされ，この土粒子の風化によって泥炭間隙水へミネラルが供給されていると判断された．

③温暖化影響下の湿原生態系変遷の調査：尾瀬内外の地上観測所で観測された降水量の月別・季節別の空間相関を網羅的に調べ，高地生態系である尾瀬の降水現象を代表しうる観測所の特定を行った．さらに，降雨量データと湿原の洪水現象とを対比させた結果，過去 40 年の間に湿原洪水の頻度が増加していることが示唆された．衛星観測による長期間の水環境の変遷の把握と融雪プロセスの解明の調査を進め，至仏山東面，尾瀬ヶ原北方・南方および背中アブリ山周辺における構成岩石とその分布調査を行った．長期的視点でのシカ影響把握と対策に関する調査を実施した．

4 今後のスケジュール

令和 4 年 3 月 「北海道大学低温科学研究所」発行の「低温科学」の尾瀬特集号にて、
調査成果論文集を掲載・出版



取組1 スタートアップふくしま尾瀬事業

取組2 ふくしま子ども自然環境学習推進事業

取組3 特殊植物等保全事業



2022年3月
福島県自然保護課

取組1 スタートアップふくしま尾瀬事業

福島の宝である尾瀬を大切に保護する一方、多くの人々に訪れていただきたいという思いから、福島県側から尾瀬に入山する一帯及びその地元町村を含めて、「ふくしま尾瀬」と名付け、平成30年度から「スタートアップふくしま尾瀬事業」を展開し、情報発信やふくしま尾瀬を知っていただき、体験するきっかけづくりを行っています。

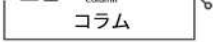
(1) 情報発信

- 「ふくしま尾瀬」W e b サイト、S N Sを活用した情報発信(ニュースなど)。
 - 尾瀬の魅力を現地取材を基に、コラム記事、動画を作成し配信。
 - アフターコロナを見据えたふくしま尾瀬W e b の英字化。
 - テレビ及びW e b でのふくしま尾瀬C M放映 (R3.6)。
- 

ふくしま尾瀬HP

ふくしま尾瀬HP





Column
コラム

Webの英字化

2022.02.28 up



檜枝岐村I&Uターン生活
地域おこし協力隊で学んだこと

2022.01.31 up



前沢曲家集落

2021.12.24 up



尾瀬ボランティア

2021.11.30 up



田代山開山史

2021.10.29 up



ふくしま尾瀬のおみやげ

2021.10.15 up



尾瀬の星空キャンプ

2021.09.30 up



会津駒ヶ岳登山のススメ

2021.08.31 up



ふくしま尾瀬中学生日記

Trekking routes



On the other hand, the route from to Lake Ozenuma is unique in that it allows visitors to come and go on a hike. The Ozenuma, Miharashi area is also lined with mountain hut enjoy a bath. A trekking scenery a valuable rest and relaxation.

取組1 スタートアップふくしま尾瀬事業

(2) ふくしま尾瀬アウトドアシンポジウムの開催(9月～10月)

- ふくしま尾瀬3Weeks特設サイトの創設（～R3.11まで）
- 自然体験メディアツアー、体験プログラムを実施し、体験記事の掲載及び動画配信。
- オンラインシンポジウム（10月4日）の開催。田中陽希氏、環境省、ガイド協会等参画

※いずれも、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い実施した。

[illegible]

自然体験メディアツアー

萩原副議長と行く煙ヶ岳登山と煙霧林道周遊3日間



東北最高峰の樺ヶ岳に登頂し、紅葉を巡る静寂の燐葉林道を歩く

黄金色に輝く温泉と、ササガマの赤に染められる超々谷の山肌。林の茂密は新緑色とりと清流で引き締められ、山全体が鮮やかに染まっています。

そうしたなか、紅葉観賞客が案内するのは紅葉道の傍にそびえ立つ楊木。高木幹道は昔々に高度を上げていった先には紅葉道を一望に覆下する樹蔭が広がります。さらに前境を越えて百尋峰のひづり坂道（まなたいぐら）へ。ここからは日光連山、とりわけ御来待・常盤宮に、はやすぐらからは紅葉・磐と奥日光など、順路に広がる多々ニシツキな風景を眺めよう。と、案内。

待つて置わって紅葉林道は静かな森の道。生物オタクの登山客サイドによる憩ふ、キノコ、野鳥、昆虫のレクチャーを促しながら進んだ先には落差100メートルの三糸の滝が！ 両岸集のやめめまつ天洲時代、横田代、上田代と上り下りして温泉の湯を歩いてウルザラン。紅葉が見せてくれる様々な表情に感動しきりの一行の皆さん、いよいよフィナーレを飾ります。

体験プログラム



取組2 ふくしま子ども自然環境学習推進事業

- 平成23年度から尾瀬での環境学習に取り組む県内の小学生・中学生に対し、環境学習費用（バス代、宿泊代、ガイド料等）を助成している。
- 令和3年度は、助成を継続するとともに、事業開始から10年が経過したことから、事業の見直しや検討を行うため、教員向けモニターツアーの実施や新たな教材作成を実施した。
- 令和4年度は、助成及びモニターツアー等を継続実施する。



取組3 特殊植物等保全事業

- 尾瀬の貴重な植生等の保全（植物、昆虫類の調査等）及びその活動をSNS活用した普及啓発を実施した。
- 尾瀬保護指導委員会を開催し、尾瀬の植生等の課題や今後の調査方針及び普及啓発の方法について検討を行った。
- 令和4年度は、尾瀬の調査を継続的に実施するとともに、保全活動の普及啓発のため、尾瀬沼ビジターセンターを活用し、調査結果の展示等を行う。



新・尾瀬沼ビジターセンターについて

1. 経緯

尾瀬沼東岸に位置する尾瀬沼ビジターセンターは、老朽化が進んでいたため、平成 29 年度から新築工事を開始しました。令和 2 年度に建設工事が完了し、令和 3 年度に展示工事が完了したため、令和 3 年 7 月から新・尾瀬沼ビジターセンターの供用を開始しました。

2. 施設概要

- ・ 構造：S 造（鉄骨造）2 階建
- ・ 建築面積：515.24 m²

3. 展示エリアについて

■常設展示エリア

インフォメーションカウンター等で尾瀬の各地点における最新の状況を提供するとともに、尾瀬の成り立ちや歴史、尾瀬に生息する様々な野生生物の情報などをパネル形式で展示することで、来館者の尾瀬への理解を深めることを目的としています。

■企画展示エリア

主にリピーターの来館者に対して尾瀬の新たな魅力を提示するため、テーマを絞った展示を定期的に更新することで、常設展示エリアより深い情報を提供するエリアです。

■レクチャールーム

講義やクラフト体験、休憩や観光の情報を提供する多目的なゾーンです。また、比較的時間のある来館者に対しては、レクチャー等の体験学習を通して尾瀬の魅力をより深く知ってもらうことを目的としています。

■屋外展示

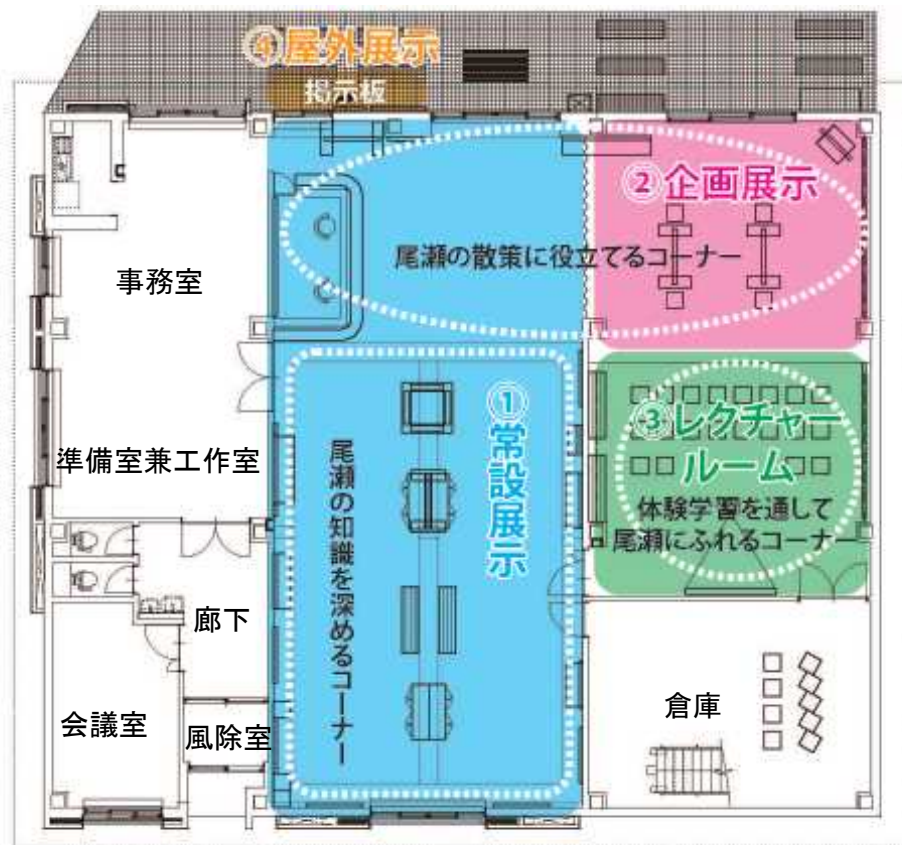
尾瀬の基本情報を提供するエリアで、閉館時に訪れる利用者にも情報提供が可能です。また、ザック置場やベンチを設置しており休憩スペースとしても活用可能です。

4. イベントの実施

星空観察会等の宿泊者向けイベントを継続して実施するとともに、ミニツアーについては、午前に加えて午後のツアーを新たに実施するなど、来館者に対する質の高い体験を提供できる体制を強化しています。また、本年度は環境学習イベントやナイトタイムコンテンツの試行を実施するなど、ビジターセンターを中心とした新たな取組の推進を進めています。

5. 今後の予定

令和 4 年度以降、新ビジターセンターの外構工事や旧ビジターセンターの撤去工事等を実施する予定。



尾瀬沼ビジターセンター平面図



外観



常設展示コーナー

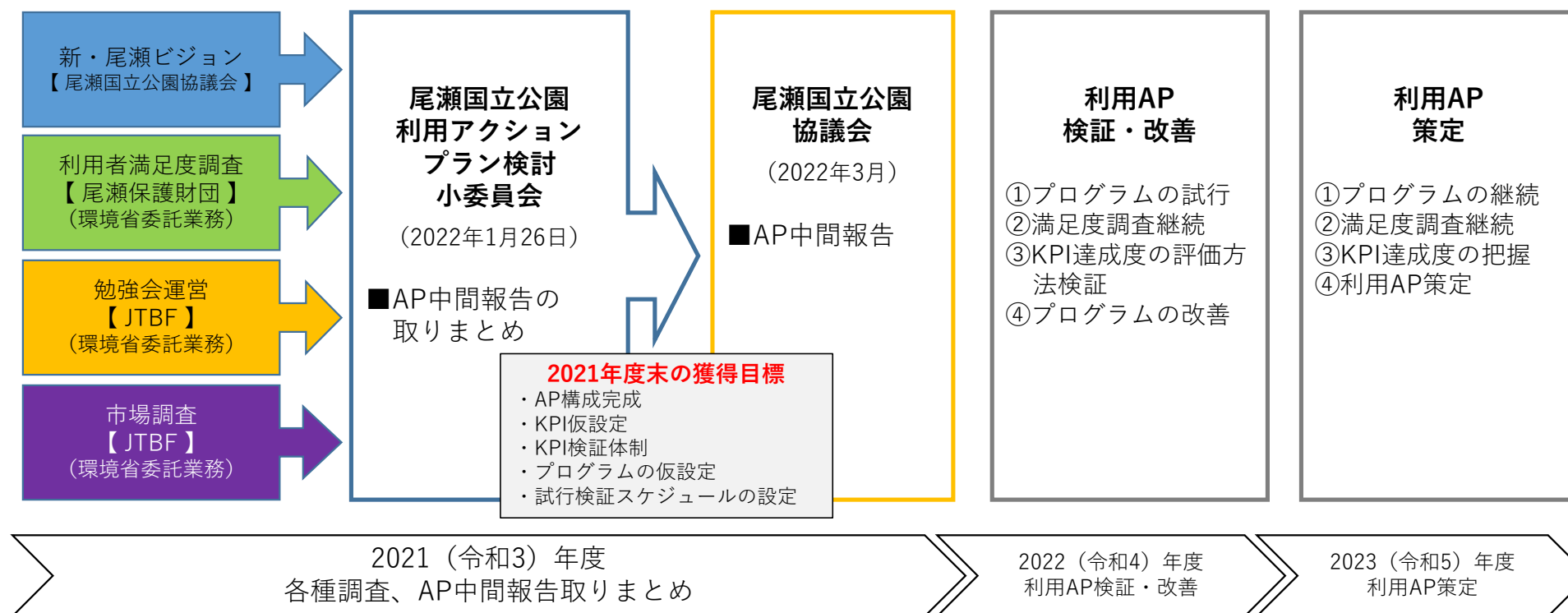


尾瀬の知識を深めるコーナー



ジオラマ展示

利用アクションプラン策定に向けたスケジュール



■AP概要

- 策定主体：尾瀬国立公園協議会（利用AP検討小委員会）
- 試行期間：3ヶ年（アクションプランの実行を優先するため、1年目に目標・指標の設定を行い、2・3年目はプログラムの試行を行い、その検証と改善後に策定する）
- 策定後の取扱：利用AP検討小委員会は解散。2024年度からはKPIの達成度把握を行いつつ、尾瀬の利用促進を考える場として新たな会議体を検討。

尾瀬国立公園利用アクションプラン検討に係る勉強会について

資料 2 - 6

①勉強会の概要

- 尾瀬の魅力向上と質の高い利用の実現に向けた「利用アクションプラン」（以下、利用AP）を検討するために、尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会委員を対象に、全 5 回の勉強会を開催。
- 勉強会は、ウェブ会議（2 回）、現地視察（3 回）を実施。各回有識者・地元講師と参加者が意見交換。

②勉強会[全5回]の内容



	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回
テーマ	利用AP策定の趣旨等 利用の現状 他国立公園の事例	受入体制	周遊利用 (入下山口が異なる利用)	滞在利用	プロモーション（午前） 尾瀬ファンとの交流（午後）
日時	7月30日（金）	8月25日（水）	9月21-22日（火・水）	10月11-12日（月・火）	12月22日（水）
形式	ウェブ会議	現地視察	現地視察	現地視察	ウェブ会議 (ファン5名は片品村会議室集合)
参加者	30名 (委員・代理出席：16名、 講師2名、 事務局：12名)	11名 (委員・随行者：4名、講師1名、 事務局：6名)	18名 (委員・随行者：9名、講師2名、 事務局：7名)	20名 (委員・随行者：9名、講師2名、 事務局：9名)	午前29名（委員・代理出席：15名、 講師3名、事務局：11名） 午後31名（委員・代理出席：32名、 ファン6名、事務局：10名）

③勉強会での主な発言等

※[]は、発言が出た勉強会の回数。

利用者の推移、客層の変化

- ✓ 尾瀬は、ここ20年くらい利用者に対するサービスの質の向上を図ってこなかったのではないだろうか。[1]
- ✓ 潜在的利用者に対して訴求するものをつくることができているのではないか。[1]
- ✓ この10年で登山者層が大きく変わってきている。[2]
- ✓ 客層の変化に沿ってガイドの方法も、自然解説からサービス・ホスピタリティが、中心になる。[2]
- ✓ 尾瀬は「どのようなスタンスを打ち出すか」を考える時期に来ている。[2]

尾瀬の特性、価値

- ✓ 尾瀬が他の公園と大きく違う点は、日本の自然保護運動が生まれた場所であること。そのような性格を十二分に活かした利用の増進が必要。[1]
- ✓ 過去に尾瀬で見られたミズバショウや湿原が無くなってきている。いわゆる本当の尾瀬の価値がなくなっていることが大きな問題で、これを回復させなければいけない。[1]
- ✓ 尾瀬へ行きたいと思う、他で代替できない、尾瀬だけの絶対的な魅力とは何かをきちんと考える必要がある。[5]
- ✓ 人間との関わりの歴史、保護だけでなく文化的な話も全部ひっくるめて尾瀬の魅力。[5]
- ✓ お花がたくさん咲いている尾瀬に戻ってほしい。植生復元作業があれば、参加したい。[5]

利用者像

- ✓ ファンを作る、いわゆるリピートさせることは非常に大事。最終的には守る側の取り組みも実践できるといような波及効果を期待。[1]
- ✓ リピート戦略で一番大事な点は、この瞬間に尾瀬に来ているお客様をいかにその次に繋げるか。リピートしてもらうための取組を尾瀬に関わる人たち全員が強化していくことが大事。[1]
- ✓ そして、リピーターを活かして次の新規顧客の獲得に繋げていくということが重要。[1]
- ✓ 尾瀬の利用者をもう少し広げていくことが大切。[3]
- ✓ 若年層に対してはまず尾瀬の魅力を知っていただき、多くの人々が来訪するようになると良い。[2]

過ごし方と消費

- ✓ リピーター獲得、滞在利用促進の目的を明確化することが必要。[4]
- ✓ 滞在時間を延ばし、そこで落とすお金を増やすという利用の増進も必要。[1]
- ✓ 旅行消費額の増加や体験の質の向上のためには、ゆっくりのんびりしてもらうことが大切。[4]
- ✓ 尾瀬はそうした過ごし方を推進しやすい国立公園。旅行消費や時間消費を求める場所はどこかを明確にしておくことが必要。過ごし方は操作可能であり、いろいろな個性化が図れる。[4]
- ✓ お金を落とす仕組みとして麓のあり方は非常に重要。売るものを通して「どのようなメッセージを利用者に届けるのか」をいろいろ考えてみてはどうか。[1]

利用の現状、今後の取組案

【周遊利用】

- ✓ いろいろな風景が見られてバリエーションに富んだ体験ができることが周遊利用のメリット。[3]
- ✓ 山小屋の設備の充実した状況に比べて、途中の休憩場所が不足。[3]

【滞在利用】

- ✓ 宿泊してこそ見られる尾瀬、日帰りでは見られない尾瀬が体験できることを売りにする。[3]
- ✓ 夕焼けや早朝の朝靄の尾瀬はプレミアムな瞬間。[3]
- ✓ せっかく尾瀬に行くのであれば早朝の尾瀬沼を見てみようというアピールをどのように演出していくかが重要なポイント。[4]

【山小屋】

- ✓ 各山小屋の個性が生まれてきている。[3]
- ✓ 山小屋での宿泊について、現在のイメージをもう少し宣伝していくことが必要。[3]

【情報提供・情報発信】

- ✓ 最初の入口として尾瀬の一つに見せるプラットフォームがなく、利用者にとってわかりづらい。[3]
- ✓ ガイドの同行なしの利用者に対する事前アナウンスや現地での情報提供が不十分。[3]
- ✓ 利用者が調べればわかるではなく、積極的にアピールすることが重要。[4]
- ✓ 利用者からSNSで広げてもらうという考え方も大事。[3]

【ブランディング】

- ✓ 尾瀬と周辺の山とで一体となる「尾瀬国立公園」としての一層のブランディングが必要。[5]
- ✓ 尾瀬のブランディングの司令塔はどこか、その方針をどのように定めるのか、尾瀬をどう経営していくのか、中長期的な尾瀬のブランディングを行うことが必要。[5]

【麓の村との関係（循環）】

- ✓ 国立公園内の山小屋で食べる食事、材料が麓の村で調達されていると循環型になる。それは、公園と麓のゲートシティを利用者が見ようというモチベーションにもつながる。[4]

尾瀬国立公園利用アクションプランの構成イメージ

目次構成

目次構成

項目

1. はじめに

・ 策定の背景

－ 尾瀬国立公園誕生、尾瀬ビジョン「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」、新・尾瀬ビジョン「あなたと創る みんなの尾瀬」

－ 尾瀬国立公園管理運営計画書「尾瀬国立公園の魅力向上と質の高い利用」

－ 入山者減少、新型コロナウイルスによる影響

・ 策定の目的と位置づけ

－ 「尾瀬ファンベース戦略」（利用者の各ステージに合わせて、尾瀬での利用形態を「利用」から「守る」へと変容させる戦略）

・ 検討体制と検討プロセス

－ 3ヶ年（令和3～5年度）の検討・試行期間を経て策定（1年目：目標・指標設定、2・3年目：取組プログラムの試行、検証・改善）

2. 尾瀬がめざす姿

利用APのコンセプト

・ 尾瀬がめざす姿 新・尾瀬ビジョンから引用

・ 利用APのコンセプト「尾瀬を楽しむことを通して、守ることへの協力をうながす」

3. 現状分析

・ 活かしたい尾瀬の強み

－ 新・尾瀬ビジョンから引用

・ 尾瀬の利用状況

－ 全般：入山者数（年変化、入山口別、月別、ビッグデータ）、訪日外国人数、山小屋・野営場宿泊者数、ガイド利用者数

－ 属性：来訪目的、宿泊日数、旅行消費額、満足度、再来訪意向、リピート率

－ 認知度、来訪経験率、来訪意向、利用に関するイメージ

－ 他の山岳地との比較

・ 尾瀬の利用における課題

－ 課題1 各利用者層のニーズに応じた細やかな対応

－ 課題2 利用者の動線に応じた観光・サービスの提供

－ 課題3 尾瀬ならではの魅力を体感・体験できる仕組み・プログラムの拡充

－ 課題4 尾瀬の魅力を訴求するプロモーションの強化

－ 課題5 利用から保全につなげるプログラム・仕組みの充実

－ 課題6 尾瀬に愛着や誇りを持てるような機会の提供

－ 課題7 尾瀬を成立させている寒冷な自然環境の持続

4. 利用AP取組方針

・ 利用AP取組方針

利用者を3つのステージに分け、各ステージの目的に応じた取組プログラムを実施する（尾瀬ファンベース戦略）。

ステージ1 ビギナー

目的：尾瀬利用回数
1回

ステージ2 リピーター

目的：尾瀬利用回数
2回以上

ステージ3 ファン

目的：尾瀬利用回数
2回以上＋守る活動への参加

5. 指標設定（KPI）

■ ビギナー戦略の動向把握

■ リピーター戦略の動向把握

■ ファン戦略の動向把握

■ 尾瀬旅行消費額の把握

■ 尾瀬国立公園内滞在時間の把握

指標1：ビギナーの数

指標2：ビギナーの満足度

指標3：ビギナーの再訪意向

指標4：尾瀬を守ることに対する関心度の変化量

指標5：尾瀬を守ることに対する理解度の変化量

指標6：ボランティア活動への参加者数

指標7：尾瀬での消費額

指標8：アクティビティ参加者数

指標9：尾瀬国立公園内の宿泊者数

6. 取組（プログラム）の実施

（1）魅力向上プログラム

情報案内機能の向上、誘導標識・解説標識の整備と更新、滞在空間の上質化、保全活動の強化

（2）滞在・周遊促進プログラム

モデルコース・プランの作成、山小屋の魅力向上、体験アクティビティの利用促進、交流イベントの開催

（3）魅力的プロモーション実施プログラム

尾瀬のイメージの発信、Web・SNSの活用、外部企業・人材との連携によるPR

（4）尾瀬ファン創出プログラム

環境保全に資する行動の普及・啓発、ボランティア活動の充実、尾瀬ファンとの交流

（5）シビックプライド形成プログラム

尾瀬での共同作業の実施、尾瀬を学ぶ場の機会の充実

（6）脱炭素・循環型公園プログラム

ゼロカーボン実現に向けた取組、資源循環に関する取組

7. 進捗状況評価と
必要に応じた利用APの改訂

・ 進捗状況の評価

・ 必要に応じた利用APの改訂

尾瀬国立公園利用アクションプラン (素案)

2022(令和4)年3月16日

尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会

本案は検討中のものであり、今後、内容を変更する可能性があります。

尾瀬国立公園利用アクションプラン（素案）

目次

1. はじめに	1
2. 尾瀬がめざす姿、利用 AP のコンセプト	2
3. 現状分析	3
(1) 活かしたい尾瀬の強み	3
(2) 尾瀬の利用状況	6
(3) 尾瀬の利用における課題	18
4. 利用 AP 取組方針	20
5. 指標設定 (KPI)	21
6. 取組 (プログラム) の実施	22
(1) 魅力向上プログラム	25
(2) 滞在・周遊促進プログラム	30
(3) 魅力的プロモーション実施プログラム	35
(4) 尾瀬ファン創出プログラム	41
(5) シビックプライド形成プログラム	43
(6) 脱炭素・循環型公園プログラム	46
7. 進捗状況評価と必要に応じた利用 AP の改訂	48
(1) 進捗状況の評価	48
(2) 必要に応じた利用 AP の改訂	48

(参考資料)

- ・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会 設置要綱
- ・検討記録（勉強会、小委員会、協議会）
- ・尾瀬利用満足度調査（尾瀬利用者、山小屋宿泊者）
- ・旅行市場における尾瀬の利用に関する調査

1. はじめに

(策定の背景)

- ・ 尾瀬国立公園は日本最大の山岳湿原である尾瀬ヶ原の湿原景観を中心に、長い年月によって育まれた多様な植物相を持ち、日本の自然保護運動が始まった象徴的な地域でもあります。
- ・ 本公園では、2007（平成 19）年に尾瀬関係者からなる尾瀬国立公園協議会が設置され、「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」を基本理念とする『尾瀬ビジョン』に基づいて国立公園の協働型管理が進められてきました。
- ・ 2018（平成 30）年には、同ビジョンが改訂された『新・尾瀬ビジョン「あなた」と創る「みんな」の尾瀬』に基づいて現在は取組が進められています。
- ・ 2019（令和元）年度からは『新・尾瀬ビジョン』を踏まえた、『尾瀬国立公園管理運営計画書』の検討が始まり、尾瀬国立公園の魅力向上と質の高い利用の方向が示される予定です。
- ・ そのような中、新型コロナウイルスの発生により、尾瀬を取り巻く社会的な環境が大きく変化し、尾瀬では入山者数が大幅に減少しています。
- ・ その結果、これまで地域が担ってきた利用施設の維持管理が困難となる状況も一部で生じ始めています。このままでは近い将来、尾瀬全体の管理水準が著しく低下し、国立公園としての適正な利用環境を利用者に提供できなくなることも考えられます。

(策定の目的と位置づけ)

- ・ 以上の背景を踏まえて、尾瀬国立公園の魅力向上と質の高い利用を実現するために、『尾瀬国立公園利用アクションプラン（以下「利用 AP」という）』を策定します。
- ・ 利用 AP は『新・尾瀬ビジョン』が掲げる「尾瀬がめざす姿」を、その行動理念に基づいて具体的に実現するためのプランです。
- ・ 利用 AP は利用者を 3 段階のステージ（ビギナー、リピーター、ファン*）に分け、その利用形態を、「利用」から「守る」へと変容させる戦略（通称：尾瀬ファンベース戦略）です（詳細は後述）。

*ビギナー＝尾瀬利用回数 1 回、リピーター＝尾瀬利用回数 2 回以上、
ファン＝尾瀬利用回数 2 回以上＋守る活動への参加

(検討体制と検討プロセス)

- ・ 利用 AP は 2021（令和 3）年度から 2023（令和 5）年度の 3 ヶ年を検討・試行期間とし、検討・試行期間終了後に策定される予定です。
- ・ 試行期間の 1 年目（2021（令和 3）年度）は、目標や指標の設定を行い、2・3 年目（2022～2023（令和 4～5）年度）は取組（プログラム）の試行を行い、その検証と改善後に策定されます。
- ・ 尾瀬国立公園協議会の下部に「尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会」を設置し、尾瀬国立公園利用アクションプラン検討に向けた勉強会（ウェブ会議、現地視察）等を開催して意見交換を行いつつ、利用 AP の検討を進めていきます。

2. 尾瀬がめざす姿、利用 AP のコンセプト

- ・ 利用 AP は『新・尾瀬ビジョン』が掲げる「尾瀬がめざす姿」を、その行動理念に基づいて具体的に実現するためのプランです。
- ・ 『新・尾瀬ビジョン』では、自身や次代を担う子どもにとって、20 年後の尾瀬がどうあってほしいかを考え、「尾瀬がめざす姿」を以下のように定めています。

尾瀬がめざす姿

みんなの財産である尾瀬をこれからも守り続けていくため、活かしたい尾瀬の強みを高めながら、3つの視点を大切に「**みんなに愛され続ける尾瀬**」を目指しましょう。

1. 「生きもの」の視点 尾瀬本来の生きものがありのまに生きている
2. 「利用者」の視点 いつ来ても楽しく誰もがわくわくできる
3. 「地域」の視点 地域の人々が誇りを持っていきいきできる

- ・ そして、『新・尾瀬ビジョン』では、尾瀬がめざす姿を実現するために、以下の行動理念に基づき行動することを定めています。

行動理念

「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」

1. みんなの尾瀬
尾瀬の普遍の価値を広く発信し、尾瀬を愛する輪を広げていきましょう。
2. みんなで守る
かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、しっかりと次代に引き継いでいきましょう。
3. みんなで楽しむ
自然を損なわない楽しみ方を考えながら、みんなが訪れたくなる尾瀬にしましょう。

- ・ また、『新・尾瀬ビジョン』では「尾瀬の今後の方向性・必要な取組」について以下のようにまとめられています（内容一部抜粋）。

1. みんなの尾瀬

- 視点① 愛される尾瀬づくり（尾瀬のファンづくり、尾瀬で学ぶ機会の拡大）
- 視点② モデルとなる尾瀬づくり（先進的な取組の推進）
- 視点③ 尾瀬を育てる仕組みづくり
（多様な主体の参加と連携促進、担い手の育成、資金的サポートの呼びかけ）
- 視点④ 情報の効果的・効率的な発信（認知度の向上、情報の共有）
- 視点⑤ 尾瀬の現状把握（基本情報の収集）

2. みんなで守る

- 視点① 自然豊かな尾瀬づくり
（これまでの取組の継承、貴重な自然環境の保護、植生の荒廃対策、外来植物対策）
- 視点② 歴史・伝統・文化が息づく尾瀬づくり
（歴史・伝統・文化の保全、新しい歴史・伝統・文化の創造）
- 視点③ 野生動物との軋轢の解消
（ニホンジカによる被害の低減、ツキノワグマとの共存、新たな獣害への対応）
- 視点④ 科学的知見に基づく保全（調査研究の促進）

3. みんなで楽しむ

- 視点① 魅力あふれる尾瀬づくり（尾瀬の魅力向上）
- 視点② 幅広い楽しみ方の検討
（多様な利用方法の検討、エコツーリズムの推進、地域における利用の役割分担、
滞在型・周遊型利用の促進）
- 視点③ 楽しむための土台づくり
（安全対策、施設の整備、ルール・マナーの検討、普及啓発、
望ましい交通アクセスの検討）

- ・ 以上を踏まえて、利用 AP のコンセプト（全体を通した基本的な考え方）を以下に定めます。

利用 AP のコンセプト

「尾瀬を楽しむことを通して、守ることへの協力をうながす」

3. 現状分析

- ・ ここでは、『尾瀬国立公園利用アクションプラン』のコンセプト「尾瀬を楽しむことを通して、守ることへの協力をうながす」に沿って行動するために、現状分析を行い、尾瀬の強みを活かすための対応課題を整理します。

(1) 活かしたい尾瀬の強み

- ・ 『新・尾瀬ビジョン』では、活かしたい尾瀬の強みとして、以下の7つがあげられています（内容抜粋、一部集約整理）。

1) 歴史・伝統・文化の魅力

- ・ 尾瀬には、長い歴史の中で息づいてきた伝統・文化が多くあります。
- ・ 新潟県魚沼市には、平安時代に旧湯之谷村で最期をとげたと言われる尾瀬中納言三郎の立像があり、昔から尾瀬との関わりがあったことがうかがえます。
- ・ 福島県檜枝岐村と群馬県片品村は、尾瀬を挟んで旅人が行き交う会津沼田街道の途中にあり、江戸時代には物資を運ぶ交易路となっていました。また、戊辰戦争の際に会津軍が築いた土塁跡が大江湿原に今も残っており、片品村戸倉には、会津軍と新政府軍が交戦した記録が残されています。
- ・ この他にも、尾瀬と結びついた歴史・伝統・文化に基づくストーリー（独自の神話、地名の由来など）が数多くあり、これらは今後磨き上げて発信していきたい尾瀬の魅力です。

2) 尾瀬が持つ普遍の価値

- ・ 雄大で豊かな自然が残る尾瀬は、見る人に美しさや心地よさ、くつろぎを感じさせてくれるなど、「みんな」にとって価値のあるものです。
- ・ 尾瀬は、寒冷な気温と豊かな降水量によって、変化に富んだ山岳地形がかたちづくられ、川や森、湿原など豊かな自然が見られます。
- ・ 8千年という長い年月をかけてつくられた湿原の泥炭には、過去の気候変動や浅間山や榛名山、遠くは九州の火山活動が保存記録されているなど、自然の博物館としても貴重な存在です。このように、自然的・文化的に特に価値が高いものとして特別天然記念物にも指定されています。
- ・ 2005（平成17）年には、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）」に登録されるなど、様々な生きものが織りなす生態系も価値あるものです。

3) 自然保護の原点

- ・ 尾瀬はこれまで、度重なる開発の波にさらされてきました。1903（明治36）年、尾瀬にダムを建設する計画が初めて発表されてから、水力発電を進める国策と尾瀬の保存を求める考えの間で、長期にわたる議論がありました。1948（昭和23）年に尾瀬ヶ原全体をダム化する計画が持ち上がると、1949（昭和24）年には学者・文化人・登山家たちが、「尾瀬保存期成同盟」（今の「公益財団法人日本自然保護協会」）を結成し、日本の自然保護運動の先

駆けとなりました。

- ・ 尾瀬周辺の道路についても、1940（昭和 15）年に日光国立公園利用計画に会津沼田街道の車道化が位置付けられてから議論が続けられました。計画変更を経て、福島・群馬の両県による工事が進められましたが、全国的に自然保護の世論が高まり、尾瀬では 1971（昭和 46）年に平野長靖氏が環境庁（当時）長官に訴え、また「尾瀬の自然を守る会」が結成されるなどして道路計画の中止につながりました。
- ・ このように、今でも美しい尾瀬の魅力を私たちが感じることができるのは、先人たちの想いと取組があったからです。

4) ごみ持ち帰り運動発祥の地

- ・ 1972（昭和 47）年に、地元団体、山小屋組合などの関係機関、登山者有志や国立公園協会の提案によって環境省・地元 3 県（福島・群馬・新潟）・関係機関による「ごみ持ち帰り運動」が始まり、30 年以上もごみ持ち帰りの呼びかけが地道に行われています。
- ・ 尾瀬に関わる人々の協力と努力によって、一時期はごみであふれていた尾瀬も、今は美しい自然を保っています。

5) 多様な主体が参加できる「仕組み」の存在

- ・ 国立公園では、優れた自然風景を後世まで残していくこと（保護）と、様々な人がその素晴らしさを楽しむこと（適正な利用）のバランスをとっていくことが必要です。そのためには地域住民や利用者、土地所有者、行政機関、自然保護団体などの多様な主体が一体となって取り組む「仕組み」が重要です。
- ・ 尾瀬では、2008（平成 20）年から「尾瀬国立公園協議会」が開催され、全国に先駆けて多様な主体による尾瀬国立公園の管理運営が進められてきました。尾瀬では多様な主体が参加できる「仕組み」が先進的に作られています。

6) 一級 of 自然の中で歩き、学び、宿泊できる特別感

- ・ 国立公園では、保護と適正な利用のバランスをとるために一定の行為が規制されており、規制の強い順に特別保護地区、特別地域、普通地域に区分されています。
- ・ 尾瀬国立公園の中心部は、特別保護地区であり、特に優れた自然風景や生態系を有している場所です。それでありながら歩道やサービスの充実した山小屋が整備されていることで、優れた自然の中を歩くだけでなく、環境学習のフィールドとして利用できています。さらに、宿泊することで朝もや、白い虹、夕焼け、星空、ホタルが飛ぶ情景など、宿泊した者だけが体験できる特別な魅力を尾瀬は持っています。

7) 受け入れることができる利用者層の幅広さ

- ・ 尾瀬は、2 千メートル級の山々で登山を楽しめる場所でありながら、国立公園の中心部は木道が整備されており、様々な世代が一緒に楽しめる場所になっています。複数の登山口やルートが存在するだけでなく、歴史・伝統・文化の魅力も有していることで、幅広い利用者層を受け入れることができることが特徴であり、利用者はニーズ、体力に合わせて多様な楽しみ方ができます。

(2) 尾瀬の利用状況

1) 全般

●入山者数の推移

- ・ 尾瀬国立公園への入山者数は、1996（平成 8）年の 65 万人をピークに 30 万人以下となっています。近年は、入山者数の微減傾向が続いています（国立公園全体は、2011（平成 23）年以降増加傾向にあります）。

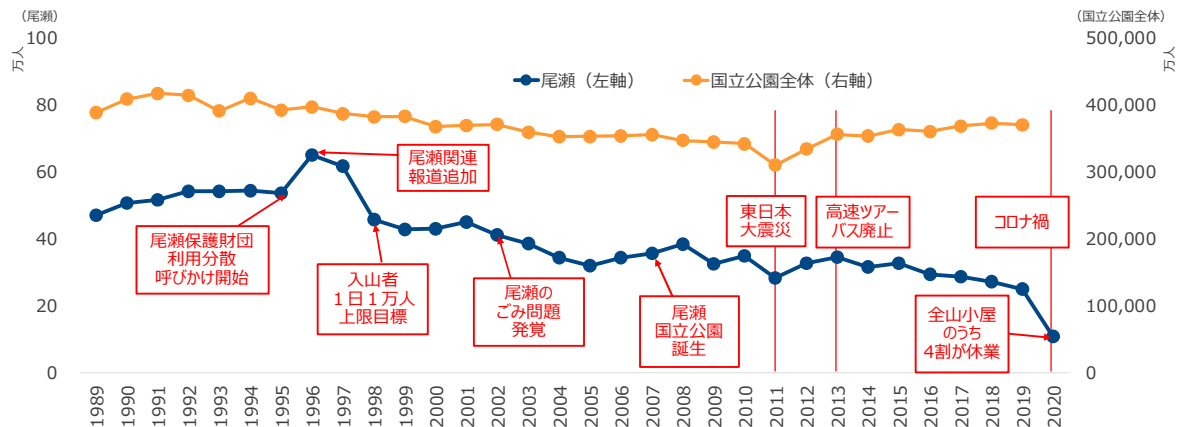


図 1 尾瀬国立公園と国立公園全体の入山者数

出典：環境省

●入山口別入山者数及びその構成比

- ・ 入山口別に見ると、1989（平成元）年から 2019（令和元）年の間では、鳩待峠口と比べて沼山峠口及び大清水口の減少幅が大きくなっています。
- ・ 主要入山口の利用割合を見ると、鳩待峠口への集中が続いています。2020（令和 2 年）度においては、御池口、大清水口の利用割合が増加しています。

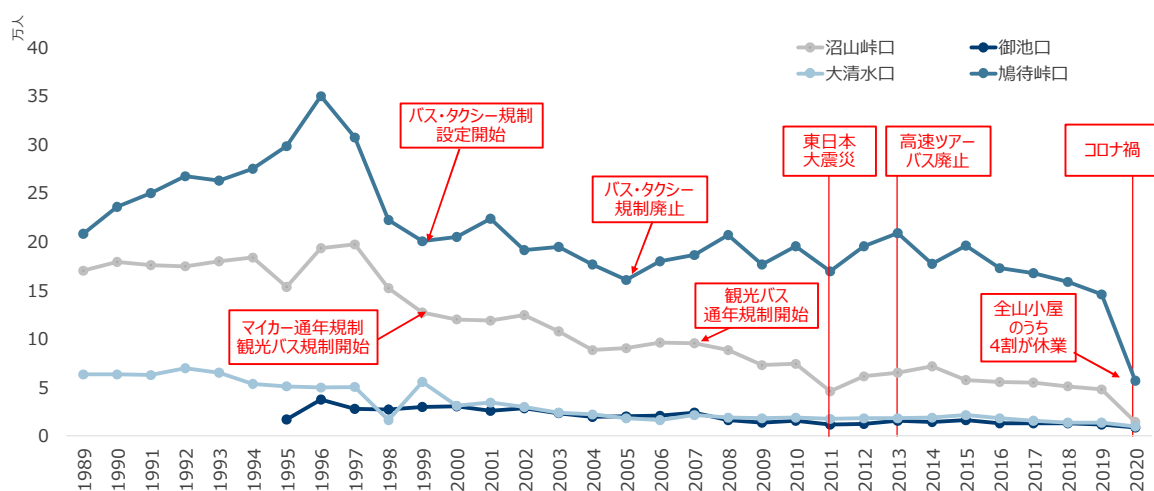


図 2 入山口別の入山者数

出典：環境省

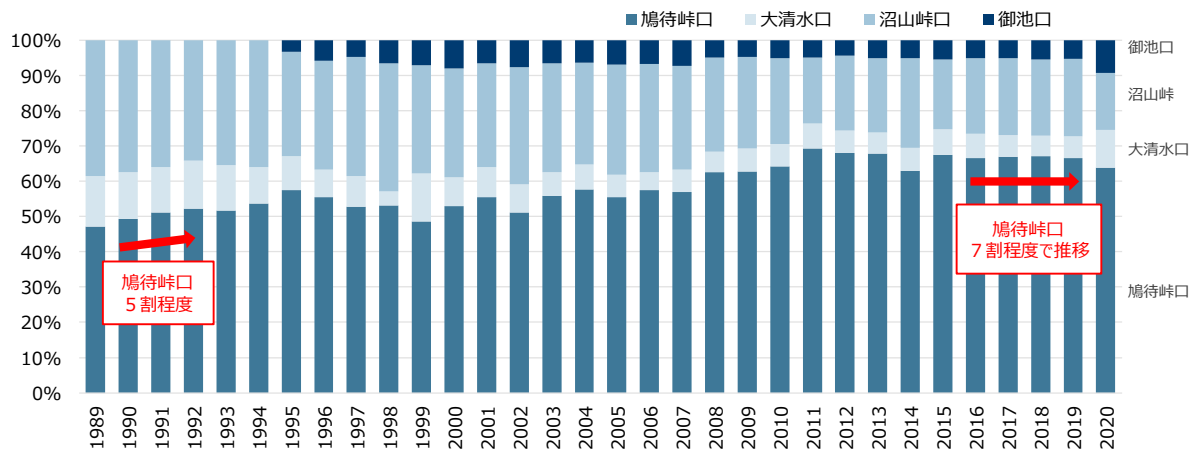


図3 入山口別の入山者割合

注：1989年～1994年の「御池口」は「その他」に含まれるため割愛しています。

出典：環境省

●月別入山者数

- ・ 尾瀬入山者数は、6月、7月の減少が大きいです。
- ・ 全体としては、季節利用は平準化してきています。

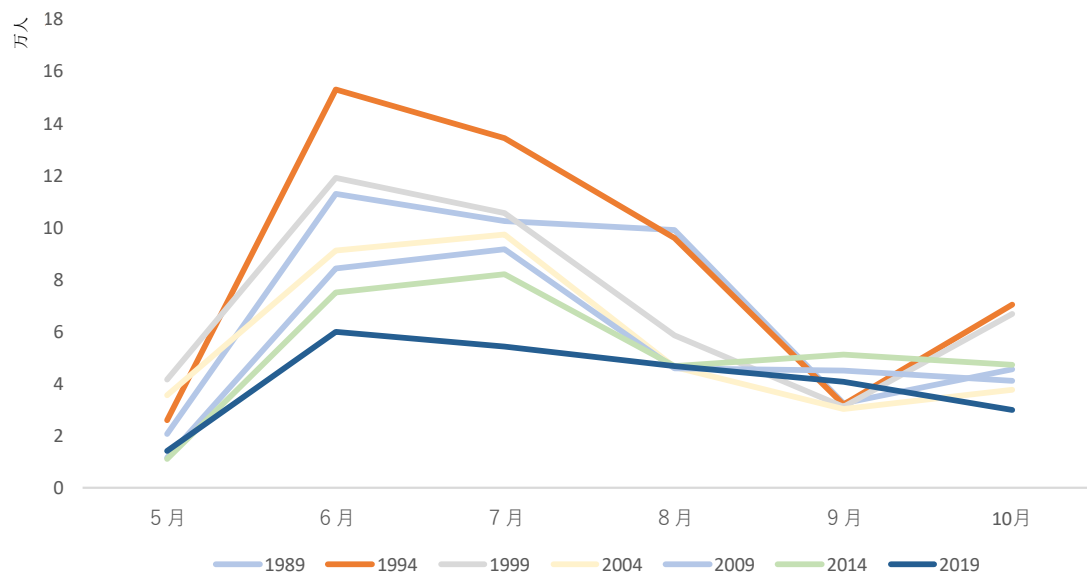


図4 月別入山者数

出典：環境省

●ビッグデータを用いた国内利用者数

- ・ ビッグデータを用いた尾瀬国立公園の国内利用者数は、2019（令和元）年度は約 24 万人と推計されています。
- ・ 性・年代別に見ると、男女ともに 60 代が最も多く、利用者の約 25%を占めます。34 国立公園全体の性・年代別利用者数の構成比と比べて、尾瀬国立公園は 60 代の占める割合が高くなっています。
- ・ 次に四半期別に利用者数を見ると、4-6 月は約 7 万 7,000 人、7-9 月は約 10 万 4,000 人、10-12 月期は、3 万 1,000 人となります。いずれの四半期においても 60 代が最も多くなっています。
- ・ 居住地別に利用者数を見ると、関東居住者の利用者数が最も多く、いずれの四半期においても 7 割以上を占めます。四半期によって構成比は異なるが、東北、中部、関西の利用者も 10%前後を占める期があります。
- ・ 都道府県別の利用者数は、上位 5 つは、東京都、埼玉県、群馬県、神奈川県、千葉県となります。上位 5 都県で全体の 6 割、上位 8 都県で全体の 8 割を占めます。
- ・ 市町村別の利用者数は、上位 5 つは、前橋市、高崎市、宇都宮市、会津若松市、郡山市です。

表 1 年間国内利用者数（総数、性・年代別）_2019（令和元）年

	尾瀬						34国立公園					
	男性		女性		全体		男性		女性		全体	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
総数	139,659	100.0	100,263	100.0	239,922	100.0	57,366,917	100.0	48,550,417	100.0	105,917,334	100.0
80歳代	3,895	2.8	2,964	3.0	6,859	2.9	1,678,871	2.9	2,182,178	4.5	3,861,049	3.6
70歳代	21,789	15.6	17,510	17.5	39,299	16.4	5,650,130	9.8	5,808,274	12.0	11,458,404	10.8
60歳代	34,752	24.9	26,708	26.6	61,460	25.6	8,718,932	15.2	7,548,830	15.5	16,267,762	15.4
50歳代	24,247	17.4	17,271	17.2	41,518	17.3	9,080,789	15.8	6,983,162	14.4	16,063,951	15.2
40歳代	22,668	16.2	14,822	14.8	37,490	15.6	11,051,531	19.3	8,106,324	16.7	19,157,855	18.1
30歳代	14,324	10.3	9,442	9.4	23,766	9.9	8,989,483	15.7	7,281,079	15.0	16,270,562	15.4
20歳代	13,525	9.7	8,619	8.6	22,144	9.2	9,097,133	15.9	8,053,021	16.6	17,150,154	16.2
10歳代	4,459	3.2	2,927	2.9	7,386	3.1	3,100,048	5.4	2,587,549	5.3	5,687,597	5.4

注：尾瀬は 2019（令和元）年度（2019（令和元）年 4 月～2020（令和 2）年 3 月）のデータを使用

出典：令和 2 年度 国立公園満喫プロジェクト推進業務（環境省）より作成

調査の概要：位置情報ビッグデータを用いた推計結果

・携帯電話会社が保有する携帯電話の基地局位置情報を用いて算出した人口統計

・国内居住者については、国内契約者数約 8,000 万台*から普及率を加味して拡大推計したもの

（*2020 年（令和 2）年 3 月現在）

■対象エリア：国立公園エリア内（国立公園区域にかかる 1 km メッシュを合算したエリア。陸上のみ）

■集計方法：

・調査対象期間に国立公園内に 1 時間以上滞在した、期間ユニーク人数、同一の人が複数日にまたがって滞在しても 1 カウント

■対象者：国内に居住する 15～89 歳の男女、かつ、観光客*

*観光庁が規定する「旅行の定義」に則り、通勤・通学でない移動

のうち、片道移動距離が 80km 以上もしくは所要時間 8 時間以上の移動（隣接市町村居住者を除く）を抽出

■対象期間

・2019（令和元）年 1～12 月 ※一部公園は 2019（令和元）年 4 月～2020（令和 2）年 3 月

■属性

・総数 ・性年代別（10 歳階） ・居住地別（都道府県・市区町村）（留意事項）

・海上移動や山岳利用等で長時間の電波断絶が想定される公園については、基地局位置情報が取得できないことから過小推計になる可能性があるため、代替手法にて分析を行う（尾瀬、小笠原、南アルプス、白山）

・なお、外国人実施の場合は、性年代別分析、代替手法は実施不可

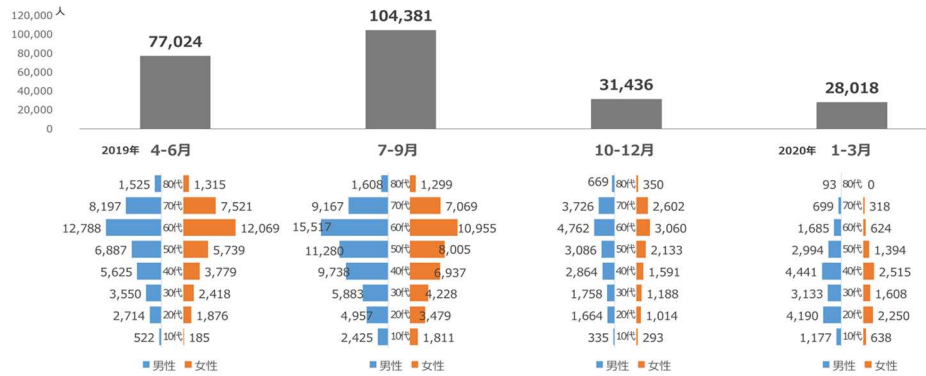


図5 四半期別国内利用者数（総数、性・年代別）_尾瀬国立公園_2019（令和元）年度

注：位置情報ビッグデータを用いた国内利用者数国立公園区域にかかる1 kmメッシュを合算したエリアを対象としているため、冬期の尾瀬利用ではなく、近隣のスキー場利用を反映していると思われる。

出典：令和2年度 国立公園満喫プロジェクト推進業務（環境省）より作成

表2 居住地別国内利用者数_尾瀬国立公園_2019（令和元）年度

	2019年			2020年	計	都道府県	利用者数（人）	構成比（%）	市区町村	利用者数（人）	構成比（%）
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月							
利用者数（人）						東京都	44,909	18.6	群馬県 前橋市	5,082	2.1
						埼玉県	35,766	14.8	群馬県 高崎市	4,655	1.9
						群馬県	25,289	10.5	栃木県 宇都宮市	4,410	1.8
						神奈川県	24,392	10.1	福島県 会津若松市	3,509	1.5
						千葉県	20,046	8.3	福島県 郡山市	3,320	1.4
						福島県	18,909	7.9	東京都 世田谷区	3,118	1.3
						栃木県	15,382	6.4	東京都 練馬区	2,957	1.2
						茨城県	12,675	5.3	福島県 福島市	2,315	1.0
						新潟県	6,340	2.6	群馬県 沼田市	2,256	0.9
						大阪府	4,176	1.7	東京都 板橋区	2,214	0.9
						愛知県	3,760	1.6	東京都 足立区	2,179	0.9
						静岡県	3,340	1.4	群馬県 伊勢崎市	2,145	0.9
						宮城県	3,124	1.3	東京都 大田区	2,109	0.9
						兵庫県	2,611	1.1	千葉県 船橋市	2,033	0.8
						長野県	2,380	1.0	群馬県 太田市	1,982	0.8
構成比（%）						北海道	0.2	0.2	0.0	0.1	0.2
						東北	8.0	12.2	12.7	5.3	10.1
						関東	70.1	72.4	74.7	90.6	74.1
						中部	9.3	9.0	7.6	1.9	8.1
						関西	7.7	3.7	2.4	0.0	4.4
						中国・四国	2.0	1.3	0.0	0.0	1.2
						九州・沖縄	1.7	0.8	0.4	0.0	0.9

注：不明を含むため、合計は100%にならない（左表）。

出典：令和2年度 国立公園満喫プロジェクト推進業務（環境省）より作成

●訪日外国人利用者数_2019（令和元）年度

- 訪日外国人利用者数は、尾瀬国立公園は、約0.1万人（参考値）です。

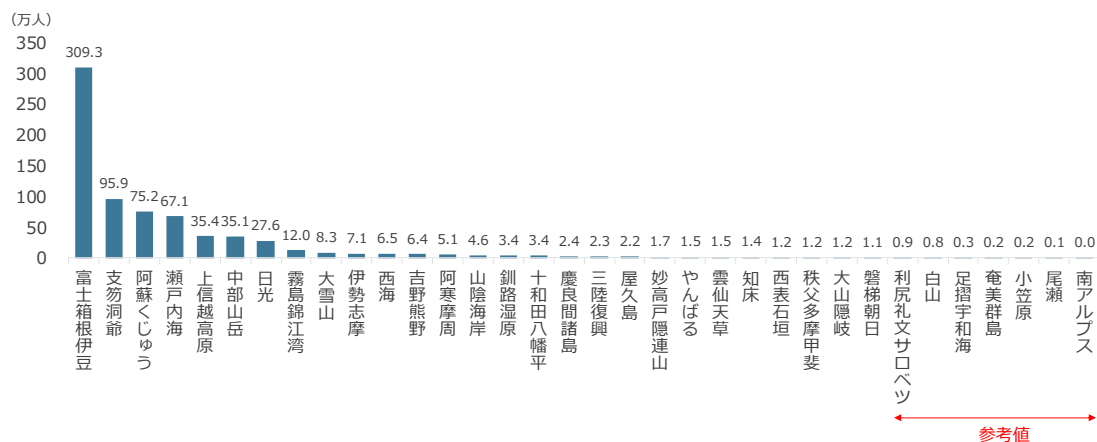


図6 国立公園の訪日外国人利用者数の推計（2019（令和元）年度）

出典：国立公園満喫プロジェクト第14回有識者会議資料（環境省）

●山小屋宿泊者数

- ・ 山小屋宿泊者数は、昭和 50 年代から減少傾向が続いています。
- ・ 入山者数に占める山小屋宿泊者数は、長年 20% 前半で推移しています。

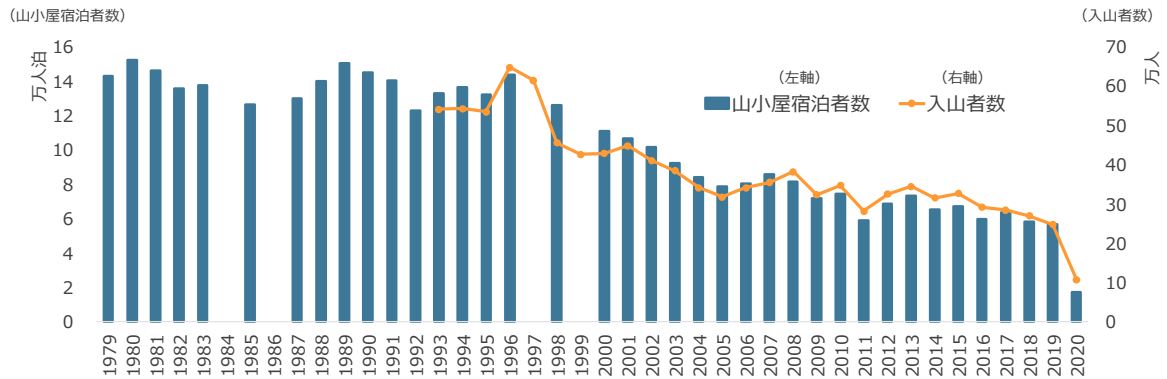


図 7 山小屋宿泊者数と入山者数

注：1979 年～1988 年/1990 年～2000 年は、一部データの欠損あり。1984 年, 1986 年, 1997 年, 1999 年は欠損が多いため割愛。

1993 年元湯山荘休業、2012 年～物見小屋休業、2016 年～富士見小屋・渋沢温泉小屋廃業

出典：環境省

●野営場利用者数

- ・ 野営場利用者数は、2019（令和元）年までは増加傾向が続いていました。
- ・ 2020（令和 2）年度は、野営場利用者数は、前年比約 6 割でした（入山者数は前年比約 4 割）。

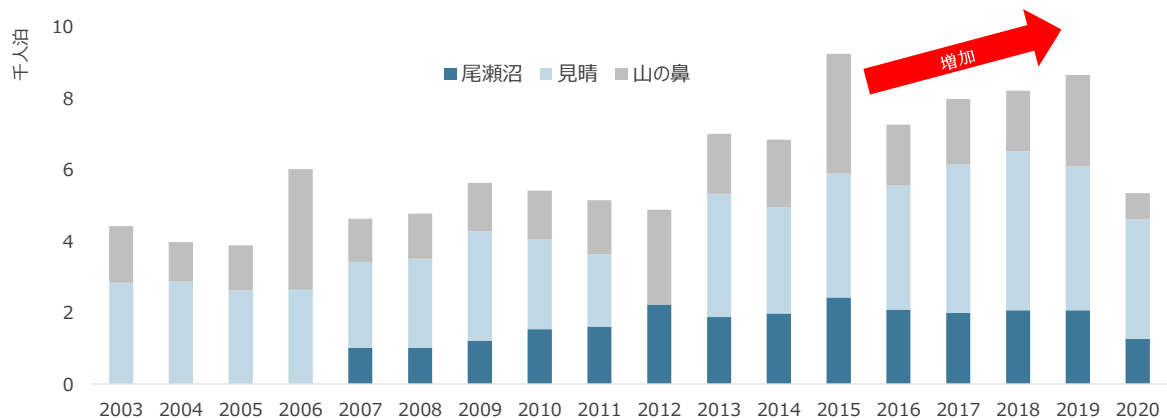


図 8 野営場利用者数

注：2003 年～2006 年尾瀬沼野営場休止、2012 年見晴野営場休止。

出典：環境省

●尾瀬認定ガイド

- ・ 尾瀬認定ガイド利用者数は、2013（平成 25）年以降増加傾向にありましたが、近年は頭打ちの状態です。
- ・ 尾瀬認定ガイドの約 6 割は 60 代以上となります。

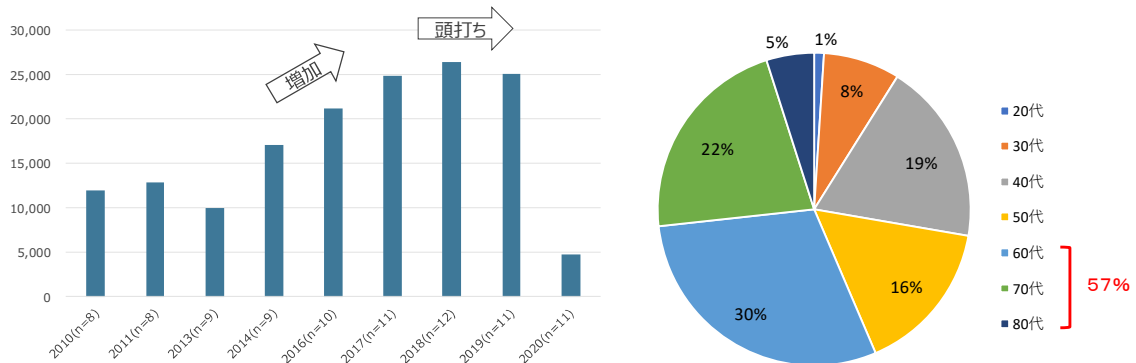


図 9 ガイド実績人数と尾瀬認定ガイドの年齢構成

注：（左図）「n」は回答のあったガイド団体数。（右図）2021（令和 3）年 1 月 7 日時点※「休止」は除く。

出典：尾瀬ガイド協会

2）利用者の属性

●来訪目的

- ・ 尾瀬来訪の目的では風景鑑賞が最も多く、次いでトレッキング・ハイキングが多いです。

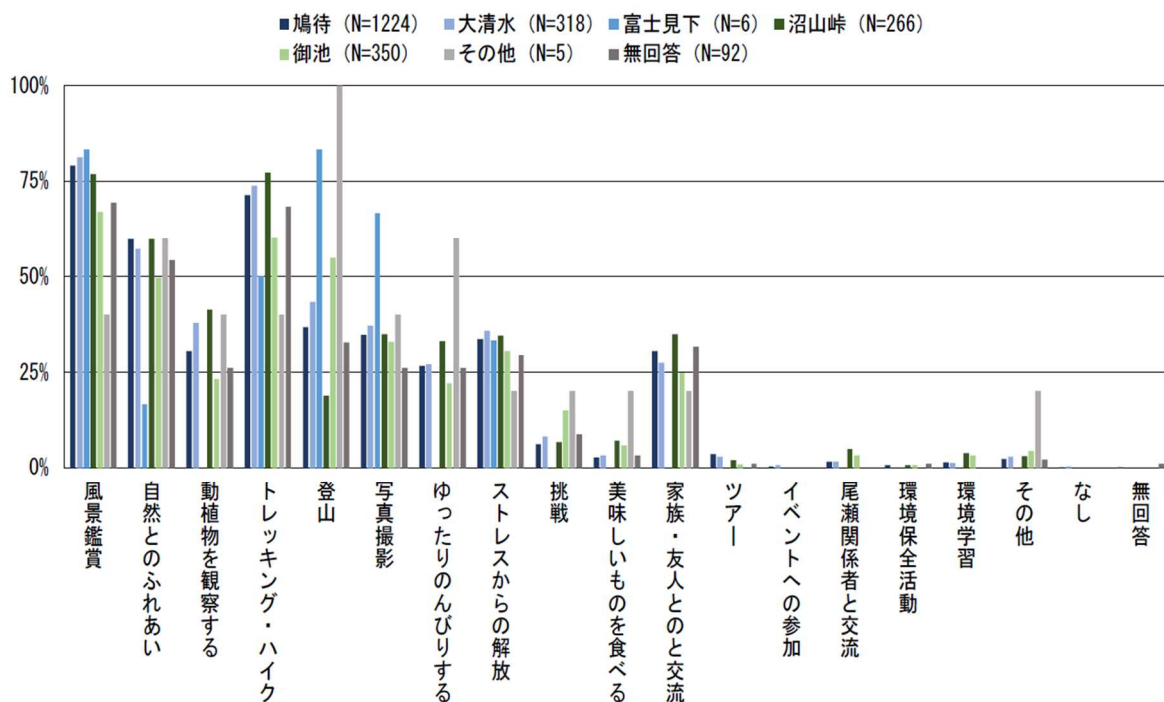


図 10 来訪目的（入山口別、2021（令和 3）年）(n=2261)

出典：環境省

●宿泊日数

- ・ 宿泊の有無について、主要な入山口では「宿泊なし」が6割から7割を占めます。
- ・ 宿泊日数については、鳩待峠、沼山峠、御池は、1泊が多いのに対して、大清水、富士見下は、2泊の占める割合が多いです。

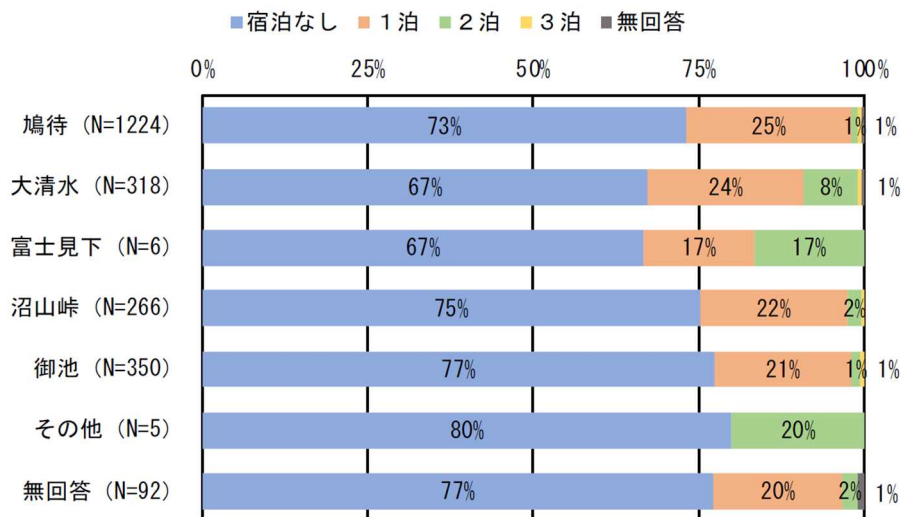


図 11 山小屋での宿泊数（入山口別、令和3（2021）年）（n=2261）

出典：環境省

●1人あたり旅行消費額

- ・ 旅行全体の消費額の平均は18,164円、尾瀬内旅行消費額の平均は10,043円でした。
- ・ 費目別にみると、自然体験・アクティビティ費は118円、買い物・お土産代は892円と少ないです。

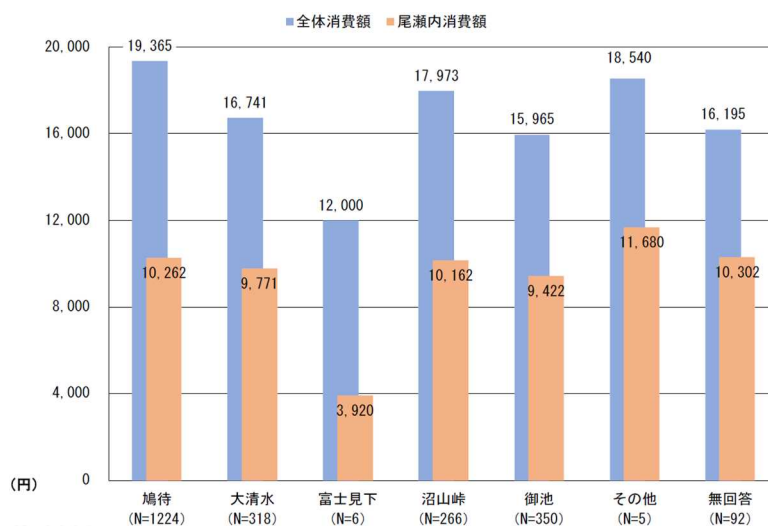


図 12 1人あたり旅行消費額（入山口別、2021（令和3）年）（n=2261）

出典：環境省

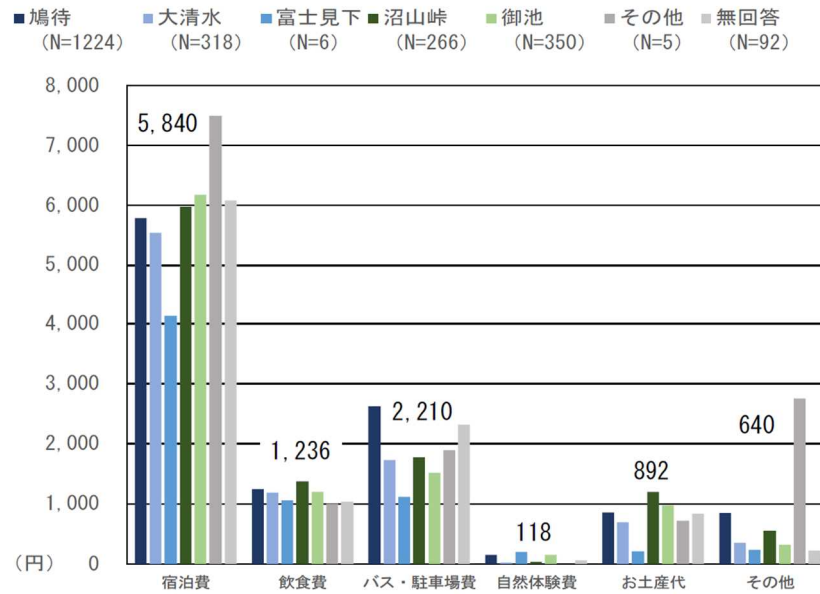


図 13 項目別 1 人あたりの尾瀬地域内旅行消費額（入山口別、2021（令和 3）年）（n=2261）

出典：環境省

●満足度

- ・ 尾瀬の「滞在全体」の満足度は、6.27 でした。個別満足度は、「自然景観・雰囲気」が最も高く 6.51 でした。

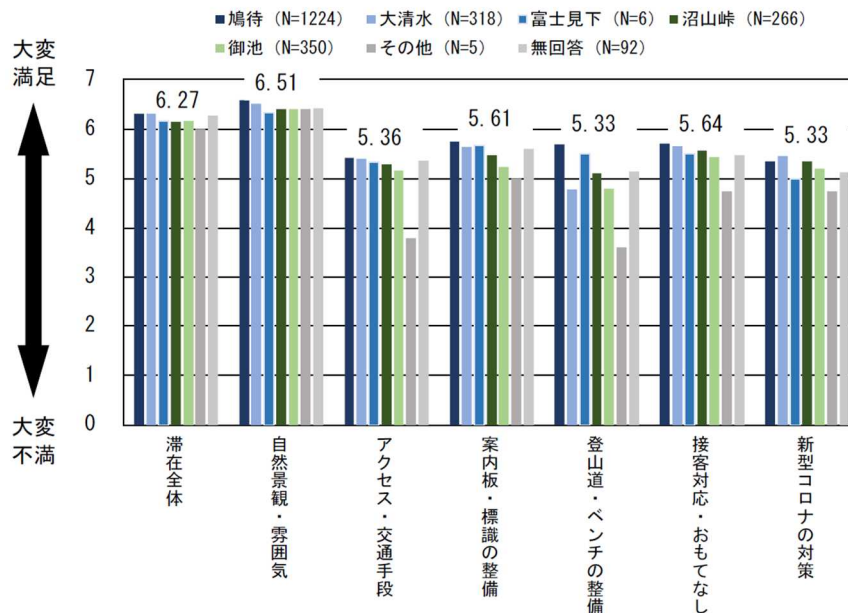


図 14 満足度（入山口別、2021（令和 3）年）（n=2261）

注：グラフ上の数字は各項目の平均値

出典：環境省

●再来訪意向

- ・ 再来訪意向は、6.47 と高いです。

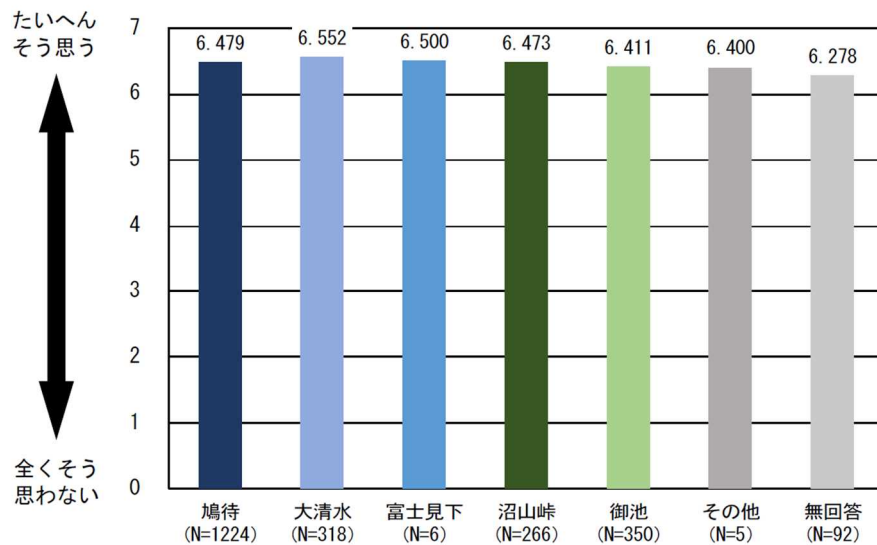


図 15 再来訪意向（入山口別、2021（令和3）年）（n=2261）

出典：環境省

●リピート率

- ・ 過去のアンケート調査から、尾瀬の訪問回数をまとめると、2回目以上の訪問者は 70%前後で推移しています。訪問回数が6回以上の利用者も 20%台で推移しています。

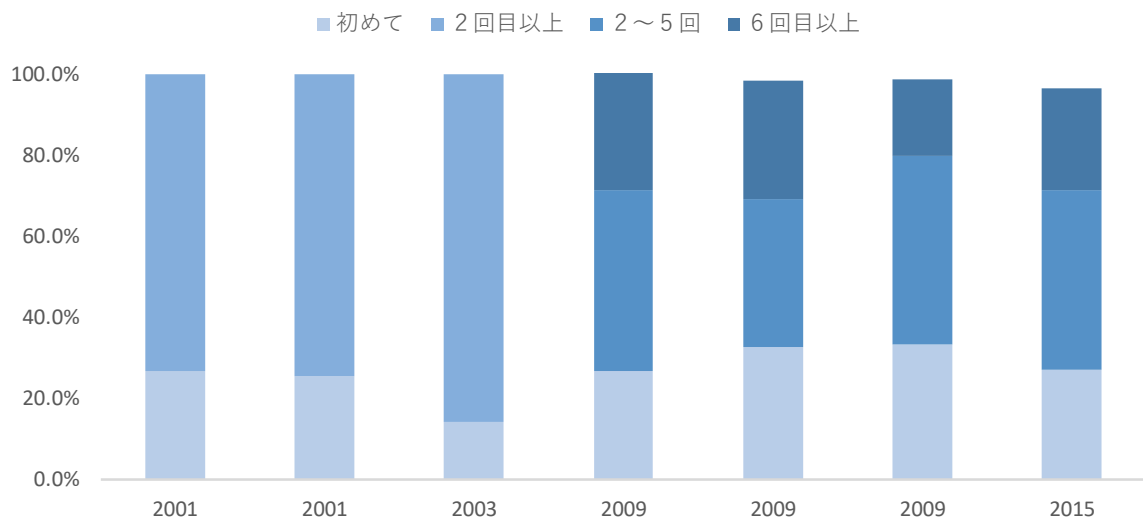


図 16 リピート率

注：2003 年以前のアンケート設問では、訪問回数の区切りが不統一であり、「2 回目以上」としてまとめています。

出典：環境省

3) 認知度・来訪経験率・来訪意向・利用に関するイメージ

●認知度

- ・ 尾瀬の認知度は、70.8%です。年代別には、40代未満と40代以上で差があり、40代以上は7割以上の認知度、40代未満は、5割以下の認知度となっています。
- ・ 居住地別では、関東が最も高く認知度は84.4%です。

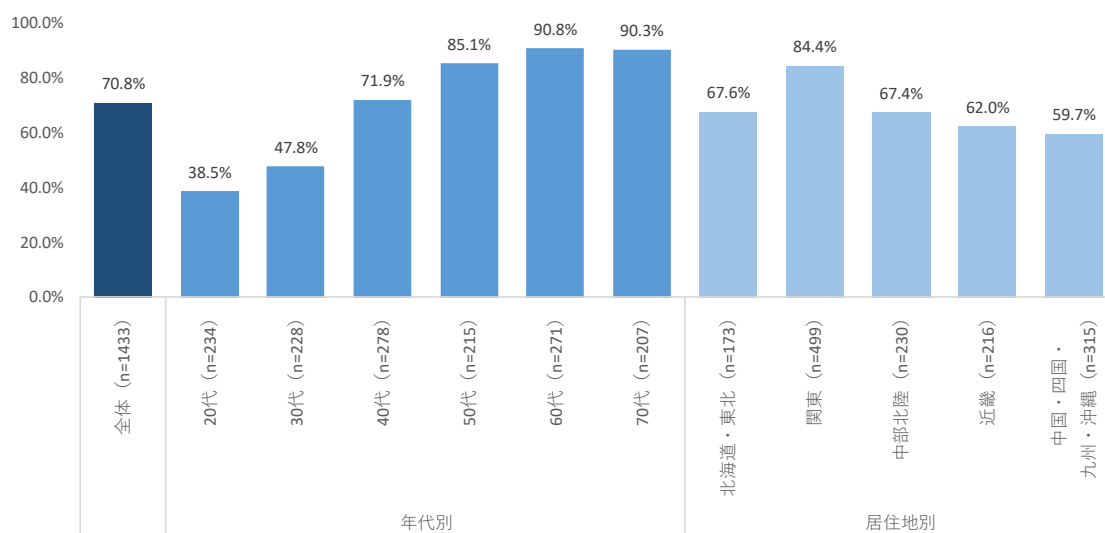


図 17 尾瀬の認知度（2021（令和3）年）(n=1433)

注：上記では、無回答を除いて集計している。20代には18,19歳を含む。

出典：「JTBF 旅行意識調査 2021（5月）調査」（公財）日本交通公社

●来訪経験率

- ・ 尾瀬の来訪経験率は、18.8%、年代別には、年代が上がるほど来訪経験率も高くなっています。居住地別には、関東が最も高く32.5%が尾瀬に来訪しています。

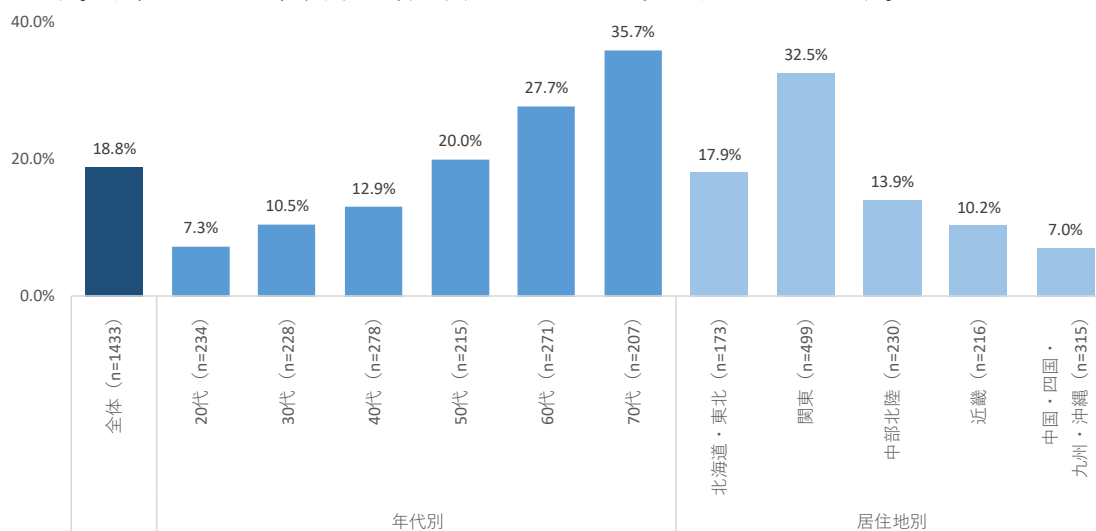


図 18 尾瀬の来訪経験率（2021（令和3）年）(n=1433)

注：上記では、無回答を除いて集計している。20代には18,19歳を含む。

認知と経験に関する設問では、3つの選択肢「(1)知らない」「(2)行ったことはないが知っている」「(3)行ったことがある」を提示。ここでは、(3)の回答数が全回答数に占める割合を「来訪経験率」としている。

出典：「JTBF 旅行意識調査 2021（5月）調査」（公財）日本交通公社

●来訪意向

- ・ 尾瀬への来訪意向について、「行きたい（「ぜひ行きたい」＋「行きたい」の合計）」は70.6%です。

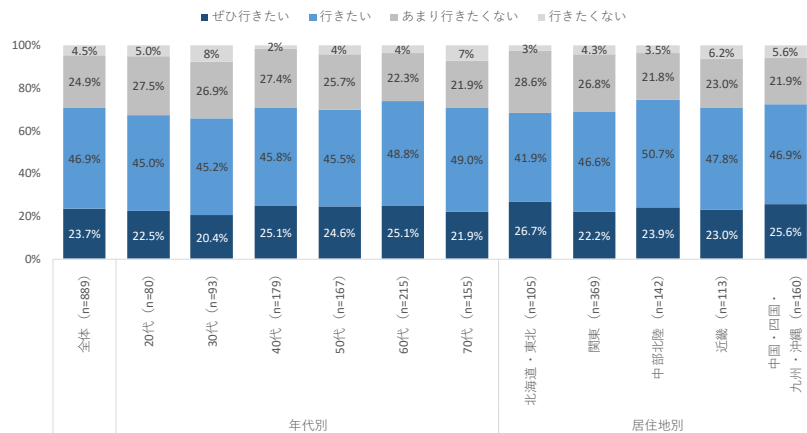


図 19 尾瀬の再来訪意向（2021（令和3）年）（n=889）

注：上記では、無回答を除いて集計している。20代には18,19歳を含む。

今後の希望に関する設問では、4つの選択肢「(1)ぜひ行きたい」「(2)行きたい」「(3)あまり行きたくない」「(4)行きたくない」を提示。回答者は、尾瀬を認知している人。

出典：「JTBF 旅行意識調査 2021（5月）調査」（公財）日本交通公社

●利用に関するイメージ

- ・ 尾瀬の「過ごし方」イメージについては、訪問経験の有無に関わらず、上位3つ（「動植物の観察が楽しめる」「トレッキングが楽しめる」「写真撮影が楽しめる」）は同じですが、その選択率には10%以上の差があります。一方、「のんびりゆっくり滞在できる」については、訪問経験のある人、ない人、ともに約25%の選択率でした。
- ・ 尾瀬の「情報案内、施設、サービス」のイメージについては、訪問経験の有無に関わらず、「木道・歩道が充実している」の選択率が最も高くなっています。それ以外の項目については、訪問経験がある人においても選択率が低くなっています。
- ・ 尾瀬の「利用者」イメージについては、訪問経験の有無に関わらず、上位2つ（「高齢者（概ね60歳以上）が充実した時間を過ごせる」、「大人（概ね40～50代）が充実した時間が過ごせる」（「いずれもあてはまらない／特にイメージはない」は除く）は同じでした。

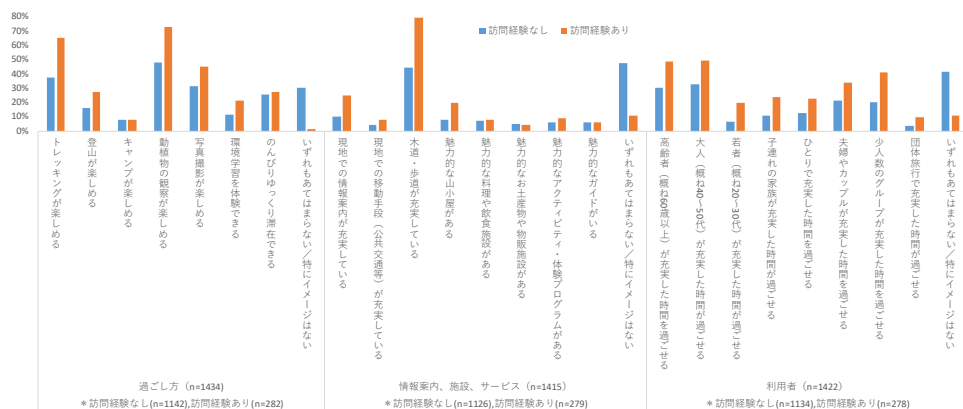


図 20 尾瀬の利用に関するイメージ（2021（令和3）年）

注：「過ごし方」「情報案内、施設、サービス」「利用者」、それぞれの結果を一つのグラフに集約。無回答を除いて集計。

出典：「JTBF 旅行意識調査 2021（12月）調査」（公財）日本交通公社

4) 他の山岳地の状況－上高地

●関心度

- ・ 尾瀬は、上高地と比べてウェブ検索が減少傾向にあります。

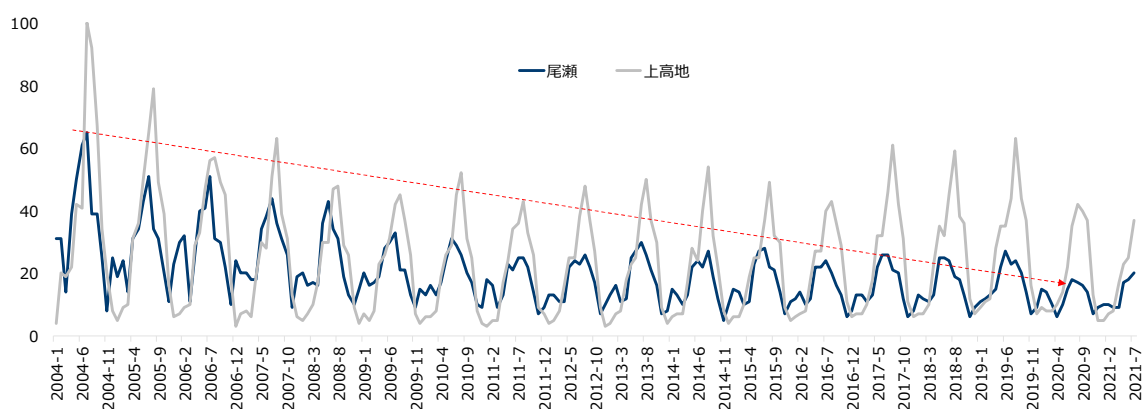


図 21 Google Trends における「尾瀬」「上高地」Web 検索関心度推移

注：Google Trends の定義：データ期間（2004 年（平成 16）4 月～2021（令和 3）年 7 月）のうち、最も検索の多かったキーワード（ここでは「上高地」）・期間（ここでは 2004（平成 16）年 7 月）を「100」とした時に、相対的な変化を示したもの。「検索されている」≡「興味・関心を持たれている」とし、「関心度」と表現。

●認知度・来訪経験率・来訪意向

- ・ 認知度、来訪経験率、来訪意向のいずれも、上高地が尾瀬より高いです。
- ・ 特に、来訪経験率については、上高地は 34.6%ですが、尾瀬は 18.8%と 15.8%も低いです。

表 3 上高地と尾瀬の認知度・来訪経験率・来訪意向（2021（令和 3）年）

	尾瀬		上高地	
	n	%	n	%
【認知度】 (=1+2の合計)	1015	70.8%	1129	78.7%
【来訪経験率】 (=1)	269	18.8%	496	34.6%
全体	1433	100.0%	1434	100.0%
1.行ったことがある	269	18.8%	496	34.6%
2.行ったことはないが知っている	746	52.1%	633	44.1%
3.知らない	418	29.2%	305	21.3%
【来訪意向】 (=1+2の合計)	628	70.6%	747	76.1%
全体	889	100.0%	981	100.0%
1.ぜひ行きたい	211	23.7%	284	29.0%
2.行きたい	417	46.9%	463	47.2%
3.あまり行きたくない	221	24.9%	206	21.0%
4.行きたくない	40	4.5%	28	2.9%

注：上記では、無回答は除いて集計している。

出典：「JTBF 旅行意識調査 2021（5 月）調査」（公財）日本交通公社

（３）尾瀬の利用における課題

- ・ 以上の現状分析を踏まえて、尾瀬の利用における主要な課題は以下の７つです。

課題１．各利用者層のニーズに応じた細やかな対応

- ・ 尾瀬は、受け入れることができる利用者層の幅広さが強みですが、若年層の利用者の減少に伴う高齢化が見られます。
- ・ リピート率に大きな変動はないものの、入山者数（絶対数）が新型コロナウイルスの影響もあり大幅に落ち込んでいる状況下においては、利用者の再来訪を促すとともに、将来のリピーターとなるビギナーも確保していくことが必要となります。
- ・ 今後は、引き続き幅広い利用者層を意識するとともに、利用者層毎のニーズ等を意識して、それぞれに対してより細やかな対応する必要があります。

課題２．利用者の動線に応じた観光・サービスの提供

- ・ 尾瀬国立公園は、自家用車から公共交通に乗り換え入山するなど、自然環境が守られている国立公園であることを利用者が意識できる公園であり、その自然環境を存分に享受できる公園です。
- ・ しかし、利用者が求めている、交通アクセスに関する情報や各地区での情報・サービスの提供などは十分ではありません。
- ・ 今後は、利用者の動線を意識し、それぞれの場面（入山前、入山中、入山後）や、それぞれの場面の連動を意識した環境づくりや利用サービスの提供が必要となります。そのためには、各地区の受入事業者が連携するための恒常的な体制整備も必要となります。

課題３．尾瀬ならではの魅力を体感・体験できる仕組み・プログラムの拡充

- ・ 尾瀬には、複数の登山口やルート、利用拠点が存在することから、利用者は、周遊利用や滞在利用することで尾瀬の多様な魅力を体感・体験できるとともに、自身の関心、体力等に合わせて多様な楽しみ方を選択できることも特徴です。
- ・ また、尾瀬は、宿泊することで、朝もや、白い虹、夕焼け、星空、ホテルが飛ぶ情景など、宿泊利用者のみが体感・体験できる特別な魅力も有しています。さらに尾瀬は、歴史・伝統・文化の魅力も有しており、多様な楽しみ方を伝えるプログラムづくりが近年進められています。
- ・ 今後は、尾瀬ならではの魅力を体感・体験できる周遊利用や滞在利用の促進、そして、より体験を奥深いものとするプログラムの拡充、そして、それらを提供する受入事業者の連携強化、仕組みの確立を進めていく必要があります。

課題４．尾瀬の魅力を訴求するプロモーションの強化

- ・ 雄大で豊かな自然が残る尾瀬は、見る人に美しさや心地よさ、くつろぎを感じさせてくれるなどの価値を有しており、現状、首都圏をはじめ全国から利用者が来訪しているものの、国内旅行市場全体では、尾瀬の認知度、来訪経験率、再来訪意向のいずれもが低下傾向にあり、尾瀬の普遍的価値を知る人自体が少なくなっています。
- ・ また、尾瀬には、３つのアプローチ（３県からのアプローチ、３つの最寄り駅、３つの移動手段（自家用車・バス・遊覧船））、２つのゲートタウン（片品村・檜枝岐村）、６つの主

な入山口や様々な登山道、さらに宿泊・立ち寄り利用できる複数の山小屋や2つのビジター、利用施設が集積する複数の地区があります。

- ・ しかし、現状では、尾瀬全体としての魅力の発信が十分ではなく、また、それぞれの持つ個性、特徴など尾瀬が有する多様な利用の魅力をも十分に伝えられていない状況にあります。
- ・ 今後は、尾瀬全体の魅力を構成するこれらの個性化をさらに進め、特徴をより明確にしていくことで、尾瀬の魅力の本質を訴求するプロモーション強化が必要となります。

課題5. 利用から保全につなげるプログラム・仕組みの充実

- ・ 利用者に感動を与える尾瀬の自然環境は、尾瀬に関わる人々の協力と努力によってこれまで守られてきました。自然保護運動やごみ持ち帰り運動は、尾瀬の代名詞の一つにもなっています。また利用者も、尾瀬の自然環境が良好に保たれている状態を望んで来訪しています。
- ・ しかし、自然保護に関わる人々（担い手）や自然の素晴らしさを伝える人材の不足や高齢化が進んでいます。また、利用者からは保全活動に協力したいが、どのように協力したら良いか分からないという意見などが聞かれています。
- ・ 今後は、かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、次代に引き継いでいくために、利用者が保全活動に関われるプログラムや仕組みを充実させていく必要があります。

課題6 尾瀬に愛着や誇りを持てるような機会の提供

- ・ 尾瀬の自然環境の保全や、持続可能な利用環境を維持していくためには、尾瀬を知り、体験する機会を充実させることで、尾瀬に対する理解を深め、愛着や誇りを醸成することが求められます。
- ・ 地元では小さいころから環境学習などで尾瀬に触れる機会がありますが、大人になってからは、尾瀬について学んだり触れたりする機会や、外（利用者）の目線を通じて尾瀬の価値を見なおし、再認識する機会などは十分ではありません。
- ・ 今後は、地元の方々が尾瀬を知り、尾瀬の環境保全活動も含めて体験し、愛着を持ってもらうとともに、自分自身が関わって尾瀬を良くしていこうという誇りを持てるような機会を提供していくことが必要になります。

課題7 尾瀬を成立させている寒冷な自然環境の持続

- ・ 尾瀬の自然環境は、気温が低く湿度が高い寒冷な環境下で成り立っています。高層湿原は、枯れた植物が分解されず泥炭として積もり広がったものです。
- ・ 多雪・寒冷な環境下で成立した生態系は、気候変動の影響を大きく受けると考えられています。また、大雨に伴う湿原への土砂の流入は、湿原の荒廃を促進させるだけでなく、登山道の荒廃やアクセスルートの遮断につながるおそれもあります。
- ・ 今後も尾瀬を成立させている寒冷な自然環境を持続していくためには、地球規模の課題である気候変動を尾瀬の存続に関わる問題として再認識し、利用者の理解、協力も得ながら、脱炭素や環境保全に配慮した循環型社会の形成に関わる取組を積極的に行うことが求められます。

4. 利用 AP 取組方針

- ・ 利用 AP は、尾瀬利用者を 3 段階のステージ（ビギナー、リピーター、ファン）に分け、各ステージの目的に応じた取組（プログラム）を実施することで、「利用」から「守る」へと利用形態を変容させる戦略です。
- ・ 3 段階のステージとは尾瀬の利用回数やかかわり方によって以下のように分けられます。
 - ステージ 1：尾瀬利用回数 1 回（＝ビギナー）
 - ステージ 2：尾瀬利用回数 2 回以上（＝リピーター）
 - ステージ 3：尾瀬利用回数 2 回以上＋守る活動への参加（ファン）
- ・ 取組（プログラム）は、各ステージの利用者に応じて実施され、潜在利用者も含めて尾瀬の利用者を各ステージに引き上げる行動を指します。
- ・ 以上を踏まえて、利用 AP の取組方針を「尾瀬ファンベース戦略」と名付けます。

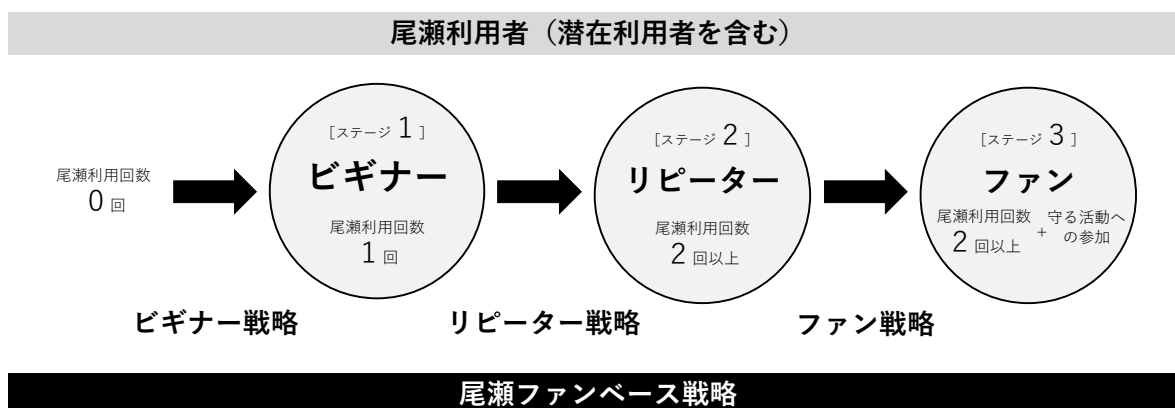


図 22 尾瀬ファンベース戦略の全体イメージ

5. 指標設定 (KPI)

- ・ 利用 AP では、取組(プログラム)の成果を把握するために以下の9つの指標を設定します。
- ・ 各指標の設定目的は以下の通りです。

表4 指標 (KPI)

把握区分	指標 (KPI)		測定調査
ビギナー戦略 の動向把握	指標 1	ビギナーの数	満足度調査 (来訪回数初めての人数)
リピーター戦略 の動向把握	指標 2	ビギナーの満足度	満足度調査 (来訪回数初めての人の満足度)
	指標 3	ビギナーの再訪意向	満足度調査 (来訪回数初めての人の再訪意向)
ファン戦略 の動向把握	指標 4	尾瀬を守ることに 対する関心度の変化量	満足度調査 (今までの尾瀬 での体験によって、その自然環境と景観を維持したい 気持ちにどれだけ変化があったか)
	指標 5	尾瀬を守ることに 対する理解度の変化量	満足度調査 (今までの尾瀬 での体験によって、その自然環境と景観を維持するのに必要な事への理解がどれだけ深まったか)
	指標 6	ボランティア活動への 参加者数	ボランティア活動を主催している自治体や団体への照会を主とした情報収集
尾瀬旅行消費額の把握 (ステージ共通)	指標 7	尾瀬での消費額 (周辺市町村含む)	満足度調査 (尾瀬での消費額)
尾瀬国立公園内 滞在時間の把握 (ステージ共通)	指標 8	アクティビティ参加者数 (VC のプログラム参加者数、 尾瀬ガイド協会ツアー参加者数)	尾瀬ガイド協会アンケート、VC 活動報告書
	指標 9	尾瀬国立公園内の宿泊者数 (山小屋、キャンプ場)	事業施設利用者数報告書

6. 取組（プログラム）の実施

- ・ 3. 現状分析（3）尾瀬の利用における課題をもとに、本章では具体的な取組を6種類の取組（プログラム）として作成しました。
- ・ 各取組の目的と内容は、下記の通りです。

（1）魅力向上プログラム

- ・ 尾瀬の豊かな自然環境の中で美しさや心地よさ、くつろぎを感じられるよう、情報案内機能の向上や滞在空間の上質化を進めます。

（2）滞在・周遊促進プログラム

- ・ 尾瀬ならではの魅力を体感・体験できるよう、周遊利用や滞在利用を促進するとともに、より本質的な価値に触れられるよう、奥深い体験ができるプログラムの充実を図ります。

（3）魅力的プロモーション実施プログラム

- ・ 尾瀬の普遍的価値を広く発信するために、PR手段等の改善を図りながら、尾瀬全体の魅力や各施設の個性、特徴を発信するプロモーションを実施します。

（4）尾瀬ファン創出プログラム

- ・ 尾瀬を愛する輪を広げ、尾瀬を次代に引き継ぐために、尾瀬ファンとの交流の場づくりや尾瀬の守る活動に参加する仕組みづくりを行います。

（5）シビックプライド形成プログラム

- ・ 地元の方々の尾瀬に対する愛着を醸成し、自身が関わって尾瀬を良くしていこうという誇りを持てるよう、尾瀬を知り、体験できる機会、場を提供します。

（6）脱炭素・循環型公園プログラム

- ・ 尾瀬を成立させている寒冷な自然環境を持続していくために、脱炭素や環境保全に配慮した循環型公園の形成に資する取組を行います。
- ・ 上記に基づき、現在実施している取組、そして、今後実施予定の取組（直近1～2か年[2022年、2023年]）として次の55の取組が挙がっています。

表5 取組一覧表（現在実施中の取組、2022-2023 年度に実施予定の取組）

取組テーマ・取組名称	実施主体
（１）魅力向上プログラム	
○情報案内機能の向上	
1 尾瀬環境学習支援セルフガイドの活用	（公財）尾瀬保護財団
2. 尾瀬ハイキングガイドの頒布	（公財）尾瀬保護財団
3. 尾瀬パンフレットの作成・配布	環境省
○誘導標識・解説標識等の整備・更新	
4. 尾瀬ルート沿線地域活性化事業	尾瀬ルート活性化委員会
5. 魚沼から行く尾瀬ルート国道 352 号道標整備事業	新潟県魚沼地域振興局
6. 魚沼から行く尾瀬ルート国道 352 号洗い越し改築事業	新潟県魚沼地域振興局
7. 誘導標識の作成・設置	環境省
8. 解説標識の作成・設置	環境省
○滞在空間の上質化	
9. 鳩待峠の施設改築における外観整備	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所
10. 鳩待峠の外構における植栽整備	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所
11. 鳩待峠の公衆無線 LAN 環境整備	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所
12. 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業	片品村
13. 尾瀬設備クオリティアップ事業	群馬県
○保全活動の強化	
14. ニホンジカによる植生被害対策	環境省
（２）周遊・滞在促進プログラム	
○モデルコース・プランの作成	
1. シャトルタクシープラン（最寄り駅から登山口までの送迎）	みなみあいづ観光 （株式会社みなみあいづ）
2. 会津と上州を結ぶ歴史の道 「会津沼田街道」滞在型利用促進事業	檜枝岐村
3. 尾瀬国立公園のモデルコースと 体験アクティビティの紹介	環境省
○山小屋の魅力向上	
4. 宿泊者に対するスライドショー	尾瀬山小屋
5. 客室の改修	尾瀬沼ヒュッテ
6. B&B スタイルの宿泊施設へと転換	尾瀬御池ロッジ
7. 食事の充実と部屋の個室利用	山の鼻小屋
○体験アクティビティの利用促進	
8. 片品村内で e-bike ツアー	NPO 法人片品・山と森の学校
9. 星空観察会の定期開催	（公財）尾瀬保護財団
10. 尾瀬国立公園のナイトタイムコンテンツ充実	環境省
○交流イベントの開催	
11. 山・音楽・食・地元文化をミックスしたイベントの開催	尾瀬小屋
12. アウトドア好きな人々の交流創出	尾瀬小屋

表5 取組一覧表（現在実施中の取組、2022-2023 年度に実施予定の取組）[続き]

取組テーマ・取組名称	実施主体
(3) 魅力的プロモーション実施プログラム	
○尾瀬のイメージの発信	
1. グルメを通じた国立公園の魅力発信	尾瀬小屋
2. 片品・檜枝岐・魚沼・南会津共同の登山口での PR 活動事業	一般社団法人片品村観光協会
3. Instagram キャンペーン (フォトコンテスト)	(公財) 尾瀬保護財団
4. スタートアップふくしま尾瀬事業 (情報発信事業)	福島県
5. ふくしま尾瀬魅力発信強化事業	福島県
6. 尾瀬国立公園のフォトスポット紹介	環境省
○Web ページ、SNS の活用	
7. SNS を活用した魅力発信	尾瀬小屋
8. 南会津町観光物産協会 SNS アカウントでの 情報発信及び近隣施設への情報発信	南会津町観光物産協会 (館岩支部)
9. 個人客獲得のための Web ページの改善	NPO 法人片品・山と森の学校
10. Instagram (尾瀬公式アカウント) の活用	(公財) 尾瀬保護財団
11. 片品村むらづくり観光課公式 YouTube 動画配信	片品村
○外部企業・人材との連携による PR	
12. ポストコロナインバウンド誘客事業	一般社団法人片品村観光協会
13. 人気 YouTuber と連携した尾瀬の魅力広報	(公財) 尾瀬保護財団
14. モンベル会員雑誌 フレンドエリアの登録	片品村
15. 著名人とのタイアップによるプロモーション	環境省
(4) 尾瀬ファン創出プログラム	
○環境保全に資する行動の普及・啓発	
1. 至仏山の登山マナー啓発	至仏山保全対策会議
2. 財団 HP での情報提供及び電話での問い合わせ対応	(公財) 尾瀬保護財団
○ボランティア活動の充実	
3. 尾瀬ボランティア活動支援	(公財) 尾瀬保護財団
4. 企業ボランティア活動支援	(公財) 尾瀬保護財団
○尾瀬ファンとの交流	
5. 尾瀬ファンとの交流会	環境省
(5) シビックプライド形成プログラム	
○尾瀬での共同作業の実施	
1. 移入植物の駆除 (オオハングソンソウ、ハルザキヤマガラシ)	(公財) 尾瀬保護財団
○尾瀬を学ぶ場の機会の充実	
2. 子供たちに向けた国立公園の魅力発信と招待活動	尾瀬小屋
3. 「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進事業	「魚沼から行く尾瀬」 環境学習推進協議会
4. 尾瀬ネイチャーガイド養成事業	尾瀬ネイチャーガイド養成推進協 議会
5. 尾瀬サステナブルプラン (尾瀬シーズンズスクール・尾瀬ネイチャーラーニング)	群馬県
6. 尾瀬環境学習推進	群馬県
(6) 脱炭素・循環型公園プログラム	
○ゼロカーボン実現に向けた取組	
1. 「尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク」 アクションプログラム	東京電力ホールディングス株式会 社、東京パワーテクノロジー株式 会社 環境事業部 尾瀬林業事業所
2. ゼロカーボンシティ表明とゼロカーボンパークの登録	片品村
○資源循環に関する取組	
3. 鹿の食害問題の訴求	尾瀬小屋

(1) 魅力向上プログラム

- ・ 本取組テーマでは、情報案内機能の向上、誘導標識・解説標識等の整備・更新、滞在空間の上質化、保全活動の強化の4区分で、計14の取組を実施します。

○情報案内機能の向上

- ・ 利用者が尾瀬で充実した時間を過ごし、尾瀬の魅力を享受できるように、尾瀬の魅力やアクセス、過ごし方等を学ぶために、既存の情報媒体の改訂や有効活用を図ります。

1. 尾瀬環境学習支援セルフガイドの活用				
実施主体		(公財) 尾瀬保護財団	連携先	—
目的と概要		2021 度に環境省からの受託事業によって作成したセルフガイドを尾瀬沼ビジターセンターに設置して、尾瀬訪問者や学校団体等の学習支援に活用する。		
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年 (2022 年～)
	場所	尾瀬内[公園内+周辺] (尾瀬沼ビジターセンター)		
	2022 年度	セルフガイド活用予定		
	2023 年度	同上		

2. 尾瀬ハイキングガイドの頒布				
実施主体		(公財) 尾瀬保護財団	連携先	(公財) 尾瀬保護財団
目的と概要		尾瀬国立公園の快適な利用をサポートするため、尾瀬の概要、ルール、アクセス等が入った地図を作成し、利用者に対して頒布している。		
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺] (尾瀬山の鼻ビジターセンター、尾瀬沼ビジターセンター (協力金)、尾瀬外 (各種イベント会場 (無料))、情報媒体 (尾瀬保護財団HP (無料))		
	実施中	尾瀬山の鼻ビジターセンター及び尾瀬沼ビジターセンターにおいて配布、財団HPに掲載		
	2022 年度	同上		

3. 尾瀬パンフレットの作成・配布				
実施主体		環境省	連携先	—
目的と概要		尾瀬国立公園を利用するにあたってのマナーや注意点、および地図についてまとめたパンフレットを作成し、利用方法だけでなく魅力や過ごし方について説明することで、尾瀬国立公園の適正な保護及び利用の推進を図ることを目的とする。		
取組	状況	実施中	期間	複数年 (2007 年～)
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、尾瀬外、情報媒体 (2020 年度から尾瀬国立公園サイトにも掲載)		
	実施中	2020 年度に、これまでの「尾瀬国立公園インフォメーションマップ」を大幅改訂し、各コースの利用方針を分類・明記するとともに、尾瀬の利用方法だけでなく、楽しみ方・過ごし方を明記した。		
	2022 年度	楽しみ方・過ごし方の提案を強化するため、尾瀬国立公園コンテンツ集とフォトスポットを紹介する QR コードを追加予定。		
目標値	期限	(いつまでに)	2022 年 4 月下旬までに	
	項目	(何を)	マップの改訂版を	
	数値	(どうするか)	改訂版を増刷 (35,000 部予定)	

○誘導標識・解説標識等の整備・更新

- ・ 利用者が戸惑うことなく目的地への道順や、目的地やその途中での尾瀬の楽しみ方感じ取ってもらえるよう、誘導標識・解説標識等の整備・更新を行います。

4. 尾瀬ルート沿線地域活性化事業				
実施主体		尾瀬ルート活性化委員会	連携先	新潟県、魚沼市、民間事業体
目的と概要		新潟県から尾瀬までの魚沼ルートで最も近い登山道である小沢平（こぞうだいら）ルートを利用者が安全に通行できるよう、簡易橋の設置や登山道の草刈り等の登山道整備を実施する。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2009 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（小沢平登山道）		
	実施中	高石沢に簡易橋を設置。 登山道の草刈り等実施。		

5. 魚沼から行く尾瀬ルート国道 352 号 道標整備事業				
実施主体		新潟県魚沼地域振興局	連携先	尾瀬ルート活性化委員会
目的と概要		尾瀬へ向かう旅行者に安心感や期待感を与えるため、尾瀬までの距離を知らせる既設道標を更新・増設する。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2018 年～2021 年）
	場所	尾瀬外（国道 352 号）		
	実施中	国道 352 号の既設道標を更新・増設。		

6. 魚沼から行く尾瀬ルート 国道 352 号洗い越し改築事業				
実施主体		新潟県魚沼地域振興局	連携先	—
目的と概要		国道 352 号の安全性向上とバスの運行確保を図るため、洗い越しの段差解消を目的とした改築工事（5 箇所）を実施する。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～2023 年）
	場所	尾瀬外（国道 352 号）		
	実施中	洗い越しの改築工事（2 箇所）を実施。		

7. 誘導標識の作成・設置				
実施主体		環境省	連携先	—
目的と概要		環境省直轄歩道について、誘導標識が少なく、利用者の安全性・利便性の点で不十分な状態であると考えられる区間に対して、簡易な誘導標識（現在地入・英語併記）を作成・設置し、公園利用上の安全性、利便性を高める。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（赤法華鳩待峠線、尾瀬沼南岸線）		
	実施中	・ 赤法華鳩待峠線について簡易誘導標識（19 枚・箇所）を作成して設置。 ・ 尾瀬沼南岸線について簡易誘導標識（5 枚）を作成。		
目標値	2022 年度	・ 尾瀬沼南岸線について簡易誘導標識（5 箇所）を設置。		
	期限	（いつまでに）	2022 年 5 月下旬までに	
	項目	（何を）	簡易誘導標識を尾瀬沼南岸線に	
目標値	数値	（どうするか）	5 箇所設置	

8. 解説標識の作成・設置				
実施主体		環境省	連携先	—
目的と概要		探勝エリア・コースは自然探勝を目的に、ハイカーなどに幅広く利用され、自然環境学習の場として利用を積極的に推進していくエリアやコースだが、赤法華嶋待峠線の探勝エリア・コース（山ノ鼻～竜宮十字路～見晴間、沼尻～大江湿原～沼山峠間）では、解説標識が全くなく、利用者の利便性の点で不十分な状態であるため、解説標識を作成・設置する。		
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（赤法華嶋待峠線の探勝エリア・コース）		
	実施中 2022 年度	・解説標識を作成（13 基）。 ・赤法華嶋待峠線の探勝エリア・コースに、解説標識を設置（13 基（尾瀬ヶ原エリア 7 箇所、尾瀬沼エリア 6 箇所））。		
目標値	期限	（いつまでに）	2022 年 5 月下旬までに	
	項目	（何を）	解説標識を	
	数値	（どうするか）	13 箇所に設置する	

○滞在空間の上質化

- ・ 利用者が尾瀬で快適かつ豊かな時間を過ごし、尾瀬ならではの魅力を存分に感じられるように、利用拠点の施設等の環境を整備し、滞在空間の上質化を図ります。

9. 嶋待峠の施設改築における外観整備				
実施主体		東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	連携先	片品村他
目的と概要		嶋待山荘建替えに伴い、至仏山が眺望できるウッドデッキ等を設置し、この場所に来ないと見ることのできない環境を整備することで、滞在者を含めた利用者の促進を図る。		
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022 年～2024 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（嶋待峠）		
	実施中	国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。今後、嶋待山荘の建替え計画と連動させながら施設整備の検討を進めていく予定。		
目標値	期限	（いつまでに）	2024 年度内に	
	項目	（何を）	ウッドデッキ等を	
	数値	（どうするか）	設置する	

10. 嶋待峠の外構における植栽整備				
実施主体		東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	連携先	片品村他
目的と概要		嶋待峠は尾瀬国立公園内で最も利用者が多い入山口であるため、施設広場の砂利敷きに周囲の植生に合わせた植物を植栽し、訪れる利用者に尾瀬の自然を感じてもらうことで魅力向上を図る。		
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022 年～2024 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（嶋待峠）		
	実施中	国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。今後、嶋待山荘の建替え計画と連動させながら施設整備の検討を進めていく予定。		
目標値	期限	（いつまでに）	2024 年度内に	
	項目	（何を）	周囲の植生に合わせた植物を	
	数値	（どうするか）	植栽する	

11. 鳩待峠の公衆無線 LAN 環境整備				
実施主体		東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	連携先	片品村他
目的と概要		鳩待峠は尾瀬国立公園内で最も利用者が多いエリアであるため、若年層やインバウンドの増加が見込まれる。鳩待山荘建替え計画に合わせ施設内の公衆無線 LAN 環境を整備することで若年層やインバウンド利用者の利便性向上を図る。		
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022 年～2024 年）
	場所	公園内[公園内+周辺]（鳩待峠）		
	実施中	国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。今後、鳩待山荘の建替え計画と連動させながら通信会社とともに施設整備の検討を進めていく予定。		
目標値	期限 項目 数値	（いつまでに） （何を） （どうするか）	2024 年度内に 公衆無線 LAN 環境を 整備する	

12. 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業				
実施主体		片品村	連携先	環境省、地元民間事業者等
目的と概要		国立公園の利用拠点ではインバウンド対応や個人旅行など旅行ニーズの変化への対応力が遅れ、廃屋化した建物が自然の魅力を著しく妨げている。地元自治体が主となり環境省や地元民間事業者等と協議して利用拠点計画書を策定し、それに沿って補助事業を実施する。（多言語標識や景観の阻害や危険性のある廃屋の撤去等）		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	実施中 2022 年度	利用拠点計画書を策定 事業実施予定		

13. 尾瀬設備クオリティアップ事業				
実施主体		群馬県	連携先	—
目的と概要		年齢・体力の異なる幅広い層の利用者や外国人利用者が安心、安全、快適に尾瀬を楽しめるよう、県有施設の設備整備等を行います。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬国立公園内の県有施設）		
	実施中 2022 年度 2023 年度	2021 年度は、大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事を実施した。 大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事（予定） 大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事（予定） 入山口案内看板再整備（検討中）		

○保全活動の強化

- ・ 尾瀬の生態系を維持回復させ、尾瀬本来の姿を取り戻していくために、保全活動を行います。

14. ニホンジカによる植生被害対策				
実施主体		環境省	連携先	群馬県立尾瀬高等学校
目的と概要		ニッコウキスゲを始めとする湿原植物等へのニホンジカによる植生被害対策のため、植生保護柵を設置して被害防除を行うとともに、植物の自然回復をはかる。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2019 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬ヶ原（ヨッピー川南岸、下ノ大堀川、竜宮等））		
	実施中	・ 植生保護柵の設置及び維持管理。 ・ 植生保護柵の効果検証及び植生の回復状況を把握するためのモニタリング。 ・ 植生保護柵の設置・撤去作業を群馬県立尾瀬高等学校と共同で実施（2021 年～）。		
	2022 年度	※同上取組を継続 ※設置箇所として燧ヶ岳山頂周辺を追加（福島県と共同管理）		

(2) 周遊・滞在促進プログラム

- 本取組テーマでは、モデルコース・プランの作成、山小屋の魅力向上、体験アクティビティの利用促進、交流イベントの開催の4区分で、計12の取組を実施します。

○モデルコース・プランの作成

- 利用者自身の目的や関心、体力等に応じてコースを選択肢し、尾瀬ならではの多様な魅力を体感・体験できるよう、周遊利用や滞在利用のモデルコース・プランを提示します。

1. シャトルタクシープラン（最寄り駅から登山口までの送迎）				
実施主体		みなみあいづ観光 (株式会社みなみあいづ)	連携先	－
目的と概要		尾瀬国立公園内の田代山、帝釈山へは直通のバス等がないため、電車等でお越しいただくお客様のために予約制のシャトルタクシーを配車し、利便性の向上を図っています。		
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内＋周辺]（尾瀬国立公園内の猿倉登山口、馬坂登山口）		
	実施中	電車等でお越しいただくお客様のために予約制のシャトルタクシーを配車しております。		

2. 会津と上州を結ぶ歴史の道「会津沼田街道」滞在型利用促進事業					
実施主体		檜枝岐村		連携先	尾瀬檜枝岐温泉観光協会
目的と概要		福島県檜枝岐村と群馬県片品村を結ぶ唯一の古道「会津沼田街道」（群馬県片品村戸倉（大清水）～福島県檜枝岐村七入）は、江戸時代から交易路として利用されていた。 これまであまり知られてこなかった街道の魅力を発信し、少しでも尾瀬の滞在者を増加させると共に、村内宿泊施設利用者を増加させることを目的とする。			
取組	状況	実施中		期間	複数年（2021 年～2023 年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬国立公園内（会津沼田街道））、 情報媒体（WEB：尾瀬檜枝岐温泉観光協会の SNS（YouTube 等））			
	実施中	・ 街道に残る文化や自然を幅広く発信するためのプロモーション動画（初夏 Ver.）を制作し、YouTube 等で情報発信を行った。 ・ 街道でのモニターツアー（夏と初秋）を実施し、結果を分析した。			
	2022 年度	・ 街道に残る文化や自然を幅広く発信するためのプロモーション動画（秋 Ver.）を制作し、YouTube 等で情報発信を行う。 ・ 街道でのモニターツアー（新緑と秋）を実施し、結果を分析する。			
	2023 年度	・ 2 年間制作した動画の配信事業を行う。 ・ 2 年間制作した動画情報等を基に、街道の魅力を十分に盛り込んだ新たなガイドマップを作成する。			
目標値	期限	（いつまでに）		2022 年	2022 年
	項目	（何を）		2022 年 モニターツアーの参加者	2022 年 七入地区設置 カウンター数
	数値	（どうするか）		20 人	1,500 人
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年
				2022 年	2022 年

3. 尾瀬国立公園のモデルコースと体験アクティビティの紹介				
実施主体		環境省	連携先	尾瀬のガイド事業者
目的と概要		尾瀬国立公園を満喫するための、モデルコースやツアーについて、「尾瀬国立公園コンテンツ集」やビジターセンターの展示物としてとりまとめて紹介する。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、尾瀬外、情報媒体（Web）		
	実施中	・尾瀬沼ビジターセンターにガイド事業者紹介パネルを作成・設置 ・尾瀬国立公園コンテンツ集（2021-2022 年版）の作成と配布。 ・同様に旅行博や VJTM 等で国内外の商談会に資料として利用。 ・環境省尾瀬国立公園のウェブサイトに掲載。		
	2022 年度	・尾瀬国立公園コンテンツ集（2022-2023 年版）の作成（ウェブ版のみ）。 ・同コンテンツ集を「国立公園に行ってみよう！」サイトに掲載。		
目標値	期限	（いつまでに）	2022 年 6 月までに	2023 年 1 月までに
	項目	（何を）	魅力的なコンテンツやツアーについて	尾瀬国立公園コンテンツ集（22-23 年版）を
	数値	（どうするか）	12 個のコンテンツをツアー事業者と連携して取りまとめる	ウェブ版として取りまとめる

○山小屋の魅力向上

- ・ 尾瀬の利用拠点となる山小屋において、利用者が快適に過ごせるよう、施設（食堂利用や売店、休憩所等）の改修やサービス形態等の変革を進めるとともに、各小屋の個性やウリ、提供するサービスの充実を図ります。

4. 宿泊者に対するスライドショー				
実施主体		尾瀬山小屋	連携先	一部山小屋
目的と概要		宿泊者に対し座学として尾瀬の歴史や風景等を、スライドを使用し説明。		
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（オープンスペース他）		
	実施中	尾瀬の風景写真等を活用して更なる尾瀬の魅力を宿泊されたお客様にお伝えしていく。		

5. 客室の改修				
実施主体		尾瀬沼ヒュッテ	連携先	—
目的と概要		2020 年度より館内の一部をカプセル型の宿泊施設に変更し、運用を図っている。 カプセル型ユニットを導入した経緯としては、尾瀬の宿泊単位が個人または夫婦単位での宿泊が増え、旅行エージェントの利用も少なくなってきたことから 10 畳以上の大部屋をカプセルユニットに切り替え、稼働率を上げることを目的として実施している。 現在のところ新型コロナウイルス感染症拡大により、宿泊客が減少しており予想した稼働率には到達していないものの、今後の需要は存在するものと見込んでいる。また、土日祝祭日に宿泊が集中しており、平日分散化を図る観点から平日料金を導入している。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬沼ヒュッテ）		
	実施中	カプセル型ユニットの運用と今度の改修の検討		

6. B&B スタイルの宿泊施設へと転換

実施主体		尾瀬御池ロッジ	連携先	—
取組	目的と概要	2022 度より新たに B&B スタイルの宿泊施設へと転換を図り運営していく予定である（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020～2021 年度まで休館）。 B&B へ変更する理由としては、現在尾瀬を含め、北アルプスなどの大半の山小屋では 1 万円を切る宿泊施設が存在しなくなっている。加えて、登山者を取り巻く状況は、給与が上がらず物価上昇を招くいわゆるデフレ現象が発生している。更に登山者の多くは年金受給者であり、1 泊 1 万円以上の山小屋に宿泊したくてもできない状況が垣間見られ、今後益々山小屋の経営状況は厳しくなると予想される。この様な状況から、安価に宿泊できゆつたりと尾瀬の四季の魅力を堪能できる機会を設けること、そして、お客様により多くの選択肢を与え、より多くの方々に尾瀬に足を向けていただくことが必要と考える。 また新型コロナウイルスの影響によりアルバイトの応募が少なくなり、経営に支障を来している状況にある。宿泊施設で最も人手を必要とするのが食事であり、夕食をなくし、朝食を軽朝食にすることで人手が軽減できるようになる。 これまでの旅行形態としては、非日常的な雰囲気の中で贅沢をするという概念が一般的であったと思われるが、『贅沢』を『セルフ』に代えることで安価で個々の楽しみが増えることへと繋がり、新たな山の旅行スタイルへと転換できるものと期待する。		
	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬御池ロッジ）		
	2022 年度	B&B スタイルの宿泊施設へと転換		

7. 食事の充実と部屋の個室利用

実施主体		山の鼻小屋	連携先	—
取組	目的と概要	お客様に快適に過ごしていただくために、食事の充実と個室利用をしていただくことで、コロナの時代でも安心して利用してもらい、リピーターを増やす。 お客様に対して丁寧な対応を心掛ける。		
	状況	実施中	期間	複数年（2022 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（山の鼻小屋）		
	2022 年度	調査結果（入山者アンケート）から尾瀬そのものがどのような所なのか特に不便なことなどがまだまだ知られていないことに気付いた。この事がお客様の不満につながっていると考え。これらをふまえて、まず尾瀬の魅力を周知するとともに、尾瀬の不便さ、山小屋の不便さも広く周知する必要があると考える。 安心を得るために SNS やホームページでの細かな配信などを利用し新しいお客様の獲得を図り継続して快適性も追求する。		

○体験アクティビティの利用促進

- ・ 尾瀬ならではの魅力を体験を通じて感じ取ってもらうために、ガイドやインタープリターが提供する体験アクティビティのメニューの充実を図ります。

8. 片品村内で e-bike ツアー					
実施主体		NPO 法人片品・山と森の学校		連携先	—
目的と概要		尾瀬国立公園は日帰りの利用客が多い。そこで、尾瀬国立公園の麓である片品村でのお客様の滞在時間を増やすため、村内を周遊する e-bike ツアーを造成する。このツアーを造成することで、日帰りではなく宿に泊まって尾瀬を楽しむことで、地域の経済が活性化されることを目指す。			
取組	状況	実施中		期間	複数年（2021 年～2023 年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（群馬県利根郡片品村）			
	実施中	・ e-bike を購入し、ツアーのモデルコースを策定した。 ・ 片品村での e-bike ツアーを紹介する、インバウンド向けのオンラインツアーを実施した。			
	2022 年度	・ e-bike のテストツアーを施工販売する。 ・ 新しい e-bike ツアーのコースを作る。			
	2023 年度	・ 2022 年度に実施したテストツアーの結果を分析し、ツアーを複数回実施する。			
目標値	期限	（いつまでに）		2023 年度末までに	
	項目	（何を）		e-bike ツアーを	
	数値	（どうするか）		5 回以上実施する。	

9. 星空観察会の定期開催					
実施主体		尾瀬沼ビジターセンター (環境省からの受託事業)		連携先	－
目的と概要		尾瀬シーズン中の6～10月、週末・祝日の前後の夜を中心に星空観察会を開催。 星座解説等を行うことによって利用者満足度を向上し、宿泊者限定のコンテンツで尾瀬の魅力をアピールする。			
取組	状況	実施中	期間	複数年(2017年～2021年)	
	場所	尾瀬内[公園内+周辺](尾瀬沼ビジターセンター(内・周辺))			
	実施中	尾瀬シーズン中の6～10月に定期的に複数回の星空観察会を実施した。(無料)			
	2022年度	尾瀬シーズン中の6～10月に定期的に複数回の星空観察会を実施予定(尾瀬沼ビジターセンター運営業務を受託した場合)			
	2023年度	同上			

10. 尾瀬国立公園のナイトタイムコンテンツ充実				
実施主体		環境省	連携先	尾瀬保護財団
目的と概要		尾瀬国立公園のナイトタイムにおける適切な自然資源活用を進め、インバウンドをはじめとした利用者満足度の向上を図る事を目的に、尾瀬ならではの魅力ある自然・文化・歴史を楽しむ夜の自然体験プログラム（ナイトタイムコンテンツ）を造成し、尾瀬の宿泊利用を促進する。		
取組	状況	実施中	期間	単年（2021 年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬沼ビジターセンター）		
	実施中	・ 星空観望会の開催 （環境学習支援の一環として学校団体を対象に実施、2021 年は 2 回開催）。 ・ ナイトハイクの開催（2021 年は 2 回開催）。 ・ 山小屋支配人を招いてのトークショーを開催（2021 年は 1 回開催）。		

○交流イベントの開催

- ・ 尾瀬の自然環境を活かして、尾瀬の自然・歴史・文化を伝え、交流するイベントを開催する。

11. 山・音楽・食・地元文化をミックスしたイベントの開催				
実施主体		尾瀬小屋	連携先	下記参照
目的と概要		国立公園内及び隣地のスキー場やキャンプ場を活用し、アーティストや著名人・YouTuber・山小屋・アウトドアメーカー・地元商店や行政機関などを誘致し、影響力ある人たちの力を借りながら、国立公園の魅力や地元地域の伝統文化PRを目的としたイベントを開催。新型コロナウイルスにより影響を受けた地元観光業・宿泊事業所の入客斡旋も兼ね添える。 ・ 地元の名産物だけでなく、協賛企業のキッチンカーを誘致し、地元の方々にも全国の食の楽しみを味わって頂けるようなグルメブースを設置する。 ・ アウトドアメーカーに参画頂き、テント泊が体験出来るプランの設置、登山装備の講習や歩行指導などが体験出来る参加型ブースも設置。 ・ 環境省及び国立公園のレンジャーや、保全団体・ボランティア団体にも参画頂き、国立公園の植生保護やゴミ問題、その他国立公園が抱える、様々な課題や問題点を来場者に直接伝える事ができる場所を提案。 ・ 収益の一部を国立公園や自然保護・地元行政などの活動費用に還元出来る仕組みとする。		
取組	状況	今後実施予定	期間	—
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（国立公園内及び隣地のスキー場やキャンプ場）		
	2022 年度	関係者との調整、イベントの開催		

12. アウトドア好きな人々の交流創出				
実施主体		尾瀬小屋	連携先	—
目的と概要		同じ趣味同士だから発展率も高く、大自然の中に身を置く事で、非日常的なロケーションから開放的な気持ちになる。また、普通の街コンとは違い『登山やアウトドアが好き』という共通の話題がある事で、自然と心の距離は近くなるものと考えられる。 そこで、出会うだけではなく『国立公園』をもっと好きになり、やがては思い出の場所として、何度も訪れて貰える様な場所として本企画を推進する。 ・ 自社の尾瀬小屋はもちろん、全国の国立公園の宿泊地を使用する事で、地域も限定されず気軽に参加可能。また地域毎の特色を活かした、伝統や文化、歴史などを感じる事で利用した地域に愛着を持って頂く事を目標とする。 ・ 尾瀬においては高低差もほとんどない為、初心者でも気軽に参加が可能。また、山小屋を利用する事で、最低限の荷物で参加が可能。かつ国立公園内での滞在時間を長める事が可能。 ・ ターゲットは老若男女問わず受け入れる事が出来ます。企画催行は、年齢層別に組む事で汎用出来、参加人数やイベント規模に応じて、観光バス、マイクロバス、ハイエース車両など全ての車両で登山口までアプローチが可能。 ・ 空室の多い期間の売上補強になりうる案件でもあり、国立公園の宿泊事業者との相乗効果も見込まれる。		
取組	状況	今後実施予定	期間	—
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	2022 年度	関係者との調整、イベントの開催		

（３）魅力的プロモーション実施プログラム

- ・ 本取組テーマでは、尾瀬のイメージの発信、Web ページ、SNS の活用、外部企業・人材との連携による PR の３区分で、計 15 の取組を実施します。

○尾瀬のイメージの発信

- ・ 尾瀬の多様な魅力、楽しみ方等について利用者に向けて情報発信を行います。

1. グルメを通じた国立公園の魅力発信				
実施主体		尾瀬小屋	連携先	—
目的と概要		尾瀬小屋は「食べる」というアクションを通して、国立公園の魅力や課題を発信していく取り組みをしている。 【魅力発信】：「山でこんなご馳走が食べられるの？」そんな驚きと感動の料理 を低価格で楽しめる世界を国立公園内に 実現させた。また、地元の食材を料理に取り入れる事で、国立公園に隣接する地元の魅力発信の役割も兼ね備えている。 【課題発信】：尾瀬の山小屋への物資輸送は、ヘリコプターか歩荷（ボッカ）と呼ばれる人力輸送のみとなる。しかし、相次ぐヘリコプター会社の山岳輸送撤退や若手のパイロット不足、運搬費用の高騰、歩荷さんの存続危機など、深刻な課題に直面している。そうした課題を食べ物を通して利用者に知ってもらい、一人一人が出来る事を考える事で、国立公園の持続可能な社会にする事を目標としている。 【地域密着】尾瀬周辺地域は豊富な水に恵まれ、有名な酒造が点在する。2022 年は食材だけでなく、料理に合わせ美味しい地元のお酒を国立公園で味わい、更なる付加価値と非日常体験を造成する。 【経済貢献】地元の酒造様と提携し、尾瀬国立公園オリジナルブランドもしくは希少性の高いお酒を提供いただき、体験価値を高めていただく。商品提供を頂いた返礼に、上記商品の売上は地元の酒造様に 100%返還とさせていただきます。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬小屋）、 情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施中	魅力に加えて、課題を利用者に知ってもらうための方法を検討し、実践する。		

2. 片品・檜枝岐・魚沼・南会津共同の登山口での PR 活動事業				
実施主体		一般社団法人片品村観光協会	連携先	—
目的と概要		各登山口にて協同 PR 活動を実施する。		
取組	状況	今後実施予定	期間	単年（2021 年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（各登山口）		
	2022 年度	概要内容を本年度実施。		

3. Instagram キャンペーン（フォトコンテスト）				
実施主体		（公財）尾瀬保護財団	連携先	—
目的と概要		SNS を通じた尾瀬の認知拡大を図るため、四季折々の尾瀬の風景、尾瀬で出会った動植物、尾瀬で過ごす人々を捉えた写真を対象として、SNS 投稿キャンペーン（コンテスト）を行う。		
取組	状況	今後実施予定	期間	単年（2022 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、情報媒体（Instagram 及び財団 HP）		
	実施中	企画内容検討		
	2022 年度	シーズンを通じて尾瀬の Instagram 写真投稿を募集し、優れた作品を選出してホームページ等で発表する。選考は季節ごとに行い、四季折々の尾瀬の魅力を PR する。		

4. スタートアップふくしま尾瀬事業（情報発信事業）				
実施主体		福島県	連携先	環境省、福島県檜枝岐村、南会津町
目的と概要		福島県側の尾瀬とその玄関口となる檜枝岐村や南会津町の自然の素晴らしさや歴史、文化などの魅力を県内外に情報発信し、幅広い層に「ふくしま尾瀬」を拡散する。 「ふくしま尾瀬」の魅力を様々な切り口で丁寧取材し、コラム記事や動画を作成、Web や SNS を活用して情報発信を行う。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～2021 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（福島県側の尾瀬国立公園と玄関口となる檜枝岐村及び南会津町）、情報媒体（ふくしま尾瀬 Web、SNS）		
	実施中	・2020 年度は、現地取材を基に自然や歴史、山小屋など「ふくしま尾瀬」ならではの魅力について、コラム記事や動画を作成し、Web、SNS 等により配信。 ・令和 3 年は、前年の取組に加え、テレビや Web での CM 配信や、ふくしま尾瀬のアフターコロナを見据えたインバウンド対応（英語化）を行うなど、情報発信の強化を行う。		
目標値	期限	（いつまでに）	2021 度末	
	項目	（何を）	コラム記事、動画配信	
	数値	（どうするか）	22 回	

5. ふくしま尾瀬魅力発信強化事業				
実施主体		福島県	連携先	環境省、檜枝岐村及び南会津町
目的と概要		ふくしま尾瀬の魅力等を年間を通して情報発信するほか尾瀬での自然体験ツアーやフォトコンテストを開催し、「ふくしま尾瀬」に訪れるきっかけを創出する。		
取組	状況	今後実施予定	期間	単年（2022 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（福島県側の尾瀬国立公園と玄関口となる檜枝岐村及び南会津町）、情報媒体（ふくしま尾瀬 Web、SNS 及び特設 Web）		
	2022 年度	・尾瀬での自然体験をメインとした著名人やガイドが案内するメディアツアーやプロカメラマン等が案内するフォトツアーを実施する。 ・ふくしま尾瀬フォトコンテストを開催し、入賞作品の公共施設等での展示等を行う。 ・既存のふくしま尾瀬の Web や SNS において、尾瀬の新着情報を発信する。		
目標値	期限	（いつまでに）	2022 度末	
	項目	（何を）	尾瀬でのツアー	
	数値	（どうするか）	2 回以上実施	

6. 尾瀬国立公園のフォトスポット紹介				
実施主体		環境省	連携先	尾瀬ガイド協会
目的と概要		尾瀬国立公園の魅力発信を目的に、尾瀬における写真映えする場所（フォトスポット）について、定番スポットからあまり注目されていない穴場スポットを取りまとめ、パンフレットやアプリ等で紹介する。 なお、公園利用者がその場所を訪れたいよう働きかけるのが目的のため、利用上や安全上に支障のある場所は取り扱わない（例：厳冬期、木道を外れた場所、特別な許可を要するもの等）。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬国立公園全域）、情報媒体（Web）		
	実施中	・尾瀬ガイド協会へ業務発注して、フォトスポットを選定（72 箇所、2020 年度）。 ・フォトスポットをグーグルマップ（マイマップ形式）に掲載（2021 年度）。		
	2022 年度	・フォトスポットを配布用パンフレット（インフォメーションマップ）に QR コード掲載予定。 ・フォトスポットを山と高原地図「尾瀬（アプリ版）」にスタンプラリー形式で掲載予定。		
目標値	期限	（いつまでに）	2022 年 4 月までに	
	項目	（何を）	フォトスポットが掲載された配布用パンフレットを	
	数値	（どうするか）	作成・印刷する（35,000 部予定）	

○Web ページ、SNS の活用

- ・ 尾瀬の多様な魅力、旬な情報を提供するために Web ページ、SNS の有効活用を図ります。

7. SNS を活用した魅力発信				
実施主体		尾瀬小屋	連携先	—
目的と概要		尾瀬小屋の SNS は、2021 年より運用開始。営業開始から営業終了までの僅か 5 ヶ月で、多くのファンを獲得に成功。特に写真を多用して「尾瀬の今」を発信。文字よりも、説明よりも、写真で伝える事にこだわって配信を心掛けている。また、魅力だけでなく、冬期の小屋管理の大変さや山小屋が抱える課題なども率先して発信している。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施中 2022 年	2021 年より尾瀬小屋 SNS を運用開始 引き続き、「尾瀬の今」を尾瀬小屋 SNS で発信		
目標値	期限	（いつまでに）	2022 年までに	
	項目	（何を）	獲得フォロワー数	
	数値	（どうするか）	累計 2 万人を目指す	

8. 南会津町観光物産協会 SNS アカウントでの情報発信及び近隣施設への情報発信				
実施主体		南会津町観光物産協会（館岩支部）	連携先	—
目的と概要		①田代山、帝釈山の魅力を登山者に伝えるため、南会津町観光物産協会の SNS アカウント（Facebook、Instagram、Twitter）を活用して情報発信を行う。具体的には、花の様子、環境保全活動、交通情報、近隣の温泉情報、イベント情報などを発信し、知名度向上、魅力向上を図っている。 ②①の内容を南会津町館岩地域の観光施設（道の駅など）に FAX で情報提供を行い、各施設のお客様にワンストップで情報が提供できるようにしている。		
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	情報媒体（南会津町観光物産協会の SNS アカウント）		
	実施中 2022 年度	週 1 ～ 2 回を目安に情報発信ができるように努めている（6 月～10 月）。 継続実施		

9. 個人客獲得のための Web ページの改善				
実施主体		NPO 法人片品・山と森の学校	連携先	—
目的と概要		当団体で実施している尾瀬ツアーの予約数増加のため、随団代の Web ページの改善を行う。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～2022 年）
	場所	情報媒体（NPO 法人片品・山と森の学校の Web ページ）		
	実施中 2022 年度	・Google の検索に入るようなキーワードをページ内に埋め込む。 ・Web ページが閲覧者の PC やスマホ上で速やかに読み込めるよう、データ容量の軽量化を図る。 ・Web ページの閲覧数や流入経路の分析。 ・ツアー予約への誘導のための工夫を施す。 ・2021 年中に行ってきた Web ページの解析結果を分析し、改善点を洗い出す。洗い出した改善点を逐次実施していく。		
目標値	期限	（いつまでに）	2022 年度末までに	2022 年度末までに
	項目	（何を）	Google 上の検索ランキングで	Web ページの訪問者がツアーの予約まで結びつく数を
	数値	（どうするか）	当団体の Web ページを 1 位～2 位を目指す。	昨年度中から 10%～20%増加を目指す。

10. Instagram（尾瀬公式アカウント）の活用				
実施主体		（公財）尾瀬保護財団	連携先	—
目的と概要		関係機関や公園利用者等を広く巻き込みながら、「みんな」で（まだ知られていない）尾瀬の多様な魅力を発信することで、尾瀬の認知度を高めるとともに魅力あふれる尾瀬を国内外に発信する目的で、令和元年度から「尾瀬公式 Instagram アカウント」を運用している。写真・記事の投稿の他、指定ハッシュタグ「#discoveroze」を付けた外部の投稿を再投稿している。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2019 年～）
	場所	情報媒体（Instagram 及び財団 HP トップページへの埋め込み）		
	実施中 2022 年度	次の情報等を不定期で発信する。 ・尾瀬の魅力を伝える記事、写真並びにこれに付随する情報 ・尾瀬で行われる取組 その他、指定ハッシュタグの付いた外部の投稿を選定して、再投稿している。 継続実施		

11. 片品村むらづくり観光課公式YouTube 動画配信			
実施主体	片品村	連携先	—
目的と概要	尾瀬を含む片品村の状況を伝えるために、職員が尾瀬を含め片品村の観光地に入り動画撮影して配信する。		
取組	状況	実施中	期間 複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、情報媒体（YouTube）	
	実施中	2021 年 4 月に片品村むらづくり観光課公式 YouTube を開設した。 職員が尾瀬を含め片品村の観光地に入り動画撮影して配信している（21 本）。	

○外部企業・人材との連携による PR

- ・ 尾瀬の魅力を潜在利用者等に届けるために、外部企業・人材と連携して PR を行います。

12. ポストコロナインバウンド誘客事業			
実施主体	一般社団法人片品村観光協会	連携先	—
目的と概要	訪日外国人旅行者誘客による地域経済の活性化を図るため、認知度と、来訪意欲向上に向けた取り組みを進める。本事業では、「海外メディアの活用」、「インフルエンサーの招聘」「現地観光セミナー」を通じて、尾瀬をはじめとする本村の観光資源の魅力を海外（オーストラリア・台湾）に向けて発信するとともに、「外国人アドバイザーの招聘」を実施することで、観光資源の磨き上げを図る。 ①台湾看板広告：台湾 JTB とタイアップし、現地旅行番組等で尾瀬の紹介並びに台湾地下鉄駅看板展開を図る。 ②インフルエンサー招聘：海外インフルエンサー（ブロガー、Youtuber）を招聘及び商談会 ③外国人アドバイザー招聘：片品村の観光コンテンツをより魅力的なものとするため、外国人アドバイザーから、改善点等を抽出します。 ④台湾 ITF 参加：台湾世界旅行博出展。		
取組	状況	今後実施予定	期間 単年（2021 年）
	場所	尾瀬外（村内、台湾）、情報媒体（Web）	
	2022 年度	概要内容を本年度実施	

13. 人気 YouTuber と連携した尾瀬の魅力広報			
実施主体	（公財）尾瀬保護財団	連携先	—
目的と概要	・「かほの登山日記」の人気 YouTuber かほさんに尾瀬登山（燧ヶ岳・至仏山）、動画撮影を依頼。 ・10 代～30 代に使用されている割合が大きい SNS の 1 つ、YouTube での動画配信によって、若者世代の尾瀬への興味・関心を高め、また登山マナーについても訴求する。」 ・撮影された動画をイベント時やビジターセンターで公開することも検討中。		
取組	状況	今後実施予定	期間 複数年（2022 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（山ノ鼻 VC、尾瀬沼 VC）、尾瀬外（広報イベント） 情報媒体（YouTube、尾瀬保護財団ウェブサイト）	
	2022 年度	7 月に動画撮影・公開	

14. モンベル会員雑誌 フレンドエリアの登録

実施主体		片品村	連携先	－
目的と概要		誘客を目的として、モンベルフレンドエリアに片品村の観光情報を掲載する。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	情報媒体（モンベル Web ページ及び雑誌）		
	実施中	2021 年 12 月以降、Web や雑誌に尾瀬の情報が掲載。		

15. 著名人とのタイアップによるプロモーション

実施主体		環境省		連携先	片品村観光協会、 尾瀬檜枝岐温泉観光協会
目的と概要		尾瀬国立公園の認知度向上を図り、潜在層への PR を目的に、著名人とのタイアップによるプロモーションを行う。			
取組	状況	実施中		期間	単年（2021 年）
	場所	情報媒体（Web：柴咲コウ「レトロワグラーズ」YouTube チャンネル）			
	実施中	・環境省の環境特別広報大使である柴咲コウとタイアップし、尾瀬国立公園の美しい自然を、柴咲コウの楽曲に乗せた動画を作成（2021 年 6～8 月）。 ・PR 効果を高めるため、柴咲コウ「レトロワグラーズ」YouTube チャンネルで尾瀬の日に配信開始（2021 年 8 月 30 日）。			
目標値	期限	（いつまでに）	2021 年 10 月までに		
	項目	（何を）	動画再生回数を		
	数値	（どうするか）	2 万再生する（達成済）		

(4) 尾瀬ファン創出プログラム

- ・ 本取組テーマでは、環境保全に資する行動の普及、啓発、ボランティア活動の充実、尾瀬ファンとの交流の3区分で、計5の取組を実施します。

○環境保全に資する行動の普及、啓発

- ・ 尾瀬に来訪する利用者に環境保全に資する行動を取ってもらうために、入山時の注意やマナー等の普及、啓発を行います。

1. 至仏山の登山マナー啓発				
実施主体		至仏山保全対策会議	連携先	—
目的と概要		至仏山登山者のマナーアップを図るため、至仏山マナーマップを作成してビジターセンターなどで配布するとともに、尾瀬保護財団のウェブサイトにも情報を掲載して啓発を行う。 ・ ゴールデンウィーク中までの残雪期における入山についての注意事項周知 ・ 植生保護のための登山道閉鎖期間の設定（ゴールデンウィーク後～6月末まで） ・ 東面登山道の登り専用利用の徹底 ・ 携帯トイレの携行励行 ・ ストックキャップの使用励行 など		
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（山ノ鼻 VC、尾瀬沼 VC）、情報媒体（尾瀬保護財団ウェブサイト）		
	実施中	今後も継続して啓発していく。		

2. 財団 HP での情報提供及び電話での問い合わせ対応				
実施主体		（公財）尾瀬保護財団	連携先	—
目的と概要		尾瀬への来訪を促進し、入山時の注意やマナーを啓発する為に、財団のホームページ上で、下記の情報を公開している。また、それに付随して、問合せ電話番号を公開し、尾瀬に関する情報提供を事務局と尾瀬沼ビジターセンター（シーズン中）で行っている。 ・ 道路情報やアクセス情報等、尾瀬を訪問する際に必要な情報 ・ 尾瀬の歴史や取組等の尾瀬の知識を深める為の情報 ・ シーズン中の毎日の現地情報（ブログ）等		
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬沼ビジターセンター）、尾瀬外（尾瀬保護財団事務局）、情報媒体（尾瀬保護財団 HP）		
	実施中	HP、電話での情報提供		
	2022 年度	同上		

○ボランティア活動の充実

- ・ かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、次代に引き継いでいくために、利用者が保全活動に関われるプログラムや仕組みを充実させます。

3. 尾瀬ボランティア活動支援				
実施主体		(公財) 尾瀬保護財団	連携先	—
目的と概要		財団が組織する尾瀬ボランティアの活動を支援する。 木道栈木打ち、移入植物駆除、シカ柵設置・撤去、巡回清掃、入山口啓発、定点解説、ボランティアガイド「尾瀬自然解説ガイド」など、入山マナー啓発や保護に関する取組を行っている。		
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内＋周辺]		
	実施中	移入植物駆除、シカ柵撤去、巡回清掃		

4. 企業ボランティア活動支援				
実施主体		(公財) 尾瀬保護財団	連携先	関係企業
目的と概要		巡回清掃、自治体等が整備するシカ柵の設置・撤去などに際し、企業からボランティア参加者を募っている。		
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内＋周辺]		
	実施中	巡回清掃、シカ柵撤去作業		

○尾瀬ファンとの交流

- ・ 尾瀬関係者が尾瀬の価値を見なおし、再認識する機会として尾瀬ファンとの交流の場を設けます。

5. 尾瀬ファンとの交流				
実施主体		環境省	連携先	尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会
目的と概要		尾瀬国立公園はリピート率や利用者満足度の高い公園であり、利用者ニーズの把握に向けた取り組みが実施され始めているが、山小屋やガイド以外の関係者が利用者と交流して意見交換を行う場が少なかった。そうした背景をもとに、これからの「みんなの尾瀬」を作っていくために、利用者との交流の場を設ける。		
取組	状況	実施中	期間	単年（2021 年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（片品村役場会議室）		
	実施中	尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会を対象において、尾瀬ファンとの交流会を開催して、ファンたちとの交流を図った。		

(5) シビックプライド形成プログラム

- ・ 本取組テーマでは、尾瀬での共同作業の実施、尾瀬を学ぶ場の機会の充実に関する取組の2区分で、計6の取組を実施します。

○尾瀬での共同作業の実施

- ・ 尾瀬の自然環境を次代へ継承するために、ゼロカーボンの実現に向けた取組を行う。

1. 移入植物の駆除（オオハンゴンソウ、ハルザキヤマガラシ）				
実施主体		（公財）尾瀬保護財団		連携先
				尾瀬ボランティア、尾瀬ガイド協会、福島県、檜枝岐村、群馬県、片品村、環境省、会津森林管理署南会津支署など
目的と概要		特別保護地区を取り囲むエリアでは、車道沿いにおいて生態系に被害を及ぼすおそれのある移入植物の生育が確認されており、その対策を進める必要があることから、関係機関との連携のもと、特別保護地区を取り囲む登山口へ接続する車道沿いにおいて水際の侵入防止対策を行うことを目的とする。 具体的な種としては、オオハンゴンソウ及びハルザキヤマガラシについて対応を行う。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2014年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（小沢平登山口、津奈木一鳩待間の車道沿い、富士見下登山口手前の車道沿い ※いずれも国立公園特別保護区への接続域）		
	実施中	小沢平登山口に繁茂しているオオハンゴンソウについて、尾瀬ボランティア、尾瀬ガイド協会、福島県、檜枝岐村、環境省、会津森林管理署南会津支署などに御協力いただきながら駆除活動を継続中。 津奈木一鳩待間（ハルザキヤマガラシ）及び富士見下登山口手前（オオハンゴンソウ）については、これまでの駆除活動の結果、繁茂を抑制できているため、大人数での駆除活動は行わず今後も継続して経過観察を行う。		

○尾瀬を学ぶ場の機会の充実

- ・ 尾瀬に対する理解を深め、愛着や誇りを醸成するために、自然体験や学習を通して、尾瀬を知り、体験する機会を充実させます。

2. 子供たちに向けた国立公園の魅力発信と招待活動				
実施主体		尾瀬小屋	連携先	—
目的と概要		児童養護施設やフリースクールに通う子供たちに向けた国立公園の魅力発信と招待活動を行う。 【魅力発信】四季折々の景色や動植物の生態、山小屋の生業、国立公園が抱える環境問題や保護への課題など、映像や写真を通して生徒様向けの講演活動や学校イベントに積極的に参加。 【取組主旨】自身が児童養護施設で過ごした経験談や、不安定な心を登山や自然に身を置く事でコントロールしてきた経験談を公演。子供達の生活環境がハンデではないという事の意識付けや、過酷な環境下で働く先生たちの心のケアも含まれる。国立公園をリアルな教育現場そのものとし、五感で感じたものを日常生活に活かしてもらいたい。 【体験造成】蛍・夜行性動物・星空観察などのナイトハイク。山岳地での夜間行動という非日常体験を味わう。夕焼けや朝焼けの観賞とヨガや体操。日本が誇る景色を見ながら、体を動かす楽しさを学ぶ。歩荷体験。重たい荷物を背負ってみる事で、恵まれた環境で過ごしている事を実感してもらう。登山道整備。草刈りやゴミ拾いを通して、守られるべき自然やマナーを身に着ける。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬小屋）、尾瀬外（社会福祉法人、学校等） 情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施中	社会福祉法人、学校の視察誘致、学生誘致に向けた活動を実施。2021年は新型コロナによる誘致断念。		
	2022年度	サステイナビリティ学公演予定。 社会福祉法人、学校の視察誘致、学生誘致に向けた活動を実施予定。		

3. 「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進事業				
実施主体		「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進協議会（新潟県魚沼地域振興局、魚沼市、（一社）魚沼市観光協会）	連携先	新潟県教育委員会、新潟市教育委員会等
目的と概要		新潟県魚沼地域振興局では、尾瀬での自然体験と奥只見開発の歴史学習を通して子どもたちの豊かな心と自然との調和を図るたくましい実践力を育成するため、2009年度に小中学生向けの「魚沼から行く尾瀬」環境学習プログラムを作成した。「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進協議会は、県内（魚沼市を除く）小中学校での尾瀬を活用した環境学習の普及を推進している。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2009年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬沼他）		
	実施中	県内（魚沼市以外）の小学校1校が1泊2日で尾瀬沼に行き、自然体験学習を実施。		

4. 尾瀬ネイチャーガイド養成事業

実施主体		尾瀬ネイチャーガイド養成推進協議会（新潟県魚沼地域振興局、魚沼市、（一社）魚沼市観光協会）	連携先	奥只見郷ネイチャーガイド等
目的と概要		尾瀬⇄魚沼ルート利用者に対するガイド業務が継続的に行われるよう、後継者確保を目的に尾瀬ネイチャーガイドを養成する。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2017年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬沼他）、尾瀬外（魚沼市インフォメーションセンター）		
	実施中	尾瀬ネイチャーガイド養成講座を実施し、魚沼市内外から8名が受講。		

5. 尾瀬サスティナブルプラン（尾瀬シーズズスクール・尾瀬ネイチャーラーニング）

実施主体		群馬県	連携先	—
目的と概要		尾瀬の魅力を生かし、実社会での課題解決に生かす教科横断的な教育であるSTEAM教育を展開します。 ・尾瀬シーズズスクール：民間主体によるハイクオリティなSTEAM教育の事業化に向け、事業モデル（スキーム）を検討 ・尾瀬ネイチャーラーニング：入門的なSTEAM教育の題材として尾瀬を訪れた県内外の小中学校等にガイド代等を支援（補助）		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬国立公園内、小中学校等（事前学習・事後学習））		
	実施中	尾瀬シーズズスクール：2021年度は、モニター事業を実施した。 尾瀬ネイチャーラーニング：補助事業を実施した。		
	2022年度	継続予定		

6. 尾瀬環境学習推進

実施主体		群馬県	連携先	—
目的と概要		環境学習の場としての尾瀬の利用を促進するため、山の鼻ビジターセンターにおいて、展示や環境学習ミニガイドツアー及び尾瀬ネイチャーラーニングの受け入れ協力を実施するとともに、県内の小中学校や公民館等で移動尾瀬自然教室や出前講座を開催します。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2019年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬国立公園内）、尾瀬外（県内の小中学校、公民館等）		
	実施中	山の鼻ビジターセンターにおいて、展示や環境学習ミニガイドツアー 県内の小中学校や公民館等で移動尾瀬自然教室や出前講座		
	2022年度	継続予定		

(6) 脱炭素・循環型公園プログラム

- ・ 本取組テーマでは、ゼロカーボン実現に向けた取組、資源循環に関する取組の2区分で、計3の取組を実施します。

○ゼロカーボン実現に向けた取組

- ・ 尾瀬の自然環境を次代へ継承するために、ゼロカーボンの実現に向けた取組を行う。

1. 「尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク」アクションプログラム				
実施主体		東京電力ホールディングス株式会社、東京パワーテクノロジー(株)尾瀬林業事業所	連携先	片品村むらづくり観光課
目的と概要		環境省が登録認定を行う「ゼロカーボンパーク」を実効性を高めるため、2022年度～2030年度までの実行計画を策定。片品村が改訂を予定している「片品村地球温暖化防止実行計画」との連動により、尾瀬国立公園内の脱炭素化、および片品村村内の脱炭素化に向けたアクションプランプログラムの策定とPDCAを展開する。計画策定事務局は、片品村むらづくり観光課と東京電力ホールディングス株式会社 ESG 推進室の共同事務局により実施予定。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2022年～）
	場所	（尾瀬国立公園内、尾瀬の麓の集落）、尾瀬外（片品村内全域）、 情報媒体（Web：片品村、東京電力ホールディングス(株)、東京パワーテクノロジー(株)尾瀬林業事業所 他、実施主体）		
	実施中	尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク登録に向けた「脱炭素アクションプラン」を実施 ①【登録認定】尾瀬周辺市町村のゼロカーボンシティ宣言、尾瀬国立公園のゼロカーボンパーク宣言 ②【地産地消】尾瀬の木道にFSC認証を受けた地元カラマツ材使用 ③【リサイクル】尾瀬の木道リサイクルペーパーの積極的活用		
	2022年度	2022年度尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク実装に向けた「脱炭素アクションプラン」を実施 ①【尾瀬の役割認知度向上】本州最大の高層湿原による炭素固定吸収の役割、地球温暖化が及ぼす尾瀬への影響 ②【電化、EV普及啓発】会津高原尾瀬口～御池でもEVバス運行、レンタサイクルをe-bike化と充電ステーション設置 ③【リサイクル】山小屋での地元食材を使った料理提供（フードマイレージ）、マイバック・マイボトルの普及啓発、モバイルバッテリーレンタルサービス		
	2023年度	2023年度尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク実装に向けた「脱炭素アクションプラン」を実施 ①【山小屋の脱炭素化】高効率給湯器（エコキュート）導入、LED導入、鳩待山荘建替工事開始（再エネ電化）食事・お土産物の脱プラスチックへの取り組みを加速 ②【村内の脱炭素化、再エネ導入】尾瀬片品小水力発電所の運転開始、移住定住促進住宅基本計画策定		
目標値	期限	いつまでに	2022年度までに	2023年度までに
	項目	何を	①、②、③のすべてを	①、②、③のすべてを
	数値	（どうするか）	実施する（実施率100%）	実施する（実施率100%）

2. ゼロカーボンシティ表明とゼロカーボンパークの登録				
実施主体		片品村	連携先	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所
目的と概要		2022 年 2 月 22 日に表明した、温室効果ガス排出量ゼロを目指すゼロカーボンシティ「片品村 5 つのゼロ宣言 2050」に基づき、具体的な取組を推進していく。		
取組	状況	実施中	期間	単年（2021 年～）
	実施中	国立公園内における電気自動車の活用や利用施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消等の取組を進め 脱プラスチックも含めて脱炭素 の観光地を目指すため、ゼロカーボンパーク登録を行う（登録関係書類提出済み）。		

○資源循環に関する取組

- ・ 尾瀬の自然環境への負荷を低減するために、循環的な利用を促進するための取組を行う。

3. 鹿の食害問題の訴求				
実施主体		尾瀬小屋	連携先	—
目的と概要		尾瀬小屋は、「食べる」というアクションを通して、国立公園が抱える鹿の食害問題を訴していく。 ・ 尾瀬を身近に想う方々の間では、ミズバショウやニッコウキスゲがなければ、尾瀬が尾瀬でなくなってしまうという危機感が高まる半面、尾瀬を守るために奪われた鹿の命がある事、その鹿の命を大切に活かし、人の暮らしの中で役立て、命の尊さを感じてほしい。 ・ 尾瀬の鹿は利活用される事なく食用として提供する事も叶わない状況にあるが、人間が山を楽しむ背景にはこうした命のやり取りがある事を伝えるべく、尾瀬小屋はあえて出荷制限が解除された鹿を尾瀬で「食べる」事を実現し、尾瀬鹿の食害問題を訴求する。		
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬小屋）、 情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter 、Facebook、YouTube）		
	2022 年度	鹿の食害問題を利用者に知ってもらうための方法を検討し、実践する。		

7. 進捗状況評価と必要に応じた利用 AP の改訂

本行動プランは、策定後に利用促進に関わる新たな会議体にて尾瀬の利用に関わる各主体が情報共有を図りながら各取組をそれぞれで実施します。

（１）進捗状況の評価

- ・ 社会・経済環境の変化や利用状況の変化に対して、順応的な管理が行えるよう、毎年、取組毎に進捗状況やその効果と、KPI の達成状況について定期的に評価・検証を行います。
- ・ その評価を踏まえて、その後の取組や KPI を随時、改善します。

（２）必要に応じた利用 AP の改訂

- ・ 利用 AP の見直しに当たっては、取組（プログラム）の実施状況や新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえながら、利用状況及び利用動態等に関するモニタリング情報等を反映し、利用状況や自然環境、社会状況の変化に対応した、順応的な改訂を図ります。

以上

尾瀬における携帯電話等の通信環境の整備について

<経緯>

平成 28 年度：KDDI (株)からの相談を受け、尾瀬国立公園協議会において山小屋等の室内及びその周辺に限り、携帯電話等の通信環境を整備することについて合意

平成 29 年度：KDDI (株)プレ運用及びモニタリング調査開始

平成 30 年度：KDDI (株)本格運用開始

令和 2 年度：(株)ドコモ CS 及びソフトバンク (株)より参入に向けた相談

令和 3 年度：楽天モバイル (株)より参入に向けた相談

<整備内容>

- ・(株)ドコモ CS：KDDI (株)と同様の規模での整備
- ・ソフトバンク (株)：至仏山荘内及び尾瀬沼地区での整備
- ・楽天モバイル (株)：見晴地区及び尾瀬沼地区での整備

<今後の対応について>

○(株)ドコモ及びソフトバンク (株)の至仏山荘内の整備内容は、平成 28 年度に合意された内容に沿った整備であることから、KDDI (株)と同様に、自然公園法の手続きを進めたい。

○ソフトバンク (株)の尾瀬沼地区での整備及び楽天モバイル (株)の整備内容については、平成 28 年度に合意された内容に沿った整備とするよう指導していく。

○KDDI (株)のモニタリングによって指摘のあった使用可能エリアの周知や山小屋等における充電マナー等の課題については、自然公園法の手続きに際し、環境省から通信各社に周知するとともに、関係者が連携してその対策に努めたい。

尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会 設置要綱

(名称)

第1条 本会は、尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会（以下「小委員会」という）と称する。

(目的)

第2条 小委員会は、尾瀬国立公園の魅力向上と「保護と利用の好循環」の実現に向けた尾瀬国立公園利用アクションプラン（以下「AP」という）の検討を行うことを目的とする。

(所掌事項)

第3条 小委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) APの検討に関すること。
- (2) その他前条の目的を達成するために必要な事項。

(構成)

第3条 小委員会は、委員長及び委員をもって構成する。

- 2 委員長は、関東地方環境事務所国立公園課長の職にある者をもって充てる。
- 3 委員は、別表の職にある者をもって充てる。

(運営)

第5条 小委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員長は、必要に応じて小委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。
- 3 委員長は、必要に応じて小委員会のもとにワーキンググループを設置することができる。

(議事等の公開)

第6条 小委員会の議事については、議事要旨を公開するものとする。

- 2 小委員会及びその配布資料については、原則として公開とするが、委員長の判断でその全部または一部を非公開とすることができる。

(事務局)

第7条 小委員会の事務局は、関東地方環境事務所国立公園課に置く。

附 則 この要綱は、令和3年7月27日から施行する。
この要綱は、令和3年12月2日から施行する。

尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会 委員

所属	役職
(委員長) 関東地方環境事務所 国立公園課	課長
福島県 生活環境部 環境共生総室 自然保護課	課長
福島県 観光交流局 観光交流課	課長
群馬県 環境森林部 自然環境課	課長
群馬県 産業経済部戦略セールス局 観光魅力創出課	課長
新潟県 県民生活・環境部 環境企画課	課長
新潟県 観光局 観光企画課	課長
檜枝岐村 観光課	課長
南会津町 環境水道課	課長
片品村 むらづくり観光課	課長
魚沼市 観光課	課長
南会津町観光物産協会舘岩支部	事務局長
片品村観光協会	事務局長
魚沼市観光協会	事務局長
尾瀬山小屋組合	組合長
尾瀬山小屋組合	副組合長
東京パワーテクノロジー株式会社	尾瀬林業事業所長
尾瀬ガイド協会	福島支部長
尾瀬ガイド協会	群馬支部長
尾瀬ガイド協会	新潟支部長
公益財団法人 尾瀬保護財団	事務局長

1. 調査目的

尾瀬国立公園利用者の満足度と旅行消費額等の把握

2. 調査方法

- ① 主要登山口におけるアンケート調査票の配布
- ② 山小屋内におけるアンケート調査票の設置
- ③ 財団HPを通じた回答（Googleフォームによる回答）

3. 調査期間

- ① 2021年 7/16(金)～11/15(月)
 - － 配布日 …7/17-18(土・日), 8/8-9(日・月祝), 10/2-3(土・日)
 - － 配布場所 …鳩待峠, 大清水, 御池
- ② 2021年 6/30(金)～10/30(土)
- ③ 2021年 7/16(金)～11/15(月)

4. 調査実施者

環境省, 尾瀬保護財団（協力：東京大学）

5. 集計数

- ① 2,156通 ② 249通 ③ 105通

令和4年2月9日

令和3年度 尾瀬国立公園の入山者数について

環境省では、尾瀬国立公園の入山者数を把握するため、主要な入山口に登山者カウンターを設置して、入山者数の調査を行っています。

令和3年5月～10月の入山者数の合計は、約11万4千人でした。

1. 目的

環境省では、尾瀬国立公園の入山者数の経年変化を把握し、国立公園の適正な利用に資するため、平成元年度から主要な入山口に赤外線カウンターを設置し、入山者数の調査を行っています。

2. 方法

令和3年度は、尾瀬国立公園の9か所の入山口（沼山口、御池口、大清水口、鳩待口（尾瀬ヶ原方面、至仏山方面、アヤマ平方面）、滝沢口、猿倉口、馬坂口）に、赤外線カウンターを設置して調査を行いました。

なお、赤外線カウンターの数値は霧などによる誤作動と考えられるデータを削除した上で集計しています※。また、赤外線カウンターの設置期間や設置数は、年度によって異なっているため、過年度の入山者数と単純な比較ができない点についてご留意ください。

※ 一般的に、赤外線カウンターは、利用者が集中するところでは実際よりも少なくカウントされ、濃い霧などが発生した場合は誤作動で実際より多くカウントされることがわかっています。

3. 結果

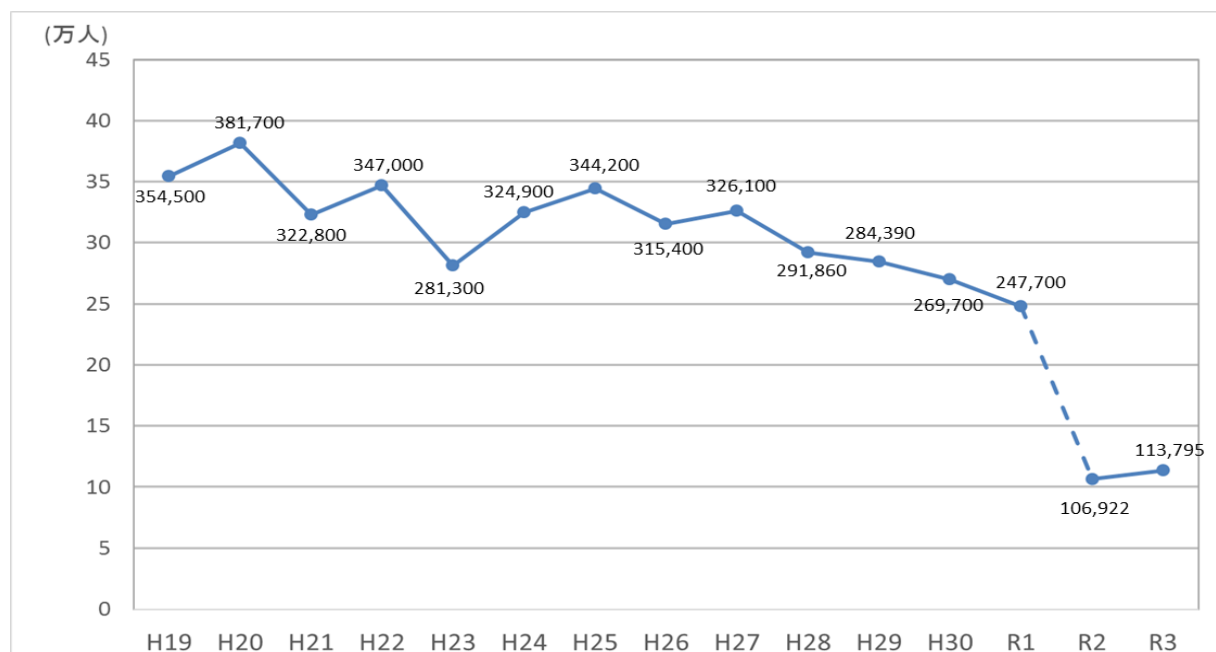
令和3年度の尾瀬国立公園の9か所の入山口（沼山口、御池口、大清水口、鳩待口（尾瀬ヶ原方面、至仏山方面、アヤマ平方面）、滝沢口、猿倉口、馬坂口）の入山者数の合計は、113,795人でした。

最も入山者数が多かった月は、7月の29,288人で、次いで10月の23,630人でした。

また、最も入山者数が多かった入山口は、鳩待口（尾瀬ヶ原方面）の54,377人で、次いで沼山口の16,413人でした。

表 尾瀬国立公園の入山口ごとの月別入山者数（令和3年5月～10月）

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
沼山口	508	2,866	5,464	2,352	2,530	2,693	16,413
御池口	794	1,052	2,940	1,944	2,283	2,419	11,432
大清水口	419	1,162	2,637	1,528	1,521	1,772	9,039
鳩待口 (尾瀬ヶ原方面)	5,112	9,231	12,011	7,287	8,730	12,006	54,377
鳩待口 (至仏山方面)	—	—	1,650	885	880	1,111	4,526
鳩待口 (アヤマメ平方面)	228	803	1,074	697	955	1,082	4,839
滝沢口	282	505	2,454	1,772	1,821	2,043	8,877
猿倉口	—	1,035	735	316	315	375	2,776
馬坂口	—	767	323	152	145	129	1,516
計	7,343	17,421	29,288	16,933	19,180	23,630	113,795



注：令和元年度までは、赤外線カウンターの数値を周辺施設の利用者数等を用いて一部補正した上で集計。
令和2年度以降は、赤外線カウンターの数値を補正せずに集計。

図 尾瀬国立公園の入山者数の推移（参考）

添付資料

- ・ 赤外線カウンター設置位置及び計測期間

環境省 関東地方環境事務所

国立公園課長：井上 綾子

<問合せ先>

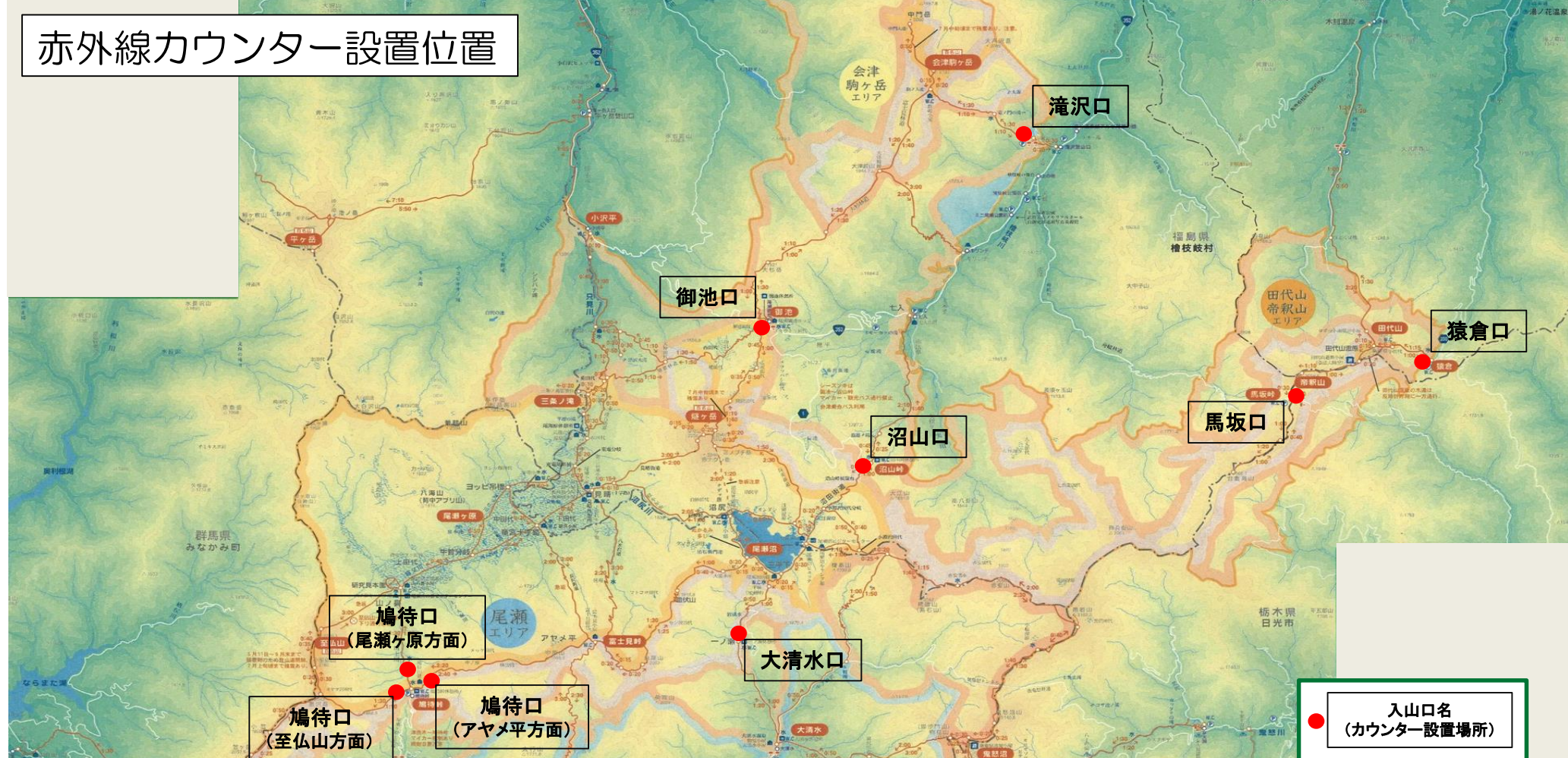
片品自然保護官事務所（群馬県域）

担当：石井 桃花（Tel：0278-58-9145）

檜枝岐自然保護官事務所（福島県域）

担当：桑原 大（Tel：0241-75-7301）

赤外線カウンター設置位置



赤外線カウンター計測期間

年度	沼山口		御池口		大清水口		鳩待口(尾瀬ヶ原方面)		鳩待口(至仏山方面)		鳩待口(アヤマメ平方面)		滝沢口		猿倉口		馬坂口	
	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日
平成19年	5/19	10/31	5/18	10/31	5/24	10/22	5/17	10/31	7/1	10/31	5/17	10/31	—	—	—	—	—	—
平成20年	5/23	10/31	5/24	10/31	5/29	10/22	5/23	10/31	7/1	10/31	5/23	10/31	6/1	10/31	5/28	10/31	6/12	10/31
平成21年	5/25	10/31	5/24	10/31	5/25	10/23	5/26	11/2	6/3	11/2	6/9	11/2	5/26	10/31	5/28	10/31	5/30	10/31
平成22年	5/25	10/31	5/21	10/31	5/25	10/26	5/20	10/31	7/1	10/31	5/20	10/31	5/28	10/31	6/9	10/31	6/9	10/31
平成23年	5/25	10/31	5/24	10/31	5/23	10/24	5/25	11/1	7/1	11/1	5/25	11/1	5/24	10/31	6/7	10/31	6/7	10/31
平成24年	5/25	10/31	5/15	10/31	5/24	10/21	6/1	11/1	7/1	10/31	6/1	11/1	5/15	10/31	6/6	10/31	6/6	10/31
平成25年	5/21	10/31	5/21	10/31	5/16	10/31	5/17	10/31	5/21	10/31	5/16	10/31	5/21	10/31	6/6	10/31	6/6	10/31
平成26年	5/19	10/31	5/19	10/31	5/21	10/31	5/21	10/31	7/1	10/31	5/21	10/31	5/19	10/31	6/1	10/31	6/1	10/31
平成27年	5/17	10/31	5/17	10/31	5/21	10/31	5/21	10/31	7/1	10/31	5/21	10/31	5/28	10/31	6/20	10/31	6/8	10/31
平成28年	4/27	10/31	4/27	10/31	5/21	10/31	5/21	10/31	7/1	10/31	5/21	10/31	5/18	10/31	6/7	10/31	5/24	10/31
平成29年	5/24	10/31	5/24	10/31	5/19	10/31	5/19	10/31	7/1	10/31	5/19	10/31	5/25	10/31	6/10	10/31	6/6	10/31
平成30年	5/8	10/31	5/8	10/31	5/19	10/31	5/19	10/31	6/30	10/31	5/19	10/31	4/28	10/31	6/9	10/31	5/28	10/31
令和元年	5/20	10/31	5/21	10/31	5/19	10/31	5/19	10/31	7/1	10/31	5/19	10/31	5/14	10/31	6/7	10/31	6/7	10/31
令和2年	7/1	10/31	7/1	10/31	5/19	10/31	5/19	10/31	7/1	10/31	5/19	10/31	7/1	10/31	8/7	10/31	—	—
令和3年	5/25	10/31	5/1	10/31	5/19	10/31	5/19	10/31	7/1	10/31	5/19	10/31	5/8	10/31	6/11	10/31	5/31	10/18